

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

2021 年度 報告書

Japanese Language Class Annual Report

2021.4-2022.3

*Japanese Language Class
School of Engineering
The University of Tokyo*

はじめに

世界に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、人々の価値観や行動様式までも変化させ、留学生教育、国際交流に多大な影響を与えた。2021年5月1日時点で外国人留学生は24万2,447人で、前年度から37,153人（13.3%）減少している。日本語教育機関は約2万人、高等教育機関は約6千人減少した。その詳細を見ると、日本の大学は学位取得型留学生が増加する一方で、非学位取得型留学生が大幅に減少している。詳細は2章で述べるが、当日本語教室は、大学院の交換留学生の受入れを中止したにも関わらず、昨年度と比較し、受講者が実数で110名増加し、博士と修士の学位取得型の留学生は85%を占めた。ただし、渡航制限があったため、2021年10月の時点で受講者の約6割が海外からの受講だった。このような状況下、2021年度もオンライン環境において質の高い日本語教育を目指した。2年目のオンライン授業は、昨年の大転換から時間が経過し、コンテンツも蓄積され、ICTを活用した新しい授業形態の有用性が顕在化した。同時に、入国が困難な留学生、日本に滞在していてもキャンパスに通えない留学生への日本語教育が目指すものは何か、日本語教育そのもののあり方を問い直す契機となった。ここで、2021年度の当教室の実践を経て、ポストコロナ期における日本語教育について検討する。

まず、日本語教育の理念である。当教室は工学系研究科に属し、主に大学院生を対象とした日本語教育を実施している。今年度、海外から受講していた学生は、実験などがキャンパスで実施できない、論文を書く自信がないなど、葛藤や不安を抱えていた。不確実性が高まる中、ポストコロナ期の日本語教育は、言語教育の射程を広げ、留学生個人と社会全体のウェルビーイング（wellbeing）の実現を目指したものが求められるのではないだろうか。ウェルビーイングとは「幸せ」や「満足感」などと訳され、心配や不安なことがなく、幸せに生活できることを意味する。これは『人々の幸せにつながる』『社会の役に立つ』『社会の福利に資する』『言語コミュニケーション』（徳川 1999）¹というウェルフェアな視点を持つことばの教育と合致する。学習者主体の視点を強く意識した教育活動を展開していくことが重要であり、多様なニーズにもこたえていくことが肝要であろう。

次に、日本語教育の方法である。Society5.0 時代に向け、ICT の活用は、教育の新たな可能性を拓き、ポストコロナ期の学びにおいても効果的な手段となり得るだろう。一方、学生同士が集い、出会いと対話の場である対面授業の重要性を実感している。対面授業かオンライン授業かという二項対立ではなく、双方の良さを最大限に生かすことが重要だと考える。

本報告書は 2021 年度の工学系研究科日本語教室の授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にすることにより、さらに充実した日本語教育の実施を目指すことを目的に作成した。また、平素より工学系研究科日本語教室へのご理解、ご支援を頂いている皆様にここに感謝の意を表す。

2022 年 3 月

工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門 古市由美子

¹ 徳川宗賢（1999）「ウェルフェア・リングイステイクスの出発」『社会言語科学』Vol.2, No.1, 89-100

目 次

はじめに

第1章 日本語教室の概要	1
1.1 運営と目的	1
1.2 受講対象者および教職員	2
1.3 学内日本語教育関連組織との連携	3
1.4 年間スケジュール	5
第2章 日本語教育の実践と運営	6
2.1 概要	6
2.2 コースデザインの特徴	7
2.3 コースの履修プロセス	9
2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告	9
2.5 受講者と修了者	100
2.6 日本語教室のコース評価	112
2.7 言語使用実態調査	125
第3章 日本文化事情・文化体験	133
3.1 S1S2 日本文化体験	133
3.2 A1A2 日本文化体験	133
第4章 国際交流支援	134
4.1 学生授業ボランティア	134
4.2 多言語交流会 International Lounge	139
第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携	143
5.1 海外体験活動	143
5.2 米国世界展開強化事業	145
第6章 研究活動・教材作成	151
6.1 日本語教室関連の研究活動と成果	151
6.2 日本語教育の専門分野における実践・研究	152
6.3 日本語教室関連の教材作成	152
第7章 今後の課題	153
7.1 日本語教育および日本文化事情教育	153
7.2 留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進	154
7.3 実践研究および教材開発	154

巻末資料

2021 年度 S1S2/A1A2 工学系研究科日本語教室 概要・時間割	155
受講者・修了者データ	163
Can Do Statements	171
言語背景調査シート・コース評価シート・on-line コースアンケートシート	172
ポスター（学生授業ボランティア、International Lounge）	177

第1章 日本語教室の概要

1.1 運営と目的

工学系研究科日本語教室は 1981 年に設置され、2011 年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。2020 年 4 月、国際工学教育推進機構の組織変更があり、日本語教室は国際教育部門に配置された。現在、中野義昭教授の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。日本語科目は、2015 年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。

日本語教室は、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の双方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。当日本語教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標とするのに加え、本教室で日本語を学ぶ場が留学生の居場所になるだけでなく、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場になることも目指している。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、対面ではなく、オンラインを通じての言語教育や交流の場を提供することとなった。

以下の5つは、本日本語教室が目指す具体的な目標である。

- 1 留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
- 2 留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
- 3 留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
- 4 国際化推進の一環としての本人学生の国際化教育
- 5 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.

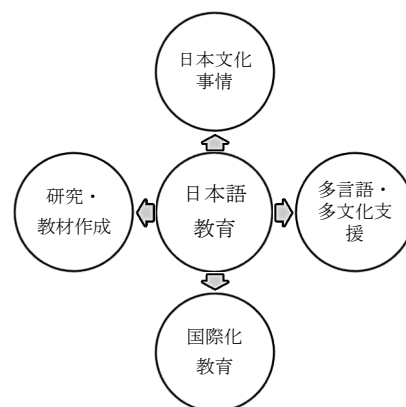


図1 日本語教室の目的

4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of internationalization.
5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

1.2 受講対象者および教職員

当日本語教室の対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。2014 年度から全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始、また、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も受け入れている。

日本語教室の教職員は、現在教授1名、特任准教授1名、特任助教2名、非常勤講師11名、職員2名である。（各職位の氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：牛山和子

特任助教：岡葉子、金瑜眞

非常勤講師：猪狩美保・内田あゆみ・大西由美・片岡さゆり・米谷章子・佐藤瑞恵・

藤井明子・中村亜美・ハワード文江・宮瀬真理・山口真紀

職員：早坂美和子・山畑めぐみ

1.3 学内日本語教育関連組織との連携

1.3.1 東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学では 3 つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている（図 2 参照）。

本郷キャンパスでは、日本語教育センター、工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。日本語教育センターは、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。工学系研究科・工学部、人文社会学系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

工学系研究科内には、当教室のほかに、4 つの専攻日本語教室がある。当日本語教室は工学系研究科、情理工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP(全学交換留学生)、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室（1982 年）、都市工学日本語教室（1987 年）、システム創成系日本語教室（1989 年）、IME 大学院特別コース（2001 年）の 4 つで、各々が独立し、日本語教育を行っている。

駒場 I キャンパスでは、①PEAK（専門を主に英語で学ぶ正規課程プログラム）、②KOMSTEP（総合文化研究科・教養学部交換留学）と USTEP(全学交換留学)、③前期課程日本語（専門を主に日本語で学ぶ正規課程生の基礎（外国語科目）、④補講（単位取得のできないコース）の日本語科目が提供されており、駒場 II キャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で日本語コースを開講している。

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室で日本語プログラムが提供されている。

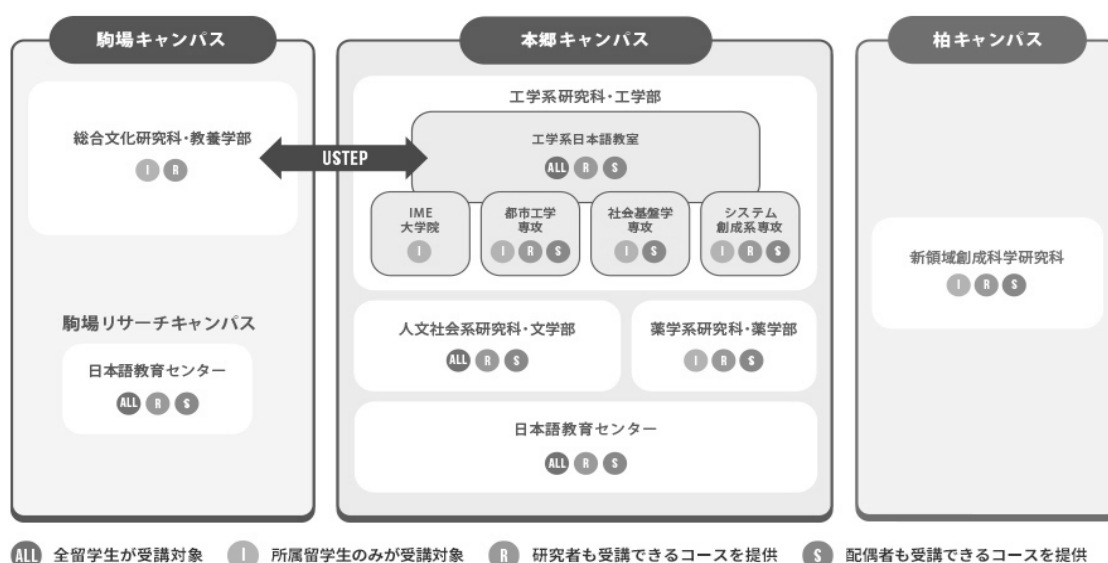


図 2 東京大学の日本語教育の概要 (<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jle/ja/index.html>)

1.3.2 東京大学内および工学系研究科内日本語教室との連携

2021年3月5日に第20回工学系研究科日本語教室年次報告会をオンラインで実施した。当教室及び4つの専攻日本語教室は、カリキュラム、活動内容、課題などについて報告を行った。今年度は主にオンライン授業における課題とその解決について質疑が行われた。2017年度から都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室が STAR (Student Tools for Access and Review) を共有することによって、3教室のレベルが統一され、定員内であれば他専攻の学生も受け入れることができるようになった。また、当教室とシステム創成系日本語教室、社会基盤学日本語教室が初級テキストを同一にすることによって、教室間の学生移動が容易になった。今後も年次報告会などで議論を重ね、教室間の交流と連携を強化していきたい。

1.4 年間スケジュール

2021 年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2021 年]

- 4 月 S1S2 学期授業開始《オンライン》（4 月 5 日-7 月 30 日）
授業ボランティア受け入れ
- 5 月 第 1 回工学系研究科日本語教室連絡会 《オンライン》
- 6 月 S2 入門コース開始《オンライン》（6 月 8 日-7 月 30 日）
- 7 月 第 2 回工学系研究科日本語教室連絡会《オンライン》
S1S2 授業終了
- 8 月 工学系研究科日本語教室教師会《オンライン》
就職支援短期集中講座（留学生就職促進プログラム）
2021 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始
- 9 月 A1A2 学期授業開始《オンライン》（10 月 4 日-1 月 28 日）
ビジターセッション集中コース実施（3 回）《オンライン》
- 10 月 新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
体験活動授業ボランティア受け入れ
- 11 月 A2 入門コース開始《オンライン》（11 月 30 日-1 月 28 日）
第 3 回工学系研究科日本語教室連絡会《オンライン》
- 12 月 冬休み（12 月 28 日-1 月 3 日）

[2022 年]

- 1 月 A1A2 授業終了
工学系研究科日本語教室教師会《オンライン》
- 2 月 カリフォルニア工科大学 COIL 型教育の実施(2 月 10 日-3 月 24 日)
就職支援短期集中講座（留学生就職促進プログラム）
スウェーデン王立工科大学体験活動（オンラインで実施 1 月 24 日-2 月 25 日）
ビジターセッション集中コース実施（3 回）《オンライン》
- 3 月 第 20 回工学系研究科日本語教育年次報告会
2022 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始（STAR システム開始）

第2章 日本語教育の実践と運営

2.1 概要

日本語科目は、留学生を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。

レベルは、初級1から上級2まで7レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト¹、日本組織事情）がある。

開講日程は、工学系研究科と同様で、4月からS1S2（14週間）、9月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載されている（<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>）。

授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。

日本語教室のオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S室である。当教室は、8号館第一講義室（123号室）に加え、2階88M室、88L室で授業を行っている。また、324室（B,C）、701室、722室を借用している。さらに、第一会議室（132号室）、第二会議室（130号室）も、必要に応じて教室として使用しているが、学期を通して使用できないという制限がある。

2021年度は新型コロナウイルスの影響により、昨年度に続き、オンラインビデオ会議アプリケーションであるZoomを用いて授業を全てオンラインで実施したほか、オフィスZoomを運用し、オンライン上で学生対応やコンサルテーション等を行った。

表1 工学系日本語教室 レベル別コース

スキル レベル	総合			聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ						
初級Ⅰ	初級 1 (3)	インテンシブ 初級Ⅰ (5)	* 入門 (3)					
	初級 2 (2)							
初級Ⅱ	初級 3 (2)	インテンシブ 初級Ⅱ (4)						
	初級 4 (2)							
中級 1	総合(2)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	
中級 2	総合(1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	専門語彙・ 漢字(1)
中級 3	総合(1)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	多文化理解 プロジェクト(1)

¹ 「多文化理解プロジェクト」は、日本人学生も例外的に受け入れて留学生と日本人学生で協働的学習を進めてきたが、2020年度以降は、新型コロナウイルスの影響により開講していない。

上級	総合(1)		聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	日本組織事情 (1)
上級2	総合(1)			会話 (1)		文章 (1)	

* 入門はS2/A2に開講 () 内はコマ数

2.2 コースデザインの特徴

当日本語教室では、レギュラーコースのほか、インテンシブコースや入門コースなど、多様な初級コースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の授業や実験に平行して出席できるよう、コース選択にバリエーションを持たせて時間割を設定している。以下に、日本語科目の特長をまとめた。

(1) バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。

- ・レギュラーコース : 週2回 全2コマ (初級1は全3コマ)
- ・インテンシブ初級Ⅰコース : 週3回 全5コマの集中コース
- ・インテンシブ初級Ⅱコース : 週2回 全4コマの集中コース
- ・入門コース : S2/A2 から開始する週2回 全3コマ

レギュラーコースは、初級1、2、3、4に分かれており、修士・博士の学生が専門科目との両立を目指しながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級Ⅰはレギュラーコースの初級1と2の内容、インテンシブ初級Ⅱは、レギュラーコースの初級3と4の内容をS1S2/A1A2で修了する。入門コースはS2およびA2に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを設け、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるよう工夫している。

(2) スキル別の中級・上級日本語コース

中級1～3および上級レベルは、総合コースの他、聴解、会話、読解、文章のコースを1コマずつ設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別により、多忙な留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択的に受講することができるようになっている。上級レベルについては、以前より課題として指摘されていた中級3を修了した学生と新規に上級レベルと判断された学生とのレベル差に対応

するために、2020 年度 S1S2 に上級 2 を新設²し、2019 年度までの上級は上級 1 に変更した。

(3) 工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事に基づいた東京大学オリジナルのオンライン読解教材を大学総合教育研究センターと共同で開発した。この教材は東京大学の研究内容に関する文章の読解、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級 2 専門語彙・漢字」では、コーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙、漢字教育を行っている。「中級 3 専門読解」では、中級 1 専門読解と同様に、『Ttime!』の記事をもとに作成した工学系の研究内容に関する文章を読み、専門分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

(4) 多文化理解教育

中級 3 レベル以上を対象とする「多文化理解プロジェクト」では、多様な背景を持つ留学生がそれぞれの文化などを発信する「多文化理解ワークショップ」を日本の小学校・中学校で実施することで、地域社会に対する文化理解に貢献している。この多文化理解プロジェクトは、学部・大学院の共通科目として開講され、留学生だけでなく日本人学生も履修し、単位が取得できる。2021 年度は、新型コロナウイルスの影響により、昨年度に続き、開講しなかった。

(5) 就職支援

「日本組織事情」は、日本で就職を希望する留学生を対象とし、ビジネスマナーや就職活動のための知識や実践力を養うものである。優秀な外国人人材が日本の産業界などで活躍できる道が広がることが期待できる。日本企業のグローバル化や経済の活性化など社会的な波及効果が見込まれる。

² 2020 年度より、上級 2 の総合、会話、文章コースを開講した。その準備として、2019A1A2 では、これらの 3 コースの 2 セクションにレベル差をつけて実施した。

2.3 コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR（Student Tools for Access and Review）システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレースメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能のため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーション・ガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。その一方で、履修登録をした留学生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留学生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として、生け花や茶道体験、着付け体験などの文化的なイベントの企画と開催、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッションやInternational Lounge（IL）、日本人学生の授業ボランティアとしてのクラス参加など、日本人と留学生の交流支援を行う。2021年度は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインで実施した。

開講期間終了後、単位を必要とせず、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、今年度実施した各コースの実践とシラバスおよびチュートリアル³について報告する。

³日本語教室では、2015年度より、週に1回（一人45分）「チュートリアルセッション」の時間を設け、授業内容の復習や研究計画書・エントリーシート等の添削など、授業では対応できない個々のニーズに合わせた日本語学習支援を行っている。2020年度、2021年度は、夏休みと冬休みのそれぞれにおいて約2週間に渡り「チュートリアルセッション」を実施した。

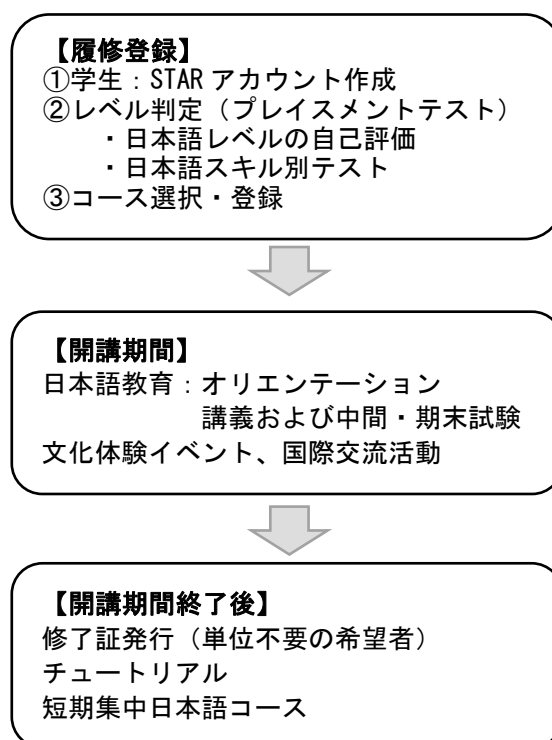


図1 コース履修のプロセス

入門

2021年度S1S2

レベル	: 入門
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 06/ 08 - 2021/ 07/ 30
時間	: 13:00 - 14:45 火曜日 14:55 - 16:40 火曜日 13:00 - 14:45 木曜日
場所	: Zoom
学習目標	: 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 カタカナ、ひらがなの認識ができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
テキスト	: 『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク) まるごと プラス Learning Japanese https://a1.marugotoweb.jp/en/index.php
評価	: 教室活動5%、課題15%、かなクイズ10%、語彙クイズ10%、中間試験20%、学期末試験25%、学期末口頭発表15% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位3認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-901-1, 学部FEN-JL4m01L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom address: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 8	火	オリエンテーション, 語彙クイズL1, L1, カタカナ (ア～サ行)
2	6/ 8	火	L1
3	6/ 10	木	L2, 語彙クイズL2締め切り, カタカナ (タ～ハ行)
4	6/ 15	火	L3, 語彙クイズL3 締め切り カタカナ (マ～ワ行)
5	6/ 15	火	L4(p.45まで)
6	6/ 17	木	L4(p.46から), 語彙クイズ L4 締め切り, カタカナ (特殊音), 課題1配布
7	6/ 22	火	L5, 語彙クイズL5 締め切り, カタカナ復習, 課題1締切、課題2配布
8	6/ 22	火	L1-L5 復習
9	6/ 24	木	中間試験, カタカナクイズ, 課題2締切
10	6/ 29	火	L6, 語彙クイズ L6&L7 締め切り, ひらがな (あ～さ行), 課題3配布
11	6/ 29	火	L7
12	7/ 1	木	L8, 語彙クイズ L8 締め切り, ひらがな (た～は行), 課題3締切
13	7/ 6	火	L9, 語彙クイズ L9&L11締め切り, ひらがな (ま～わ行), 課題4配布
14	7/ 6	火	L11(p.113まで)

15	7/ 8	木	L12, 語彙クイズL12 締め切り, ひらがな（特殊音）, 課題4締め切り,課題5配布
16	7/ 13	火	L13, 語彙クイズL13 締め切り, ひらがな（復習）, 課題5締切
17	7/ 13	火	学期末口頭発表準備(Intro, Title)
18	7/ 15	木	L14, 語彙クイズ L14 締め切り, ひらがなクイズ, 学期末口頭発表 first draft 締め切り
19	7/ 20	火	期末試験
20	7/ 20	火	学期末口頭発表 first draft Feedback 返却、発表準備(Final draft re-write, PPT, Rehearsal)
21	7/ 22	木	祝日
22	7/ 27	火	休講
23	7/ 27	火	休講
24	7/ 29	木	学期末口頭発表, Final Presentation Final draft締め切り

入門

報告者：金 瑜眞・山口 真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

このコースは、日本語ゼロ初級の学習者、特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュール及び日本語レベルや進捗の関係で初級1コースの履修が難しい学習者を対象に、日常生活において必要な表現・語彙を習得することを目的としている。今年度は、6月8日に開講し、週3コマ、7週間の授業を行った。教科書は『はかせ1』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に 1) 新出語彙の導入、2) 文型の導入、3) 会話練習などによる応用練習の流れで行った。

【授業の内容】

7週間という短い授業期間のため、『はかせ1』のL1～9及びL11～14を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着を図った。使用教科書はローマ字が併記されているものであったが、文字において、カタカナとひらがなの導入を行い、基本的な文字習得ができるように指導した。導入が終わった時点で、カタカナとひらがなのクイズをそれぞれ実施し、文字の定着を図った。

2. その他

本コースでは、上記のカタカナ・ひらがなクイズに加え、中間試験、期末試験、語彙クイズ、課題、期末口頭発表も評価に入れた。語彙クイズは予習型にし、各課の導入前に学生が語彙を勉強し、オンライン上のリンクにアクセスしてクイズを受けることにした。課題は学期を通して5回、宿題としてプリントを配布した。具体的には、学習者が文字に親しみを持てるよう、レストランのメニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用し作文を書く「日記」などを課題とした。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、昨年度に続く新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、交換留学生などの短期滞在の学生数が減少したことにより、受講者は1名のみであったが、毎回の授業に熱心に取り組む、無事コースを修了することができた。受講者は、授業内の活動や授業外の課題にも意欲的に取り組み、初級初期における基礎的な日本語能力を十分に身につけることができたと考える。また、学生の来日が難しいことから、昨年度に続き、Zoomを使用したリアルタイムの授業とオンライン上の学習教材などを活用した授業を行った。今後も、これまでのオンライン授業における教育実践の蓄積を生かして、授業の質向上に取り組みたい。

インテンシブ初級Ⅰ

2021年度S1S2

レベル	: 初級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 火曜日 08:30 - 10:15 水曜日 10:25 - 12:10 水曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: ZOOM
学習目標	: 入門レベルから初級前半(L1-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を110字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』(アスク) *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、かなクイズ3%、文法クイズ10%、作文課題・中間発表12%、聴解課題5%、録音課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位10認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-910-1、学部 FEN-JL4m12L1。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom address: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari, 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	オリエンテーション, はじめましょう, Japanese Writing System、ひらがな1 (あ・か・さ・が・ざ).
2	4/ 6	火	L1, 語彙クイズL1
3	4/ 7	水	L2, 語彙クイズL2, ひらがな2 (た・な・は・だ・ば・ぼ)
4	4/ 7	水	L2
5	4/ 9	金	応用練習 (L1&L2)
6	4/ 13	火	L3, 語彙クイズL3, ひらがな3 (ま・や・ら・わ・ん)
7	4/ 13	火	L3
8	4/ 14	水	L4, 語彙クイズL4, ひらがな4 (拗音、長音、撥音、促音), 聴解課題①
9	4/ 14	水	L4

10	4/ 16	金	応用練習 (L3&L4), ひらがな1-4まとめ
11	4/ 20	火	L5, 語彙クイズL5, カタカナ1 (ア・カ・サ・ガ・ザ) , ひらがなクイズ, 録音課題① 配付(4/27締め切り)
12	4/ 20	火	L5
13	4/ 21	水	L6, 語彙クイズL6, カタカナ2 (タ・ダ・ナ・ハ・バ・パ) 、聴解課題②
14	4/ 21	水	L6
15	4/ 23	金	応用練習 (L5&L6), カタカナ3 (マ・ヤ・ラ・ワ・ン)
16	4/ 27	火	L7, 語彙クイズL7, カタカナ4 (拗音・長音・撥音・促音) , 録音課題① 締切
17	4/ 27	火	L7
18	4/ 28	水	L8, L8語彙クイズ, カタカナクイズ, 作文課題①配布 (締切4/30) , Kanji(1-5)
19	4/ 28	水	L8
20	4/ 30	金	まとめ 1, 漢字(6-10),作文課題①締切
21	5/ 4	火	祝日
22	5/ 4	火	祝日
23	5/ 5	水	祝日
24	5/ 5	水	祝日
25	5/ 7	金	応用練習 (L7&L8) , 漢字クイズ(1-10),
26	5/ 11	火	L9, L9語彙クイズ, 漢字 (11-15), 作文課題②配布 (締切5/12) 、聴解課題③
27	5/ 11	火	L9
28	5/ 12	水	L10, L10語彙クイズ, 漢字 (16-20),作文課題②締切, 録音課題② 配付 (締切 5/19)
29	5/ 12	水	L10
30	5/ 14	金	応用練習 (L9&L10) ,漢字クイズ(11-20)
31	5/ 18	火	L11, L11語彙クイズ, 漢字 (21-25)
32	5/ 18	火	L11
33	5/ 19	水	L12, 語彙クイズL12, 漢字 (26-30) , 作文課題③配布 (締切 5/26), 録音課題② 締切
34	5/ 19	水	L12
35	5/ 21	金	応用練習(L11&L12)、漢字クイズ(21-30)
36	5/ 25	火	まとめ2,漢字 (31ー35)
37	5/ 25	火	復習 (L1-L12)
38	5/ 26	水	中間試験(L1-L12)
39	5/ 26	水	作文課題③締切, 漢字(36-40)
40	5/ 28	金	【休講】 補講期間のため
41	6/ 1	火	【休講】 補講期間のため
42	6/ 1	火	【休講】 補講期間のため
43	6/ 2	水	【休講】 中休み
44	6/ 2	水	【休講】 中休み
45	6/ 4	金	中間発表導入,漢字クイズ (31ー40)
46	6/ 8	火	L13, L13語彙クイズ, 漢字 (41-45) ,聴解課題④ 配布
47	6/ 8	火	L13
48	6/ 9	水	L14, L14語彙クイズ, 漢字 (46-50) ,作文課題④配布 (締切6/15) 、中間発表
49	6/ 9	水	L14
50	6/ 11	金	応用練習(L13&L14),漢字クイズ (41-50)、聴解課題④ 締め切り
51	6/ 15	火	L15, L15語彙クイズ, 辞書形クイズ, 漢字 (51-55) ,作文課題④締切,録音課題③配付 (締切 6/22)
52	6/ 15	火	L15
53	6/ 16	水	L16, L16語彙クイズ, て形クイズ, 作文課題⑤配布 (締切6/18) ,漢字(56-60)

54	6/ 16	水	L16
55	6/ 18	金	応用練習(L15&L16), 漢字クイズ(51-60),作文課題⑤締切
56	6/ 22	火	L17, L17語彙クイズ, 漢字 (61-65) ,録音課題③締切, 聴解課題⑤ 配布
57	6/ 22	火	L17
58	6/ 23	水	L18, L18語彙クイズ, ない形クイズ, 漢字 (66-70) , 録音課題④ 配付 (締切 6/30)
59	6/ 23	水	L18
60	6/ 25	金	応用練習(L17&L18), 漢字クイズ(61-70) , 聴解課題⑤ 締め切り
61	6/ 29	火	た形クイズ, 復習(L13-L18), 漢字(71-75)
62	6/ 29	火	まとめ3
63	6/ 30	水	L19, L19語彙クイズ,漢字(76-80) ,録音課題④ 締切
64	6/ 30	水	L19
65	7/ 2	金	応用練習(L19), 漢字クイズ(71-80), 作文課題⑥配布 (締切7/7)
66	7/ 6	火	L20, L20語彙クイズ, 普通形クイズ, 漢字(81-85), , 期末口頭発表導入
67	7/ 6	火	L20
68	7/ 7	水	L21, L21語彙クイズ, 漢字(86-90), 作文課題⑥締切, 聴解課題⑥ 配布, 期末口頭発表準備2(タイトルの確認・宿題1st draft 締切7/9)
69	7/ 7	水	L21
70	7/ 9	金	応用練習(L20&L21), 漢字クイズ(81-90).1st draft 締め切り, 聴解課題⑥ 締め切り
71	7/ 13	火	L22, L22語彙クイズ, 漢字(91-95), 期末口頭発表準備3(1st draft feedback, 2nd draft 配付、締切：7/30)
72	7/ 13	火	L22
73	7/ 14	水	応用練習 (L22) , 漢字 (96－100)
74	7/ 14	水	期末発表準備 4:1st draft返却, リライト
75	7/ 16	金	【休講】 補講期間のため, 漢字クイズ(91-100)
76	7/ 20	火	まとめ4
77	7/ 20	火	復習(L13-L22), 漢字 (101－105)
78	7/ 21	水	学期末試験(L1-L22)
79	7/ 21	水	漢字(106-110), 期末口頭発表準備5(リハーサル・PPT確認・発音練習)
80	7/ 23	金	祝日
81	7/ 27	火	休講
82	7/ 27	火	休講
83	7/ 28	水	休講
84	7/ 28	水	休講
85	7/ 30	金	学期末口頭発表, Final draft提出, 漢字クイズ(101-110)

インテンシブ初級 I

報告者：宮瀬 真理・金 瑜眞・ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級のインテンシブコースである。授業は週 3 回行われ、週 5 コマである。主教材として、スリーエーネットワーク社の「日本語初級 1 大地」を使用した。学習目標として、初級前半(L1-22)の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを挙げた。文字については、ひらがな・カタカナを含め、日本語能力試験 N5 相当の漢字を 110 字習得することを目標として、アスク出版の「にほんごチャレンジかんじ N4-5」を使用して指導を行った。

【授業の内容】

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。火曜日と水曜日の授業において、各一つの課を終わらせるように進め、金曜日はその週に学習した課の応用練習を行った。学生が各自語彙リストを参照し語彙を学習した後、オンラインの語彙クイズのリンクにアクセスし、クイズを受けてもらった。授業では、文型の導入、パタンプラクティス、教科書の問題や会話練習などを行った。なお、各課の終了後は、文法クイズと聴解練習等を行い、学習した内容について確認を行った。その他、授業外で作文課題・聴解課題・録音課題を与え、文法・語彙・表現などの添削指導、日本語の会話を聞き正しく理解するための練習、日本語の自然な発音と抑揚を身につけるための練習などを行った。

2. その他

学期の中間と学期末において、口頭発表を実施した。口頭発表の目的は、これまで学習した文型を使い口頭表現能力の練習を行うことと、インプットが多い授業の中でアウトプットの練習を行うことで、学習者が自分の能力をモニターする機会を提供することである。口頭発表では、2～3 分のプレゼンテーションの後、1 分間の質疑応答を行った。学習者には、発表の前にスクリプトを作成・提出させ、担当教員が文法や構成等についてチェックするとともに、発表の際のパフォーマンスや発音等についてフィードバックを行った。

3. まとめ・今後の課題

本コースでは日本国内で参加した受講者だけでなく、海外から参加した受講者もいた。時差があった受講者も含め、総じて、授業内での活動だけでなく、クイズや課題にもまじめに取り組んでいた。録音課題や聴解課題を新たに作成し、受講者の学習の機会を増やすことができたが、依然として口頭練習については十分な練習時間を確保することが難しかった。引き続き、Zoom のブレイクアウトセッションなどを有効活用することで、学生個々人に対する十分なフィードバックを増やしていきたい。

初級1

2021年度S1S2

- レベル : 初級1 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
10:25 - 12:10 水曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : ZOOM ID
- 学習目標 : 入門レベルから初級前半(L1-12)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を50字習得する。基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : はじめて日本語を勉強する人
- テキスト : 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*,
*勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
- 評価 : 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験25%、中間口頭発表10%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、課題(聴解・録音) 10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。(その場合は評価の80%が成績に反映される) ・クイズの追試は行わない
- その他 : 1. 単位6認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-904-1 学部FEN-JL4m20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID : 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 岡 葉子 OKA Yoko, 大西 由美 ONISHI Yumi, 猪狩 美保 IGARI Miho
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	月	オリエンテーション, L0(はじめましょう), 教室内で使う日本語, オンラインサイトの紹介
2	4/ 7	水	L1(1,2,3), ひらがな(1) あ, か, が-行
3	4/ 9	金	L1 (4,5), ひらがな(2) さ, ざ, た, だ-行
4	4/ 12	月	休講【入学式】
5	4/ 14	水	L1 ふくしゅう, ごいクイズL1, ひらがな(3) な, は, ば, ぱ-行
6	4/ 16	金	L2(1,2,3,4), ごいクイズL2, ひらがな(4) ま, や, ら, わ-行
7	4/ 19	月	L2(5,6,7)
8	4/ 21	水	L3(1,2), ごいクイズL3, ひらがな(5) ひらがな特殊音
9	4/ 23	金	L3(3,4), ひらがな復習
10	4/ 26	月	L4(1,2), ごいクイズL4, ひらがな復習
11	4/ 28	水	L4(3,4), ひらがなクイズ

12	4/ 30	金	L2&L3&L4(応用練習), カタカナ(1) ア, カ, ガ, 長音
13	5/ 3	月	祝日
14	5/ 5	水	祝日
15	5/ 7	金	L5(1,2,3), ごいクイズL5, カタカナ(2) サ, タ, ザ, ダ-行
16	5/ 10	月	L5(4,5), カタカナ(3) ナ, ハ, バ, パ-行
17	5/ 12	水	L6(1,2,3), ごいクイズL6, カタカナ(4) マ, ヤ, ラ, ワ-行
18	5/ 14	金	L6(4,5), カタカナ(5) カタカナ特殊音
19	5/ 17	月	ぶんぼうクイズ(動詞の活用), L5&L6 (応用練習), カタカナふくしゅう, まとめ1(L1-L6)
20	5/ 19	水	ふくしゅう, かんじ L1#1-5, カタカナクイズ
21	5/ 21	金	中間テスト (L1-L6)
22	5/ 24	月	L7(1), ごいクイズL7, かんじL1#6-10
23	5/ 26	水	L7(2), かんじクイズL1 (#1-10)
24	5/ 28	金	休講【補講】
25	5/ 31	月	L7(3,4), かんじ L2#11-15, , 中間テスト FB, 中間口頭発表導入
26	6/ 2	水	休講【中休み】
27	6/ 4	金	L8(1,2), ごいクイズL8, かんじL2#16-20
28	6/ 7	月	L8(3,4), かんじクイズL2 (#11-20)
29	6/ 9	水	L8(5), 中間口頭発表
30	6/ 11	金	L7,L8(応用練習), かんじL3#21-25, 中間口頭発表振り返りシート提出
31	6/ 14	月	L9(1,2), ごいクイズL9, かんじL3#26-30
32	6/ 16	水	L9(3,4), かんじクイズL3(#21-30)
33	6/ 18	金	L10(1,2), ごいクイズL10, かんじL4#31-35
34	6/ 21	月	L10(3,4), かんじL4#36-40
35	6/ 23	水	L9&L10(応用練習), かんじクイズL4(#31-40)
36	6/ 25	金	L11(1,2,3), ごいクイズL11, かんじL5#41-45
37	6/ 28	月	L11(4,5), かんじL5#46-50, 期末口頭発表導入
38	6/ 30	水	L12(1,2), ごいクイズL12, かんじクイズL5(#41-50)
39	7/ 2	金	L12(3), かんじ復習, 期末口頭発表タイトル提出
40	7/ 5	月	L12 使いましょう, 期末口頭発表準備(初稿提出)
41	7/ 7	水	L11, L12 (応用練習), まとめ2(L7-L12), かんじまとめクイズ1-5(#1-50)
42	7/ 9	金	期末口頭発表準備 (原稿修正)
43	7/ 12	月	ぶんぼうクイズ(形容詞の活用), 期末口頭発表準備 (第2稿提出)
44	7/ 14	水	ふくしゅう2
45	7/ 16	金	休講【補講】
46	7/ 19	月	休講【補講】
47	7/ 21	水	FP3 (PPT提出), パソコンを持ってくる
48	7/ 23	金	祝日
49	7/ 26	月	期末テスト(L1-12)
50	7/ 28	水	休講【補講】
51	7/ 30	金	期末口頭発表, 期末テスト FB

初級 1

報告者：岡葉子・大西由美・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大地1』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の4技能をバランスよく伸ばすことを目指した。授業は、月・水・金の週3回（1回105分）で同期型オンライン授業の形態で行った。文字については、ひらがなとカタカナを導入した後、『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）のL5までの50字を、漢字シートを配布して指導した。

【授業の内容】

まず、新しい課に入る授業の前に、語彙クイズを繰り返し受けるように学生に指示し、語彙の定着を図った。授業では、文型の導入、基本練習、応用練習を実施し、Zoomのブレイクアウト機能を用いた口頭練習を心掛けた。授業後には、「扉の会話」を元に作成した聴解課題の他、録音課題や漢字クイズを課し、聴解能力および発音・文字認知能力の向上を目指した。復習の日には、『文法まとめリスニング』の音源を用いた練習や、復習プリント（コーディネーター作成）を使用した。

学期半ばには、課題の一環としてクラス内の友人を対象としたインタビューを課し、タスクシートにまとめた結果をクラスで発表させた。さらに、学期末には総復習としてPPTを使用した期末口頭発表を実施した。

2. その他

COVID-19の影響により、今年度も引き続きオンラインで授業を実施した。

3. まとめ・今後の課題

学期開始時には14名が登録し、最終的に7名が修了した。海外からの受講生も多く、学期途中で渡日した学生もいたが、みな熱心に授業に参加していた。授業中はもちろん、授業前の語彙クイズや授業後の漢字クイズも真面目にこなし、着実に力をつけていたようである。漢字圏の学生が多い中、非漢字圏の学生も漢字学習でも力を発揮し、いい影響を与えていたようである。若干気になった点と言えば、海外から受講している学生が、学習環境という点で特に聴解や会話練習において不利である様子が見受けられたことである。

また、今学期は10名以上の学生が学期初めに登録していたものの、諸事情から修了できない学生がいた。研究が忙しくなり休みが続いて修了を断念した学生のほか、インドからの受講者は教科書を入手できないことが判明したため、今学期の受講は取りやめてもらうことになった。出版社の著作権を配慮しつつ、多くの学生に受講してもらえよう、教科書購入を早めに呼びかけるようにしたい。

初級2

2021年度S1S2

レベル	: 初級II
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: ZOOM
学習目標	: 初級前半(L13-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ15%、作文課題・中間発表15%、聴解課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-905-1、学部FEN-JL4m30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom address: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 岡 葉子 OKA Yoko, 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami, 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	月	オリエンテーション、レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 7	水	L13(1-2)
3	4/ 12	月	【休講】 入学式
4	4/ 14	水	語彙クイズ(L13)、L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing、聴解課題1【配布】
5	4/ 19	月	語彙クイズ(L14)、L14(1-2)、漢字#51-55、聴解課題1【締切】
6	4/ 21	水	L14(3-4)、漢字#56-60
7	4/ 26	月	漢字クイズ (51-60) , L14(5)、L&D、R&W、作文課題1【配付】(締切:5/10)
8	4/ 28	水	文法クイズ (辞書形) 、語彙クイズ(L15)、L15(1-3)
9	5/ 3	月	祝日
10	5/ 5	水	祝日
11	5/ 10	月	L15(4-5)、L&D、R&W、漢字#61-65、作文課題1【締切】

12	5/ 12	水	文法クイズ（て形）、語彙クイズ(L16)、L16(1-2)、漢字#66-70
13	5/ 17	月	漢字クイズ(#61-70)、L16(3-4)、L&D、R&W、作文課題2【配付】(締切:5/24)
14	5/ 19	水	語彙クイズ(L17)、L17(1-3)、漢字#71-75
15	5/ 24	月	ない形クイズ、L17（4）、L&D、R&W、漢字76-80, 聴解課題2【配布】、作文課題2【締切】
16	5/ 26	水	漢字クイズ（#71-80）、復習(L13-17)、中間発表（作文課題）の説明,聴解課題2【締切】
17	5/ 31	月	中間試験(L13-17)
18	6/ 2	水	【休講】中休み
19	6/ 7	月	語彙クイズ(L18)、L18(1-3)、作文課題3【配付】(締切:6/16)
20	6/ 9	水	文法クイズ（た形）、中間テストFB、L18（4）、L&D、漢字#81-85、中間発表（作文課題）
21	6/ 14	月	語彙クイズ(L19)、L19（1）、漢字#86-90、まとめ3
22	6/ 16	水	漢字クイズ（#81-90）、L19(2-3)、L&D、R&W、作文課題3【締切】
23	6/ 21	月	語彙クイズ(L20)、L20(1,2-1,2-2,2-3)、作文課題4【配付】(締切:6/28)
24	6/ 23	水	文法クイズ（普通形）、L20(2-4,2-5)、L&D、R&W、漢字#91-95
25	6/ 28	月	語彙クイズ(L21)、L21(1,2)、漢字#96-100、作文課題4【締切】
26	6/ 30	水	漢字クイズ(#91-100)、L21(3)、L&D、R&W、学期末口頭発表準備1（導入）（タイトル 締切:7/5）、聴解課題3【配布】
27	7/ 5	月	語彙クイズ(L22)、L22(1-2)、漢字#101-105、学期末口頭発表準備2（タイトル【締切】）（First draft 締切:7/7）、聴解課題3【締切】
28	7/ 7	水	L22(3-4)、漢字 # 106-110
29	7/ 12	月	漢字クイズ（#101-110）、L22 L&D、R&W、まとめ4、学期末口頭発表準備4(First Draft返却&リライト）（Final draft 締切:7/14）、聴解課題 4【配布】
30	7/ 14	水	漢字まとめクイズ(#61-110)、復習、学期末口頭発表準備5(Final draft締切),聴解課題 4【締切】
31	7/ 19	月	【休講】補講期間のため
32	7/ 21	水	学期末試験(L13-22)
33	7/ 26	月	学期末口頭発表
34	7/ 28	水	休講

初級 2

報告者：A クラス 岡 葉子・中村 亜美

B クラス 金 瑜眞・藤井 明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 2 回（1 コマ 105 分）のコースでは、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、今年度は昨年度に続き、授業初回から Zoom を用いたオンラインのリアルタイム型授業を実施した。

【授業の内容】

各課の初めに語彙クイズをオンラインで実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、オンラインの文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、読解、作文については課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習を授業内で行い、クイズを宿題として受けさせた。学期半ばには、作文の課題を基に口頭発表会を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトを基に、PPT を使用した期末口頭発表をオンラインで実施した。

2. その他

初級 2 レベルは学生数が多かったため、A、B の 2 クラス編成で授業を行った。なお、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞

授業中は真面目に課題に向き合う姿が見られるものの、授業外での予習・復習が足りていない学生がほとんどであった。その一方で、期末口頭発表では、習った文型を取り入れて写真や PPT の助けも借りながら、質疑応答も含めて内容豊かな発表ができていた。学生の発話や作文指導において、適切なフィードバックを行うよう心がけていきたい。

＜B クラス＞

B クラスでは、日本在住の学生だけでなく、入国規制のため、海外在住の状態で参加していた学生もいたが、全員総じて熱心に学習に取り組んでいた。しかし、対面で日本人と接し、クラスで学んだことをコミュニケーションで実践する機会が少ないためか、文法は理解していても、日本語での発話のアウトプットをする上で誤用が多く、習得に時間がかかっていた学生が多かった。来学期以降も授業内での発話練習を増やし、アウトプットの練習の機会を与えられるようにしたい。

インテンシブ初級Ⅱ

2021年度S1S2

- レベル : 初級2 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 木曜日
10:25 - 12:10 木曜日
- 場所 : ZOOM ID
- 学習目標 : 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ 初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当
- テキスト : 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)
『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
『にほんごチャレンジ かんじN4-5』(アスク)
- 評価 : 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、口頭発表15%（中間口頭発表5% 期末口頭発表10%）、語彙クイズ5%、文法クイズ10%、漢字課題5%、作文課題10% 聴解課題10%
・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位(8)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-911-1、学部 FEN-JL4n07L1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。
8. Zoom ID :
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	オリエンテーション レベルチェック 復習 L23(1)
2	4/ 6	火	L23(1) 漢字L1(111 - 120)
3	4/ 8	木	L23(2,3) 語彙クイズL23
4	4/ 8	木	L23(2,3) 漢字L2(121 - 130)
5	4/ 13	火	L24 語彙クイズL24 作文課題①
6	4/ 13	火	L24 漢字L3(131 - 140)
7	4/ 15	木	L25 語彙クイズL25 可能形クイズ 聴解課題① 作文課題①提出
8	4/ 15	木	L25 漢字L4(141 - 150)
9	4/ 20	火	L26 語彙クイズL26 聴解課題①提出
10	4/ 20	火	L26 漢字L5(151 - 160) 漢字課題①(L1-L5)
11	4/ 22	木	L27 まとめ5 語彙クイズL27

12	4/ 22	木	L27 漢字復習L1-15 漢字課題①(L1-L5)提出
13	4/ 27	火	L28 語彙クイズL28
14	4/ 27	火	L28 漢字L6(161 - 170)
15	4/ 29	木	祝日
16	4/ 29	木	祝日
17	5/ 4	火	祝日
18	5/ 4	火	祝日
19	5/ 6	木	L29 語彙クイズL29 作文課題② 聴解課題②
20	5/ 6	木	L29 漢字L7(171 - 180)
21	5/ 11	火	L30 語彙クイズL30 作文課題② & 聴解課題②提出
22	5/ 11	火	L30 漢字L8(181 - 190)
23	5/ 13	木	L31 語彙クイズL31 意向形クイズ
24	5/ 13	木	L31 漢字L9(191-200)
25	5/ 18	火	L32 語彙クイズL32 口頭発表導入
26	5/ 18	火	L32
27	5/ 20	木	まとめ6 漢字L10(201 - 210) 漢字課題②(L6-L10)
28	5/ 20	木	まとめ6
29	5/ 25	火	中間試験 (L23-L32)
30	5/ 25	火	中間口頭発表 漢字課題②(L6-L10)提出
31	5/ 27	木	L33 語彙クイズL33
32	5/ 27	木	L33 漢字L11(211-220)
33	6/ 1	火	中休み
34	6/ 1	火	中休み
35	6/ 3	木	中休み
36	6/ 3	木	中休み
37	6/ 8	火	L34 語彙クイズL34 条件形クイズ 中間試験フィードバック
38	6/ 8	火	L34 漢字L12(221 - 230)
39	6/ 10	木	L35 語彙クイズL35
40	6/ 10	木	L35 漢字L13(231-240)
41	6/ 15	火	L36 語彙クイズL36 作文課題③
42	6/ 15	火	L36 漢字L14(241 - 250)
43	6/ 17	木	L37 語彙クイズL37 受身形クイズ 聴解課題③ 作文課題③提出
44	6/ 17	木	L37 漢字L15(251 - 260) 漢字課題③(L11-L15)
45	6/ 22	火	まとめ7 聴解課題③提出
46	6/ 22	火	まとめ7 漢字L16(261 - 270) 漢字課題③(L11-L15)提出
47	6/ 24	木	L38 語彙クイズL38
48	6/ 24	木	L38 漢字L17(271 - 280)
49	6/ 29	火	L39 語彙クイズL39 命令形・禁止形クイズ 聴解課題④
50	6/ 29	火	L39 漢字L18(281 - 290)
51	7/ 1	木	L40 語彙クイズL40 作文課題④ 聴解課題④提出
52	7/ 1	木	L40 漢字L19(291 - 300) 学期末口頭発表導入
53	7/ 6	火	L41(1-4) 語彙クイズL41 使役形クイズ
54	7/ 6	火	L41(1-4) 漢字L20(301 - 310) 漢字課題④(L16-20) 作文課題④提出
55	7/ 8	木	L41(5, 6) 学期末口頭発表準備 書き直し 漢字課題④(L16-20)提出
56	7/ 8	木	L41(5, 6)
57	7/ 13	火	L42 語彙クイズL42 尊敬語クイズ

58	7/ 13	火	L42
59	7/ 15	木	まとめ8 謙譲語クイズ PPT提出
60	7/ 15	木	学期末口頭発表準備 & 学期末口頭発表リハーサル 1
61	7/ 20	火	学期末試験
62	7/ 20	火	学期末口頭発表リハーサル 2
63	7/ 22	木	祝日
64	7/ 22	木	祝日
65	7/ 27	火	休講
66	7/ 27	火	休講
67	7/ 29	木	学期末口頭発表 最終稿提出
68	7/ 29	木	学期末試験フィードバック

インテンシブ初級 II

報告者：内田あゆみ・山口真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

授業では、『大地2メインテキスト』、『大地2文型説明と翻訳』を使用し、基本的に2コマで1課を扱う形で進行した。漢字学習には『にほんごチャレンジ かんじ』を使用し、日本語能力検定試験N4レベルの漢字を学習した。

【授業の内容】

授業では、各課のはじめに語彙クイズを行った後、文型導入、基本練習、補助教材を使用して応用練習、会話の練習などを行い、文型の定着を図った。課題として、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「私の国にある有名なもの」など4つのテーマについて作文練習を行った。学期後半では、読解、聴解などの活動も適宜取り入れた。漢字は意味と読み方に重点を置き、漢字学習を行った。また、文型や「つかいましょう」から発展させ、日本の文化的・社会的な内容についての話し合いも適宜取り入れた。

2. その他

毎回、語彙クイズを行った。クイズは予習型で1課につき1回実施した。文法の復習テストは、5課に1回のペースで合計7回行った。また、聴解課題、漢字課題を定期的に課し、授業で不足しがちな聴解、漢字に関する活動を補った。また、期末口頭発表への準備として、中間口頭発表を行った。学期末には、「3歳の子供に英語を習わせること」、「高校生にアルバイトをさせること」などについて口頭発表を行った。発表で使用する表現、構成などを学んだ後、各自学習した文型・語彙を使用しスクリプトを書き、スライドを作成させた。教師は、授業内で原稿のチェックやリハーサルを行った。

3. まとめ・今後の課題

教師も学生もオンライン授業の形式に慣れたため、昨年度に比べスムーズに授業が進行した。授業では、学生に「離れていても授業に参加している感覚」を持ってもらえるよう、共同作業を多く設定し、学生間のコミュニケーションを積極的に促した。クラスは、非常に和やかな雰囲気、学生も非常に熱心に参加していた。今年度は、昨年度の反省を踏まえて、課題やクイズ、評価基準を改訂した結果、よりオンライン授業に適した形で授業を行うことができた。しかし、教科書入手困難な学生への対応をどうするかなど、課題は残った。今後も学生の状況に臨機応変に対応するとともに、授業実施方法の適切な改善を行っていきたい。

初級3

2021年度S1S2

レベル	: 初級Ⅱレベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日08:30 - 10:15 金曜日
場所	: Online
学習目標	: 初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。 日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテグ 初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験15%、学期末試験20%、学期末口頭発表15%、語彙クイズ5%、漢字クイズ10%、文法クイズ5%、聴解クイズ5%、課題20% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID : 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri, ハワード 文江 HOWARD Fumie, 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	Review&Challengeクイズ, オリエンテーション, L23Vocab., かんじ(#111-115)
2	4/ 9	金	L23.1 Dic.&Te&NaiFormふくしゅう, かんじ(#116-120)
3	4/ 13	火	L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, かだい1(L23)イントロ
4	4/ 16	金	L24 Vocab. Quiz Due, L24.1-2, かんじ(#121-125), かだい1(L23)しめきり
5	4/ 20	火	Potential form(かのうけい) Quiz, L24.3-4, L&D, R&W, かんじ(#126-130)
6	4/ 23	金	L25 Vocab. Quiz Due, L25.1-2
7	4/ 27	火	L25.3-4, L&D, R&W, かんじ(#131-135), リスニングQuiz①
8	4/ 30	金	L26 Vocab.Quiz Due, L26.1-2, かんじ(#136-140), リスニングQuiz①しめきり
9	5/ 4	火	【祝日】
10	5/ 7	金	L26.3, L&D, R&W, かんじ(#141-145), かだい2(L25&26)イントロ
11	5/ 11	火	L27 Vocab. Quiz Due, L27.1-2, かんじ(#146-150), かだい2(L25&26)しめきり

12	5/ 14	金	L27.3, L&D, R&W, かんじ (#151-155), かだい3 (L27)イントロ
13	5/ 18	火	まとめ5(p31-32), 基礎問題集 (きそもんだいしゅう) , かんじ (#156-160), かんじかだい① 、 かだい3 (L27)しめきり
14	5/ 21	金	Review, 基礎問題集 (きそもんだいしゅう) , かんじ (#161-165), ReviewSheetAnswerKey
15	5/ 25	火	中間試験 (L23-27)
16	5/ 28	金	【休講】 補講期間のため
17	6/ 1	火	【休講】 補講期間のため
18	6/ 4	金	L28 Vocab. Quiz Due, L28.1-2, かんじ (#166-170),Mid-term Exam. F.B
19	6/ 8	火	L28.3-4, L&D, R&W, かんじ (#171-175)
20	6/ 11	金	L29 Vocab. Quiz Due, L29.1-2, かんじ (#176-180)
21	6/ 15	火	L29.3-4, L&D, R&W, かんじ (#181-185),リスニングQuiz②
22	6/ 18	金	L30 Vocab. Quiz Due, L30.1-2, かんじ (#186-190),リスニングQuiz②しめきり
23	6/ 22	火	Volitional form (いこうけい) Quiz, L30.3, L&D, R&W, かだい4 (L30)イントロ
24	6/ 25	金	L31 Vocab. Quiz Due, L31.1-3, かんじ (#191-195), 期末口頭発表 (きまつこうとうはっぴょう) イントロ, かだい4 (L30)しめきり
25	6/ 29	火	L31.4-5, L&D, R&W, かんじ (#196-200),期末口頭発表 (きまつこうとうはっぴょう) タイトルしめきり
26	7/ 2	金	L32 Vocab. Quiz Due, L32.1-2, 期末口頭発表 (きまつこうとうはっぴょう) 1st draft しめきり
27	7/ 6	火	L32.3, L&D, R&W, かんじ (#201-205)
28	7/ 9	金	まとめ6, かんじ (#206-210), かんじかだい② , 基礎問題集 (きそもんだいしゅう)
29	7/ 13	火	期末口頭発表 (きまつこうとうはっぴょう) リハーサル, PPTしめきり, ReviewSheetAnswerKey
30	7/ 16	金	【休講】 補講期間のため
31	7/ 20	火	期末試験 (L23-32)
32	7/ 23	金	【祝日】
33	7/ 27	火	【休講】
34	7/ 30	金	期末口頭発表 (きまつこうとうはっぴょう) , 期末試験F.B

初級 3

報告者：A クラス 片岡さゆり・鈴木恵理

B クラス 中村亜美・ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週 2 回（1 コマ 105 分）展開のコースで『大地 2 メインテキスト』、『大地 2 文型説明と翻訳』を使用し、前半の L23～32 を扱った。漢字は、N 4 レベルの単漢字 100 字と漢字語彙を学習した。

テキストの新出語彙は予習型とし、クイズを各課の授業開始までに提出してもらった。授業はオンライン（同期型）で行われたが、ペアワーク、グループワークを取り入れて学生の積極的な参加を促した。また、学習の進捗状況に合わせた作文課題（4 回）の提出、および文法クイズ、聴解クイズ、漢字まとめクイズを行って学習事項の定着を図った。

【授業の内容】

授業では、テキストの文型・表現を習得し、運用できるようになることを重視した。必要に応じて、活用など既習の文法事項を復習しながら授業を進めた。

学期末には、学習のまとめとして口頭発表を行った。「私の大学」をテーマとし、原稿作成・修正、PPT 作成、発表リハーサルなど段階的に準備を進めた。どの学生も熱心に取り組んでいた。発表会では、質疑応答も活発に行われ、充実したものとなった。

2. その他

B クラスでは、日本人の学生ボランティアが参加し、会話練習が活発に行われた。

3. まとめ・今後の課題

オンライン授業では、テキスト該当箇所の確認に時間がかかってしまうことがある。よりわかりやすい手法が必要である。

<A クラス>提出物などをきちんと期限を守って提出する学生と、忙しいのだろうが若干ルーズな学生が混在していた。しかし全体的には自立した学習者が多く、自分のペースで学習を進めている印象だった。発音や文法ミスの癖などを個別に丁寧に指導する時間がなかなか捻出できなかったことはオンライン（遠隔教育）の課題である。

<B クラス>全体的に出席率がよく、授業中の活動や課題などに真面目に取り組んでいたが、文型や表現の定着に時間のかかるケースも見られた。また、既習の漢字が読めないこともあり、繰り返し学習する必要性を感じた。海外から参加の学生もいるため、発音指導やリスニング練習なども、時間の許す限り力を入れていきたい。

初級4

2021年度S1S2

レベル	: 初級Ⅱレベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: ZOOM
学習目標	: 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ10%、作文課題10%、聴解課題10%、録音課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-909-1、学部FEN-JL4n20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7. Zoom address: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin, 鈴木 恵理 SUZUKI Eri, 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	Orientation, Review & Challenge Quiz, L33 Vocabulary introduction
2	4/ 9	金	L33.1(1-1～1-7)
3	4/ 13	火	L33.1(1-8)&2, L33 Voca quiz, Listening & Dialogue, 漢字（211-215）
4	4/ 16	金	L34.1&2, L34 Voca quiz, 文法クイズ1（条件形）, 漢字（216-220）
5	4/ 20	火	L34.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ（211-220）, 漢字（221-225）, 録音課題① 配付
6	4/ 23	金	L35.1&2, L35 Voca quiz, 漢字(226-230)
7	4/ 27	火	L35.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235), 作文課題①配布, 録音課題①(L34) 締切
8	4/ 30	金	L36.1&2, L36 Voca quiz, 漢字(236-240), 作文課題①締切
9	5/ 4	火	祝日
10	5/ 7	金	L36.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(231-240), 漢字(241-245), 作文課題②配布
11	5/ 11	火	L37.1&2, L37 Voca quiz, 文法クイズ2（受身形）, 漢字(246-250), 作文課題② 締切

12	5/ 14	金	L37.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(241-250), 漢字(251-255), 聴解課題①(L37)
13	5/ 18	火	まとめ7, Review, 漢字(256-260)
14	5/ 21	金	Mid-term Exam(L33-37)
15	5/ 25	火	L38.1&2, L38 Voca quiz, 漢字クイズ (251-260)
16	5/ 28	金	【休講】補講期間のため
17	6/ 1	火	【休講】補講期間のため
18	6/ 4	金	L38.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(261-265), 作文課題③配布
19	6/ 8	火	L39.1&2, L39 Voca quiz, 文法クイズ3 (命令禁止形) , 漢字 (266-270) , 作文課題③ 締切
20	6/ 11	金	L39.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275), 聴解課題②(L39),録音課題②(L38) 配付
21	6/ 15	火	L40.1&2, L40 Voca quiz, 漢字 (276-280)
22	6/ 18	金	L40.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(271-280)、漢字(281-285), Final Presentation introduction,録音課題②(L38) 締切
23	6/ 22	火	L41.1&2&3, L41 Voca quiz, 文法クイズ4 (使役形), Kanji(286-290), Final Presentation Title & Outline Deadline
24	6/ 25	金	L41.4&5&6, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ (281-290) , 漢字 (291-295), 作文課題④配布, Final Presentation Outline Return
25	6/ 29	火	L42.1&2, L42 Voca quiz, 文法クイズ5(尊敬動詞) , 漢字(296-300), 作文課題④締切, Final Presentation 1st Draft Deadline
26	7/ 2	金	L42.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(301-305), 漢字クイズ(291-300), Final Presentation 1st Draft Return & Rewrite 2nd Draft
27	7/ 6	火	まとめ8, 文法クイズ6 (謙譲動詞) , 漢字 (306-310) ,聴解課題③(L42)
28	7/ 9	金	Review, 漢字クイズ (301-310) , Final Presentation 2nd Draft Deadline
29	7/ 13	火	Presentation Practice(Rehearsal), PPTcheck
30	7/ 16	金	【休講】補講期間のため
31	7/ 20	火	Final Exam (L33-42)
32	7/ 23	金	祝日
33	7/ 27	火	休講
34	7/ 30	金	Final Presentation

初級 4

報告者：A クラス 金 瑜眞、鈴木 恵理

B クラス 鈴木 恵理、猪狩 美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『大地 2』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用し、L33～42の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、会話・作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習を行った。授業は、1)文型の導入・練習、2)応用練習・会話練習、3)漢字導入という流れで実施し、必要に応じて主教材の扉会話を使った聴解練習や文型を応用した短作文の練習などを行った。

【授業の内容】

各課の初めに学生が各自語彙を勉強し、宿題としてオンライン上の語彙クイズを受けてもらった。授業では、文型導入、基本・応用練習を行い、動詞の活用等については、文法クイズを実施し、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞等の定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、ペアワークを積極的に取り入れた。また、授業外において作文課題、聴解課題、録音課題を課し、書く・聞く・正しく発音する能力の総合的な運用能力の向上を目指した。並行して、漢字の導入、練習、確認クイズを実施した。

2. その他

学期末口頭発表は、学期を通しての学習内容を踏まえ、本コースで学習した文型を盛り込み、意見文のスキプトを作成し、PPT を使用したプレゼンテーションを実施した。複数の根拠を示し、予想される聞き手の反論も考慮に入れながら主張することが求められる課題であったが、受講者は全員しっかりと準備をし、質疑応答時には活発な意見交換が見られた。また、初級 4 レベルは学生数が多かったため、A、B の 2 クラス編成で授業を行ったが、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞ 登録者の 10 名中 9 名が修了し、受講者は総じて意欲的に活動に取り組んでいたが、文法は理解していても、発話能力の習得は十分でなかったと考える。引き続き、個別学生の発話の機会や授業内でのフィードバックの機会を増やしていきたい。

＜B クラス＞ 学期を通して 9 名の学生が受講し、毎回の授業や課題に熱心に取り組んでいる様子が見られた。オンライン授業では発言や意見交換の機会に限られる面もあるが、今後も学習した日本語を用いてコミュニケーションする時間を積極的に取り入れていきたい。

中級1 総合A

2021年度A1A2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 10/ 04 - 2022/ 01/ 28
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: online
学習目標	: 日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10%、課題10%、中間試験20%、学期末試験20%、その他40%（クイズ10%、作文10%、学期末口頭発表20%） ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-921-2、学部 FEN-JL4o05L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある Zoom URL: ※※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 佐藤 瑞恵 SATO Mizue, 藤井 明子 FUJII Akiko, 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	10/ 5	火	・オリエンテーション ・レベルチェッククイズ
2	10/ 7	木	第2課①（文型1,2）
3	10/ 12	火	第2課②（文型3,4,5）
4	10/ 14	木	語彙クイズL2、第2課③本文読解
5	10/ 19	火	語彙クイズL3、第3課①（文型1,2,3）
6	10/ 21	木	第3課②（文型4,5,6）
7	10/ 26	火	第3課③本文読解、作文1(L3)
8	10/ 28	木	語彙クイズ（L4）、第4課①（文型1,2）
9	11/ 2	火	第4課②（文型3,4,5）
10	11/ 4	木	第4課③本文読解、作文2(L4)
11	11/ 9	火	語彙クイズ（L5）、第5課①（文型1,2,3）
12	11/ 11	木	第5課②（文型4,5,6）
13	11/ 16	火	第5課③本文読解、復習（L2,3,4）

14	11/ 18	木	中間試験 (L2-5)
15	11/ 23	火	祝日
16	11/ 25	木	休講 (補講日)
17	11/ 30	火	語彙クイズ (L6)、第6課① (文型1), 作文発表会
18	12/ 2	木	第6課② (文型2,3,4)、中間試験FB
19	12/ 7	火	第6課③本文読解
20	12/ 9	木	語彙クイズ (L7)、第7課① (文型1,2,3,4) 学期末口頭発表準備①
21	12/ 14	火	第7課② (文型5,6,7)、学期末口頭発表準備②
22	12/ 16	木	第7課③本文読解、学期末口頭発表準備③
23	12/ 21	火	語彙クイズ (L8)、第8課① (文型1,2,3)、学期末口頭発表準備④
24	12/ 23	木	第8課② (文型4,5,6)、学期末口頭発表準備⑤
25	12/ 28	火	冬休み
26	12/ 30	木	冬休み
27	1/ 4	火	第8課③本文読解、学期末口頭発表準備⑥
28	1/ 6	木	語彙クイズ (L9)、第9課① (文型1,2,3)、学期末口頭発表準備⑦
29	1/ 11	火	第9課② (文型4,5,6)、学期末口頭発表準備⑧
30	1/ 13	木	第9課③本文読解、復習 (L6,7,8)、学期末口頭発表準備⑨
31	1/ 18	火	休講 (補講日)
32	1/ 20	木	休講 (補講日)
33	1/ 25	火	学期末試験 (L6-9)
34	1/ 27	木	学期末口頭発表

中級 1 総合

報告者：A クラス 牛山和子・藤井明子

B クラス 佐藤瑞恵・中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（スリーエーネットワーク、第2版）を使用し、全10課中、2課から9課までを1課3コマ（1コマ105分）で終える形で授業を進めた。コロナ禍が続く中、今学期もすべての活動をオンライン（同期型）で行ったが、学習を効果的にサポートするため、クイズは、予習型（「本文内容理解問題」）、自習型（「ことばの練習」）、授業内で実施するもの（「語彙クイズ」）の3つに分けて実施した。

【授業の内容】

各課の1コマ目は、会話練習も兼ねてその課のトピック（扉のページを使用）についてクラスで話し合い、本文の音声を使って内容についてペアやグループ、クラス全体で話し合い、教員は学生の発話などに対するフィードバックを行った。また、新しい文型・表現も一部導入し、練習問題も解いてもらった。2コマ目は文型・表現の導入と練習（1コマ目の続き）を中心に進め、時間的に可能であれば、「短作文」も扱うこととした。3コマ目は各課のまとめとして、本文読解の他、教科書にある文法チェックシート、聴解タスクシートなどを用いて、その課の学習内容の総復習を行った。また、作文課題を2回出し、中間試験後に作文発表会を行った。漢字に関しては、各課の新出漢字の導入と読む練習を授業内で行った他、本文をルビなしで読めるように促した。

2. その他

各クイズ、定期試験は google form を用いて出題した。期末口頭発表は、A、B 両クラス共オンライン同期型、クラス内で発表するという形を取り、教員は、学生の自主性を重んじつつ、必要な場合はアドバイスをし、発表の準備をサポートした。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞ S1S2 学期は、初級 4 レベルと判定される学生が 3 名参加した。これが本学で学習できる最終学期であること、また本人の強い希望で受講となったが、残念ながら最後まで継続できなかった。クラス全体への影響もあり、今後はこうした点にも留意し、よりよいクラス運営を目指したい。その他の学生は継続して授業に参加し、修了に至った。

＜B クラス＞ 全体的に基礎の弱い学生が多く、海外から参加の学生の中には、学期開始当初の教員とのやり取りが英語になってしまう学生もいた。しかし、グループワークや短作文作りなどに熱心に取り組み、クイズやクラス活動などを通し徐々に力をつけていった。期末口頭発表の PPT 作りや要点を押さえた発表には課題が残る。今後の課題としたい。

中級1 聴解

2021年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 聴解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: on line
学習目標	: 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: 『日本語集中トレーニング』(アルク)
評価	: 教室活動20%、中間試験20%、期末試験20%、その他40% (課題20%、クイズ20%) ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom ID: *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 15	木	L2 出張の報告をする
3	4/ 22	木	L5 郵便局で荷物を送る, クイズ,
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	L6 不動産屋でマンションを探す, クイズ
6	5/ 13	木	L7 体験を話す, クイズ、中間準備
7	5/ 20	木	L8 日本の習慣をたずねる, クイズ
8	5/ 27	木	中間プレゼンテーション
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	L9 パック旅行を申し込む, クイズ
11	6/ 17	木	L11 温泉につれていってもらふ, クイズ
12	6/ 24	木	L12 しつけについて話す, クイズ
13	7/ 1	木	L13 困ったできごとを話す, クイズ
14	7/ 8	木	L14 セミナーの準備をする, クイズ
15	7/ 15	木	L15 先生の研究室をたずねる, クイズ
16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

中級1 聴解

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『日本語集中トレーニング』（アルク）を主教材として使用し、毎回の授業で1課ずつリスニングに焦点を当てて授業を行った。授業の進め方としては隔週で課題の発表・質疑応答と音読チェック、その後主教材のストーリーピクチャーを見ながら会話CDを聞く→文法・表現を学習→ナレーションCDを聞く。更に時間が許す限りインタビューCDを聞きながらシャドーイング、又はディクテーション練習の順番で行った。

【授業の内容】

主教材は「荷物を送る」「不動産屋で部屋を探す」「先生の研究室をたずねる」など、留学生にとって身近なテーマの課を取り上げた。又語彙の拡充や定着を図るため、2課毎に課の単語クイズを行った。更に自然なイントネーションの自律的な学習定着の為にシャドーイング練習も取り入れた。主教材が総合教材であることから、リスニング強化のため隔週でNHK NEWS WEB EASY から学生が各自気になったニュースを聞き、分かりにくかった表現についてレポートする課題を課し、授業中に発表と質疑応答の時間を設けた。更に隔週で教材のシャドーイング練習の成果の確認として音読チェックを実施した。

2. その他

中間試験では「最近の聞き取りにくかった日本語フレーズ」について、自ら調べ、レポートにまとめ発表する課題を課し、その発表を聞いた学生からの質疑応答を課した。聞き取れなかった時の対処法など、学生間のストラテジーの共有に役立った。期末試験では学期中に主教材で学習した表現に加え、同様の表現を使用したリスニングの試験を課したが、聞き取り能力の向上が結果として現れていた。

3. まとめ・今後の課題

今学期はコロナ渦で海外から受講している学生が多く、自然な場面での日本語のリスニングの機会が少ないためニュースの聞き取り課題を課したが、課題の数としては適正だったとアンケートで答える学生が多く、又この課題は大学院生としての知的興味にも答える良い機会となったようである。又オンライン授業では個々の指導が難しいシャドーイング練習を、自律的学習定着も目的として宿題として課し、その成果の確認として音読チェックを課した。しかし日本語独特の音や抑揚をCDの聞き取りのみで養うには限界があり、期待したほどの成果は上がらなかった。来学期からは日本語の音を聞き分けるトレーニングを焦点にした練習も加えていきたいと思う。

中級1 会話

2021年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日
場所	: online
学習目標	: 初級文法を復習しながら、日常生活場面での会話運用能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。
対象	: 初級4、インテンシブIIコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当。
テキスト	: 『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動10%、語彙事前課題10%、中間試験25%、期末試験25%、スクリプト録音課題20%、スピーチ10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom address 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 佐藤 瑞恵 SATO Mizue nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	月	オリエンテーション, 自己紹介, レベルチェックテスト
2	4/ 12	月	【休講】入学式
3	4/ 19	月	L3, 課題①
4	4/ 26	月	L4, 課題①提出
5	5/ 3	月	祝日
6	5/ 10	月	L8
7	5/ 17	月	L11, 課題②
8	5/ 24	月	L9, 課題②提出
9	5/ 31	月	中間試験
10	6/ 7	月	L12, 課題③
11	6/ 14	月	L13, 課題③提出
12	6/ 21	月	L15, 課題④
13	6/ 28	月	L17, 課題④提出
14	7/ 5	月	L21
15	7/ 12	月	復習、期末試験の準備
16	7/ 19	月	【休講】補講期間のため
17	7/ 26	月	期末試験

中級 1 会話

報告者：A クラス 金 瑜眞

B クラス 佐藤 瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 1 回の会話コースで、『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を教科書として使用した。主にロールプレイによる会話練習を中心として授業を行い、初級レベルで学習した文型・表現の口頭練習や日常生活場面における日本語を使った会話運用動力の向上を目指し、実践的な会話練習を行った。

【授業の内容】

教科書から「日にち変更の許可を求める」「医者に状況を説明する」「ゴミの出し方を注意されて謝る」などの 10 課を選択し、授業で取り上げた。各授業の前に、その日に学習する新出語彙の意味や読み方を学生が事前に調べる課題を課した。そして各授業で学習した表現をもとに、オリジナルのスクリプトを作成し、その会話の様子を録画するという課題も出した。会話表現の指導においては、発話場面や相手と話者間の上下・親疎関係等による表現の使い分け、日本社会の中で慣習的に好まれる相槌や非言語行動、発話意図に応じたイントネーションの区別等について練習を行った。また、各授業で 1～2 名の学生に「私の好きなもの、好きなこと」というテーマで 3 分程度のショートスピーチをしてもらい、発表と質疑応答を行った。

2. その他

中間・期末試験は、学生同士で会話のペアを組み、ロールプレイの形式で会話試験を実施した。授業で取り上げたロールカードの内容を一部改変したものを用意し、ランダムで選んでもらった。選んだロールカードについて、会話を行ってもらい、会話内容とパフォーマンスを評価した。評価時には、流暢さ、適切さ（各課で取り上げた重要表現を適切に使用できているか）、正確さ（文法や言葉のミス）、敬語と普通形の使い分け、単音の発音とイントネーション、相手の発話に対する理解や反応等について評価し、フィードバックした。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞ 登録者の 10 名全員が修了し、授業内での会話練習、授業外での課題などに総じて意欲的に取り組んでいた。引き続き、来学期も個別の学生のパフォーマンスのフィードバックをより充実させたい。

＜B クラス＞ 登録者の多くが、出席時には非常に熱心に学習していたが、学期末が近づくにつれ、研究発表や論文提出のため、欠席がちとなり、参加者数が安定しないことが増えた。今後は、専門の学習の負担にならないよう、内容の検討も必要かと思われる。

中級1 専門読解

2021年度S1S2

レベル	: 中級 I
スキル	: 読解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: online
学習目標	: 科学技術分野の日本語の読解力向上と、専門的な語彙の習得を目指す。授業では「Ttime!」(東京大学工学部広報誌) のリライト記事を読み、理工系の基礎専門用語の語彙力を養う。また、積極的にニュースを読み、その要旨・意見をまとめる能力を養う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: オリジナル教材
評価	: 教室活動：15% 中間試験：20% 期末試験：20% 漢字・語彙クイズ：15% 課題（クイズ）：15% 課題（短作文・要旨）：15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-924-1、学部 FEN-JL4o30L1、 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者 にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	金	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 16	金	人型ロボット
3	4/ 23	金	道路の渋滞予測 語彙・漢字クイズ
4	4/ 30	金	スマートグラスで道案内 語彙・漢字クイズ
5	5/ 7	金	味と食感を決める酵素 語彙・漢字クイズ
6	5/ 14	金	料理を作りながらスマートフォンの充電ができる？ 語彙・漢字クイズ
7	5/ 21	金	中間試験
8	5/ 28	金	休講
9	6/ 4	金	都市インフラとしての浄水処理 語彙・漢字クイズ
10	6/ 11	金	航空機の事故を減らすために 語彙・漢字クイズ
11	6/ 18	金	自動車材料の軽量化とマルチマテリアル化 語彙・漢字クイズ
12	6/ 25	金	超伝導とリニアモーターカー 語彙・漢字クイズ
13	7/ 2	金	食品の産地を確かめる方法 語彙・漢字クイズ
14	7/ 9	金	3Dメガネ 語彙・漢字クイズ
15	7/ 16	金	休講
16	7/ 23	金	祝日
17	7/ 30	金	期末試験

中級 1 専門読解

報告者：古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本授業は、科学技術文の読解力を養成すること、その基礎的な専門語彙や表現、文型の使い方を養成することを目的としている。授業までに、配布したテキストを読み、「イラスト動画」と「インタビュー動画」を視聴し、内容クイズをすること、本文の語彙を確認すること、前回の授業で習った文型の短文を作成することを事前課題とした。授業では、提出された短作文のフィードバックを行い、語彙クイズ、本文のテーマに関するディスカッション、文型・表現練習、本文精読の順で行った。このように、反転授業を実施し、授業は読解内容およびテーマに関するディスカッションを中心としたアクティブラーニングを取り入れた。

【授業の内容】

テキストは工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づいた「人型ロボット：スムーズに動かすためには？」「道路の渋滞予測：目的地へより早く！」（シラバス参照）など、理工学分野のテーマの科学技術文を日本語教員がリライトしたものである。「イラスト動画」は、テキスト本文の、内容を分かりやすくイラストとして示し、音声付きで、内容スキーマを活性化する目的で作成した。一方、「インタビュー動画」は、東京大学の専門家が研究内容やテーマをわかりやすく解説したインタビュー動画で、テーマの理解を深めるために作成した。本授業は、受講者自身の専門的な先行知識を利用し、予測しながら読み解く方法（トップ・ダウン）と、その後、語彙や表現を正確に理解し、文、段落、テキスト全体へと理解を積み上げる（ボトム・アップ）方法の2つの方法を使用し、読解力を養成した。

2. その他

今学期も昨年度に引き続き、オンライン授業になったため、オンライン上で2つの動画が視聴できることは非常によかった。本文、ビデオは、東京大学における工学系全般の新しく、研究内容が網羅された当教室オリジナルで、中級1から科学技術文を読むことによって、学生の研究支援にも繋がる。

3. まとめ・今後の課題

工学系分野の読解教材ではあったが、文系の学生も興味を持って読解に取り組んだ。多忙な12名の学生が最後まで熱心に授業に取り組んだことは良かった。「読解」は、読むという受動的なスキルではあるが、反転授業を取り入れることによって、学生が主体的に授業に取り組むことができた。また、レベル差のある学生がいたが、授業前に各学生のペースで読む個人作業と読んできた内容を他の学生と確認する作業を分けたことによって、能力のギャップを埋めることができた。

中級1 文章

2021年度S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: online
学習目標	: 趣味、旅行など、身近なトピックに沿った文章を書くことにより、中級前半レベルでの書く技術を養成する。また、それに必要な漢字学習を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文 (スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動5%、クイズ15%、課題作文45%、中間試験15%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-925-1)、学部(FEN-JL4o40L1). 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom URL: ★UtokyoアカウントとG Suite for Education (Google)を1回目の授業のまえに取得してください。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	レベルチェックテスト、オリエンテーション、Unit 1自己紹介
2	4/ 13	火	Unit 3私の国町&5週末, mockクイズL1(練習)
3	4/ 20	火	Unit 7プレゼント&8旅行, クイズ①3&5, 作文課題①3/5
4	4/ 27	火	Unit 9もし私が二人いたら&10趣味, クイズ②7&8, 作文課題②7/8
5	5/ 4	火	祝日
6	5/ 11	火	Unit 11楽しい一日&12日本でびっくりしたこと, クイズ③9&10, 作文課題③9/10
7	5/ 18	火	Unit 13私の夢&14隣の人に一言, クイズ④11&12, 作文課題④11/12
8	5/ 25	火	中間試験(Unit 3,5,7-14)
9	6/ 1	火	休講(補講日)
10	6/ 8	火	Unit 15手紙, 中間試験FB, クラスメートの作文を読もう
11	6/ 15	火	Unit 16国との比較①悪い点ごみ, クイズ&作文課題⑤15
12	6/ 22	火	Unit 17国との比較②いい点交通, クイズ&作文課題⑥16
13	6/ 29	火	Unit 18スマートフォン必要? 不必要?、クイズ&作文課題⑦17
14	7/ 6	火	Unit 19私の周りの最近のニュース, クイズ&作文課題⑧18
15	7/ 13	火	Unit 20私の国の有名な人 漢字クイズ作文⑨19

16	7/ 20	火	期末試験(Unit 15-20)
17	7/ 27	火	前週にコース終了のため

中級 1 文章

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは同期オンライン型で『みんなの日本語初級 第2版 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）に沿って授業を進めた。前半は1コマで2課、後半は1コマで1課を扱った。中級レベルの文章を書く際に必要な語彙や漢字を習得し、作文の構成や表現について学習した後、毎週トピックに沿った文章を書くことにより、中級レベルの書く力の養成と向上を目指した。また、論理的な文章が書けるように促した。

【授業の内容】

授業では、語彙・漢字クイズ、モデル作文の確認、作文のポイントや文型・表現の練習、トピックについての話し合い、という流れで進めた。コースの前半のトピックは今まで初級レベルでよく扱われる趣味や旅行など身近なものであったが、中級レベルに適した文章量や構成、表現に配慮するよう指導した。後半は、あるトピックについての比較や肯定・否定意見をまとめるなどの活動を通して応用力を養った。作文に取り組むための導入として、意見交換できるディスカッションの時間を設けた。授業後は作文（約400字）を毎週割り当て、添削後、採点しコメントを付けてフィードバックした。

クイズ、課題、試験の管理に Google Classroom を使用し、点数通知と作文のフィードバックを行った。教員のフィードバックに対する受講者からの質問やコメント、授業内のグループワークの資料共有にも活用した。

2. その他

対面授業時以上に、受講者を飽きさせないように配慮し、細かく活動を分け授業を進めた。また、個人作業を最大限排除し、モデル文の音読や表現の練習問題はペアワークで取り組み、ペア・グループや全体でのディスカッションを通し、受講者同士が協働し、交流が深められるような教室活動を心掛けた。

3. まとめ・今後の課題

学生ボランティアに1名、ペアワークやディスカッションに参加してもらったため、受講者も積極的に取り組んでいた。課題の提出率も高く、アンケートでは「適切な量」として回答していた。一方、課題では辞書や翻訳ツールに頼りすぎてしまう受講者もいたため、このレベルにおける効果的な使い方の指導や、教師が期待するものの周知を心掛けたい。

時代と受講者のニーズに合ったトピックの選定を検討するとともに、パソコンツールを活かした受講者の協働を促す教室活動と教材づくりに今後も努めたい。

中級2 総合

2021年度S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : オンライン
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
- 対象 : 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』
(スリーエーネットワーク)
※テキストは緑色の表紙です。
- 評価 : 教室活動10% 語彙クイズ10% 漢字課題5% リスニング課題5% 作文課題30% 中間試験20% 期末試験20%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可 UTAS コード: 大学院3799-931-1、学部FEN-JL4p01L1。
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容は変わる可能性がある。
7. [ZOOM ID]:
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 岡 葉子 OKA Yoko, 大西 由美 ONISHI Yumi
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	水	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 14	水	L2
3	4/ 21	水	L2 クイズ(L2)
4	4/ 28	水	L3、クイズ(L3)
5	5/ 5	水	祝日 課題①提出
6	5/ 12	水	L3、L4、クイズ(L4)
7	5/ 19	水	L4、課題②提出
8	5/ 26	水	中間試験 (L2,3,4)
9	6/ 2	水	休講【中休み】
10	6/ 9	水	L5、クイズ (L5) 中間試験フィードバック
11	6/ 16	水	L5
12	6/ 23	水	L6、クイズ(L6)、課題③提出
13	6/ 30	水	L6、L8、クイズ(L8)

14	7/ 7	水	L8
15	7/ 14	水	総合復習 ディベート
16	7/ 21	水	学期末試験 (L5,6,8)
17	7/ 28	水	休講

中級 2 総合

報告者：A クラス 岡葉子
B クラス 大西由美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期（第2版）』（スリーエーネットワーク）を使用して授業を行った。2020 年度に引き続き、Zoom での同期型授業を行なった。

授業は 1) 課で扱うテーマについて簡単な話し合い 2) CD で聴解後、内容の大意取り 3) 新出文型・表現の学習 4) 本文の読解 という流れで行った。新出語彙は課の始まる前に、漢字は課の終了後に、オンライン上のクイズを繰り返し受けさせることで定着を図った。他に、聴解課題を課の終了後に宿題として受けさせた。その他、学期を通して作文を宿題として課した。

【授業の内容】

スケジュールの都合上、授業では教科書の全 8 課のうち、2 課、3 課、4 課、5 課、6 課、8 課の 6 つの課を扱い、1 課を 2 回の授業に分けて進めた。そのうち、5 課（「私の町」）はテーマに即した作文と音声付 PPT（またはスライドショー）作成、8 課（「第一印象」）は授業内で行ったディスカッションを元にした意見文作成といった、教科書の内容に関連した課題を課して、より発展的な学習に繋げることを目指した。

2. その他

コース内のクイズ実施や課題提出は Google クラウドを使用した。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞ 14 名が登録し、11 名が修了した。海外からの受講生もいたが、全体的に出席率もよく、学生は最後まで真面目に課題をこなしていた。特に、5 課の課題である PPT は個人的で工夫が見られたため、本人たちの了承を得たうえで成果物をオンライン上でシェアすることにし、他のクラスメイトの PPT を一定期間見られるようにした。週 1 回という限られた時間の中で、クラス内での交流が活発になるよう、一層努力したい。

＜B クラス＞ 13 名が登録し、8 名が修了した。多忙により、出席率が低い学生もいたものの、授業中の質問や、PPT での録音発表など、積極的に取り組んでいた。学習項目が多く、活動時間は限られていたが、できるだけ会話などを多く取り入れ、交流を心がけた。各課の練習問題、クイズなど、オンラインでも効率的に取り組めるよう、さらに工夫したい。

中級2 聴解

2021年度S1S2

レベル	: 中級Ⅱ
スキル	: 聴解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: オンライン
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
対象	: 中級I聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPTN3相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [中級] 』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動10%, クイズ20%, 課題30%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-932-2, 学部 FEN-JL4p15L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom address: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 大西 由美 ONISHI Yumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、L2信号の話
2	4/ 15	木	L1富士山
3	4/ 22	木	L3隠れキリシタン、L1クイズ
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	L4水族館、L3クイズ、課題①L 5
6	5/ 13	木	L6東京の温泉、L4クイズ
7	5/ 20	木	L7失敗学、L6クイズ
8	5/ 27	木	中間試験
9	6/ 3	木	休講 中休み
10	6/ 10	木	L8 札幌のお祭り、課題2L10
11	6/ 17	木	L9 津軽三味線、L8クイズ
12	6/ 24	木	L11 アクセント、L9クイズ
13	7/ 1	木	L12からくり人形、L11クイズ、課題③L15
14	7/ 8	木	L13四つ葉のクローバー、L12クイズ
15	7/ 15	木	L14長寿の理由、L13クイズ
16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

中級2 聴解

報告者 大西由美

1.授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級）』（スリーエーネットワーク）を使用し、授業を行った。大学で学ぶために必要な「講義や口頭発表を聞く力」を要請するためのテキストで、各課は内容の聞き取りの正誤問題と質問文、スクリプトの構成を確認、要約練習の4つで構成されている。

授業の流れは以下のとおりである。

- ①前の課のディクテーションクイズ
- ②テーマに関するグループディスカッション（10分）
- ③聞き取り1回目、2回目と正誤問題
- ④新出語彙と聞き取りに必要な表現の導入
- ⑤聞き取り3回目とスクリプトの構成の確認
- ⑥聞き取り4回目と要約

また、ディクテーションや要約の方法など、授業進度に合わせて扱った。

【授業の内容】

「富士山」「アクセント」などの15課のうち、12課を授業で学習し、残りの3課は課題とした。教科書にはスライドによる発表の形式の課もあったが、スライドで文字を見ながらの学習のほうが、理解が深かった。来日していない学生も多く、日本文化にあまり触れたことがないこともあったため、ビデオなどを適宜紹介した。

2.その他

ディクテーションを毎回の課のあとに宿題としていた。また、課題として挙げた3課については、各自が教師の録音したmp3を聞き、提出することにした。

CDプレーヤーを所持していない学生が多く、出版社が提供する他の音源がないため、毎週のディクテーションの宿題も同様に録音したものを聞く形式にした。

3.まとめ・今後の課題

元々の文法能力、作文能力の差がクラス内で大きく、6課以降に自分で要約を書くようになると、150-200字の要約であっても、完成に要する時間に10分程度から30分程度の差が生じた。人数が多すぎなかったため、できるだけ個別に順次授業内でフィードバックを行ったが、人数が多い場合は難しい。オンラインではあったが、グループディスカッションで積極的に話す学生が多かった。対面授業に戻っても、このようなディスカッションの時間をできるだけ多く取りたい。

中級2 会話

2021年度S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
- 場所 : online
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。
- 対象 : 中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
- テキスト : 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）
- 評価 : 授業内評価20%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%, 参加度5%,
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50%
F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-933-1)、学部(FEN-JL4p20L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- Zoom URL:
- 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko, 佐藤 瑞恵 SATO Mizue
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	オリエンテーション、L1、レベルチェックテスト
2	4/ 13	火	L2, 課題①（締め切り:4/20）
3	4/ 20	火	L2-3, 課題① 提出日
4	4/ 27	火	L3
5	5/ 4	火	祝日(みどりの日)
6	5/ 11	火	L4, 課題②（締め切り: 5/18）
7	5/ 18	火	L4, 課題② 提出日
8	5/ 25	火	中間口頭試験（ロールプレイ発表L1-4）
9	6/ 1	火	休講（補講日）
10	6/ 8	火	L5, 課題③（締め切り: 6/15）
11	6/ 15	火	L5, 課題③ 提出日
12	6/ 22	火	L6
13	6/ 29	火	L6,課題④（締め切り: 7/6）
14	7/ 6	火	L7,課題④ 提出日
15	7/ 13	火	L7
16	7/ 20	火	期末口頭試験（ロールプレイ発表L5-7）
17	7/ 27	火	前週にコース終了のため

中級２ 会話

報告者：米谷章子・佐藤瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは同期オンライン型で、教科書『【新版】ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）から、受講者が実際に遭遇すると考えられる場面のロールプレイを選び、1コマ（105分）で3つ程度のロールプレイを実施した。教材が「タスク先行型」を採用していることから、授業でもまず受講者がロールプレイをペアで実践し、全体で発表後、その会話に必要なとされる表現・文型・語彙などの定着を目指し、確認・練習した。また、モデル会話のディクテーションを用いた復習や応用練習も適宜実施した。

【授業の内容】

授業では、「隣人への苦情」、「遅刻の言い訳」、「映画やスポーツ」、「悩み相談」など、受講者が身近に感じられるロールプレイを取り上げた。日本語独特のあいづちやオウム返しなどの使い方を指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞なども重ねて練習し、より自然な日本語の習得を目指した。また、状況に応じて丁寧な言い方とカジュアルな言い方を使い分けられるように働きかけた。

2. その他

中間・期末試験はロールプレイ会話試験を実施した。1週間前にランダムでペアを決め、当日はくじ引きで無作為に選んだロールプレイを3つ実施し評価した。事前に準備したものを見ながら発話するなどの不正行為防止のため、授業で実施したロールプレイの設定内容を変更し、教員が第3者の役割で参加し、即興部分の対応も評価材料とした。定期試験以外には、1学期中に4つの課題（会話作成や日本人との会話録音）を課した。特に、日本人や学生ボランティアとの会話録音は好評であった。

3. まとめ・今後の課題

アンケートには、「大人数であったため、発話機会がなく残念だった」という意見が複数あった。多忙になり学期途中でキャンセルする数名を踏まえても、本会話授業の特性を鑑み、受講定員は教師の巡回指導ができる範囲に設定するのが望ましく、受講者からの評価も考慮すると、14名までが適切だと思われる。

このクラスではGoogle Classroomを課題・試験管理等に用いたが、情報共有や受講者同士の交流にも使用できたため、受講者からも好評であった。オンラインツールを有効に利用したことで、孤独感の解消にも繋がったと考えられる。会話授業という特質を考慮し、引き続き工夫を重ね、効果的な授業運営を行いたい。

中級2 読解

2021年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: 読解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: online
学習目標	: 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
対象	: 中級1 読解の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。
テキスト	: 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
評価	: 教室活動5%, 参加度5%, 語彙クイズ10%, 課題20%, 中間試験25%, 期末試験25%, 多読・口頭発表10%. ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定（ただし、単位が不要な学生も履修可） UTAS コード：大学院3799-934-1,,学部 FEN-JL4p30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	金	オリエンテーション、復習&チャレンジクイズ
2	4/ 16	金	L1「語のまとまりをとらえましょう」 p.2
3	4/ 23	金	L2「する・される」の関係をつかみましょう」 p.8, 語彙クイズ(L2), 課題 1 (L2)
4	4/ 30	金	L3「文の構造をとらえましょう」 p.16, p.21, 語彙クイズ(L3 p.16+p.21), 課題 1 提出, 課題 2 (L.3), 多読イントロ
5	5/ 7	金	L4「前件と後件の関係をつかみましょう」 p.24, 語彙クイズ(L4), 課題 2(L3)提出
6	5/ 14	金	L6「省略されているものが何か考えましょう」 p.44, 語彙クイズ(L6 - ①)
7	5/ 21	金	中間試験
8	5/ 28	金	休講（補講日）
9	6/ 4	金	L6「省略されているものが何か考えましょう」 p.49, 語彙クイズ (L6 - ②), 課題 3(L6), 中間試験F.B
10	6/ 11	金	L7「関連のある言葉を探しましょう」 p.52, 語彙クイズ(L7), 課題 3 提出, ビブリオバトルイントロ
11	6/ 18	金	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜く」 p.62 語彙クイズ L8, 課題 4(L8)
12	6/ 25	金	L9「筆者の立場を見分けましょう」 p.72 語彙クイズ(L9), 課題 4提出.

13	7/ 2	金	L12 「内容を素早く理解しましょう」 p.98
14	7/ 9	金	期末課題導入,ビブリオバトル準備
15	7/ 16	金	休講(補講日)
16	7/ 23	金	休講（祝日）
17	7/ 30	金	多読のビブリオバトル、学習のまとめ

中級 2 読解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 1 回オンライン（同期型）で行われた。テキストは『留学生のための読解トレーニング：読む力がアップする 15 のポイント』（凡人社）を使用し、全 15 課のうち、9 課を学習した。テキストの特色を踏まえ、ストラテジーに注目してより正確な読解力を養成することを目指した。授業は 1)語彙の確認、文法表現の学習 2)各課の読解ストラテジー確認、練習問題 3)読解 4)音読 5)漢字語彙・短文クイズの順序で進めた。またテーマについてペアワークで関連情報を調べる、クラスでディスカッションを行うなどコミュニケーションを重視した活動を行い、適宜、要約や作文の課題を提出してもらった。更に、読む楽しさを体験する機会として、オンライン読み物（無料）から自由に読み、読書記録を付ける「多読」を取り入れた。

【授業の内容】

各課の読解ストラテジーのポイントを理解し、「読むこと」への認識を深めた。ストラテジーの説明は巻末の翻訳（4 か国語）を活用して各自で確認することとし、授業では最小限の文法用語のみを用いて要点を共有した。「内容を素早く理解する」という項目では、生教材を使用し、ニュース見出しから内容を推測する練習などを取り入れた。

期末試験では、テキストの問題（未習）を指定し、内容理解の設問に加え、「要約」、「自分の意見を書く」、「学習したストラテジーを使用した設問を作成して答える」などの課題を提出してもらい、総合力を評価した。

多読は、1) レベルに関わらず読みたいものを選ぶ 2) 辞書はなるべく使わない 3) 途中で止めて次の本を読んでもよい、というルールを踏襲した。受講者は連休などの余暇を利用し、自由に読書を行っていた。学期末には、各自読書記録の中から 1 冊を選んでクラスで紹介する場を設けた。書店のポップを参考にして本のキャッチフレーズを作成し、発表を準備したが、それぞれに工夫が見られ、楽しい発表会となった。また、学期末には日本の詩歌（短歌、俳句）を読み、俳句作りに挑戦する機会を持った。

2. その他

オンライン授業のため時差があるが、海外からの受講生も継続して参加しており、社会問題などについて有意義な意見交換ができた。

3. まとめ・今後の課題

非漢字圏の受講生においては、漢字圏と比べ読解により多くの労力が必要である。コースの半ばで受講が困難になる学生が数名見られた。そのような受講生も日本語を読むことに継続的に意欲を持って取り組めるように、授業や評価について更に工夫していきたい。

中級2 文章

2021年度S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 文章
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : online
- 学習目標 : 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
- 対象 : 中級1 <文章>の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。
- テキスト : 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』 (アルク)
- 評価 : 教室活動10% 中間試験20% 期末試験20% 課題50% ・以下の条件を満たしたもののについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-935-1、学部FEN-JL4p40L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。
3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6.授業内容と教室は変わる可能性がある。Zoom ID:
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション, レベルチェッククイズ, L1 作文の基本
2	4/ 15	木	L2 書き言葉
3	4/ 22	木	L2 フィードバック (FB)
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	L3 段落
6	5/ 13	木	L3 FB
7	5/ 20	木	L4 「は」と「が」
8	5/ 27	木	中間試験 L4 FB
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	L5 テーマを述べる
11	6/ 17	木	L5 FB
12	6/ 24	木	L6 理由・経過を述べる
13	7/ 1	木	L6 FB
14	7/ 8	木	L7 定義をする

15	7/ 15	木	L7 FB
16	7/ 22	木	休講
17	7/ 29	木	Final Exam

中級 2 文章

報告者：A クラス 内田あゆみ

B クラス 牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは「だ・である体」を習得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、作文の基礎知識を身につけ、専門的な文章を書くために必要な表現・文法を学ぶことを目標とした。テキストは『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ②作文編』（アルク）を使用し、基本的に1回の授業で1課ずつ進めた。

【授業の内容】

本コースでは、上記テキストの前半部分である第1課から第7課を扱った。授業ではまず課題のフィードバックをし、その後、テキストを用いて作文技術や文法・表現を学び、練習問題や短作文作成問題などを行った。授業内の活動は個別作業とグループワークを適宜組み合わせて行った。各課の最後にある400字程度の作文問題は毎回課題とした。課題は事前に提出させ、コメントと訂正コードをつけ返却し、次の授業ではフィードバックをしたり、課題の中にあった誤用について全体で考えたりした。その後各自修正をさせ、再提出させた。

2. その他

受講者数が多かったため、2クラス編成で授業を行った。上記テキスト以外に、研究室の先生へのメールの書き方や履歴書の書き方なども取り上げ、日本で生活する上で必要な書類の書き方も学習した。試験はテキストに準拠した形で行った。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

専門の研究などが忙しく修了に至らなかった学生が多かったが、修了した学生は出席率も課題の提出率も非常に高く、真面目に取り組んでいた。人数が比較的少なかったため、学生の発話機会も多く、学生からの質問への対応もしやすく、良い雰囲気の中で授業を進めることができた。

<B クラス>

書き言葉を適切に用いて作文を書くことは容易ではなく、コース開始後しばらくは話し言葉と書き言葉を混ぜてしまう学生も多かったが、その違いを意識して文章を書こうという姿勢は全員に見られた。Aクラス同様、学期中忙しくなり、残念ながら最後まで続けられなかった学生もいたが、学びたいという思いが常に感じられるクラスであった。

中級2 専門語彙・漢字

2021年度S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: その他
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: online
学習目標	: 日本の生活に必要な語彙、研究生活全般で使用するアカデミックな語彙に加え、工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2-3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
対象	: 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20%、課題20%、クイズ20%、中間試験20%、学期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたのものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験と課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-936-1、学部 FEN-JL4p50L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom ID: 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 岡 葉子 OKA Yoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	水	オリエンテーション レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 14	水	第1課: 漢字1-5 短文作成
3	4/ 21	水	第2課: 漢字6-10 短文作成 1課漢字クイズ
4	4/ 28	水	第3課: 漢字11-15 短文作成 2課漢字クイズ
5	5/ 5	水	祝日
6	5/ 12	水	第4課: 漢字16-20 短文作成 3課漢字クイズ
7	5/ 19	水	第5課: 漢字21-25 短文作成 4課漢字クイズ
8	5/ 26	水	中間試験 (L.1-L.5) 第6課: 漢字26-30
9	6/ 2	水	休講
10	6/ 9	水	第7課: 漢字31-35 短文作成 6課漢字クイズ
11	6/ 16	水	第8課: 漢字36-40 短文作成 7課漢字クイズ
12	6/ 23	水	課題発表
13	6/ 30	水	第9課: 漢字41-45 短文作成 8課漢字クイズ
14	7/ 7	水	第10課: 漢字46-50 短文作成 9課漢字クイズ
15	7/ 14	水	第11課: 漢字51-55 短文作成 10課漢字クイズ
16	7/ 21	水	学期末試験 (L.6-L.12)
17	7/ 28	水	休講

中級2 専門語彙漢字

報告者：岡葉子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。教材は、前任者作成の自主教材で「理工学系話し言葉コーパス」の頻出語彙を中心に旧3級レベルの漢字を60字程度選んだもので、日常生活で使われる語彙のほか、研究室内で話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

今学期はZoomでのオンライン授業を実施し、漢字語彙の導入、短作文の作成と添削、翌週のクイズ実施などを繰り返しつつ、語彙の定着を図った。

【授業の内容】

1コマの授業で5つの単漢字および、当該漢字を含む2級以上の語彙を必要に応じて導入し、共起することばやゼミで使う表現などを教員側が提示した。提示する際には、例文の読み上げや意味の確認を適宜行った。その後、学習者は習った漢字語彙を使った用例を作成し、Google ドキュメント上に書き込んで他の学習者と共有した。授業内で全ての漢字語彙の短作文は確認できないため、毎回タスクシートを作成させ、提出させた。翌週には、授業のはじめに、前回学習した漢字のクイズを行った。

また、課題として、「私の専門」「私の趣味」「〇〇〇で知った漢字（例：病院、ポスターなど）」の3つのテーマから1つを選び、教室外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現などについての発表を行った。

2. その他

課題の提出や返却等は、Google クラウドを使用した。

3. まとめ・今後の課題

12名が登録し、9名が修了した。このコースはもともと登録者数が少なく、昨年度は修了者がS1S2 学期5名、A1A2 学期5名であったことを考えると、今学期は受講者数が約2倍だったということになる。人数が多くなったために、授業内での短作文の添削は十分な時間が割けなかったが、その分タスクシートを宿題として課し、個別にフィードバックするようにした。

漢字圏と非漢字圏の学習者が混在しており、漢字圏の学生とのレベル差はあったものの、非漢字圏の学生も翌週のクイズの点数はよかったため、復習をよくしていたと考えられる。課題の発表も個性に富むいい内容であったため、クラスメイト同士でお互いの作成したPPTを共有してもらった。このような成果物の共有は、今後も適宜試していきたい。

中級3 総合

2021年度S1S2

- レベル : 中級3 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 10:25 - 12:10 月曜日
- 場所 : Online
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。
- 対象 : 中級2総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
- テキスト : 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』
(スリーエーネットワーク)
※テキストは水色の表紙です。
- 評価 : 教室活動10% 参加度10% 中間試験20% 期末試験20% 文型課題30% 語彙課題10%
- その他 :
- ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 - 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 - ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 - ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可)
UTAS コード: 大学院 3799-941-1. 学部 FEN-JL4q01L1.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。Zoom:
- ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko, 佐藤 瑞恵 SATO Mizue

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	月	オリエンテーション レベルチェックテスト 第1課① 語彙課題 L1
2	4/ 12	月	休講 (入学式)
3	4/ 19	月	第1課② 文型課題 L1 プラスα学習項目 (1)
4	4/ 26	月	第2課① 語彙課題 L2 プラスα学習項目 (2)
5	5/ 3	月	祝日
6	5/ 10	月	第2課② 文型課題 L2 プラスα学習項目 (2)
7	5/ 17	月	第3課① 語彙課題 L3
8	5/ 24	月	第3課② 文型課題 L3 プラスα学習項目 (3)
9	5/ 31	月	中間試験
10	6/ 7	月	第4課① 語彙課題 L4 中間試験フィードバック
11	6/ 14	月	第4課② 文型課題 L4 プラスα学習項目 (4)
12	6/ 21	月	第5課① 語彙課題 L5

13	6/ 28	月	第5課② 文型課題 L5 プラス α 学習項目（5）
14	7/ 5	月	第6課① 語彙課題 L6
15	7/ 12	月	第6課② 文型課題 L6 プラス α 学習項目（6）
16	7/ 19	月	祝日
17	7/ 26	月	学期末テスト

中級3 総合

報告者：Aクラス 牛山和子

Bクラス 佐藤瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用し、全10課中、1課から6課までを1課2コマ（1コマ105分）に3コマ目の最初の15分程度を加えて終える形で授業を進めた。コロナ禍が続く中、昨年同様すべての活動をオンライン（同期型）で行ったが、学習を効果的にサポートするため、クイズは実施せず、課ごとに提示する語彙課題（予習型）と文型課題（復習型）を提出するという形にした。尚、授業に関係する資料や課題の管理は、Google Classroom を用いて行った。課題添削時には、ループリック評価、コメント欄なども使い、個々の学生のサポートを心掛けた。

【授業の内容】

各課の1コマ目は、その課のトピックについてグループディスカッションなどを行い、学習項目の前半部分の理解および練習、2コマ目は、後半部分の学習項目の理解と練習、本文読解と内容の確認という流れで行った。いずれのコマでも、学習項目は文型練習に留まらず、学生が実際にその文型を使えるように、さまざまな応用練習も提示した。また教科書内の「読もう」「聞こう」「話そう」なども適宜取り上げ、総合的な活動を心掛けた。各課が終わった段階で「文型課題」（前出）を出し、文型の復習に加え、その課のトピックに関する自分自身の意見を文章としてまとめるなど、書く練習も併せて行った。オンライン授業であったため、ペア、グループ活動上の制約もあったが、できる限り学生同士の意見交換の機会が増えるよう、グループ活動やペアで確認する時間も設けた。授業内で扱えなかった内容については、その一部を「文型課題」に取り入れ、フィードバックをすることで補った。

2. その他

Google Classroom の他、リアルタイムで共同編集ができる文章作成機能を用いて、実際のホワイトボードのような感覚で利用する「クラスノート」を作成した。クラスノートは学生が書いた文を教師がリアルタイムで添削できたり、クラスメートの文章を確認したりコメントしたりできるというメリットがあり、オンラインツールとして非常に有効であった。

3. まとめ・今後の課題

時間的制約から、本コースで使用している教科書の語彙、学習項目を全て扱うことはできないため、授業の組み立てや、学習活動の工夫などが必要であった。一方で、授業外の学習も負担にならないよう留意する必要もあった。学期後半は専門の研究などで多忙となる学生もいたが、1名を除き、A、Bクラスとも全員最後まで授業に参加することができた。しかし、授業時間が不足しており、総合クラスではあるが聴解練習が十分に行えないこと、個人発表等もできないことなどは、今後の課題として検討していく必要があるだろう。

中級3 聴解

2021年度S1S2

- レベル : 中級Ⅲ
- スキル : 聴解
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : online
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
- 対象 : 中級Ⅱ<聴解>コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
- テキスト : 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネット
ワーク
- 評価 : ・教室活動15%, クイズ30%, 課題15%, 中間試験20%, 期末試験20%
- ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
- ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1)。
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. zoomID:
8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 宮瀬 真理 MIYASE Mari

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション、L1掃除、レベルテスト
2	4/ 15	木	L2本屋
3	4/ 22	木	L3新幹線のおでこ, L2クイズ
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	L4体験プレゼント, L3クイズ, 課題①L5 そば屋ののれん
6	5/ 13	木	L6犬の肥満, L4クイズ
7	5/ 20	木	L7卵かけご飯, L6クイズ
8	5/ 27	木	中間試験
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	L8女性専用車両、課題②L9剣道
11	6/ 17	木	L10落語, L8クイズ
12	6/ 24	木	L11そばをすする音, L10クイズ
13	7/ 1	木	L12将棋, L11クイズ
14	7/ 8	木	L13南極, L12クイズ

15	7/ 15	木	L14明治神宮の森, L13クイズ, 課題③L15虚偽の自白
16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

中級3 聴解

報告者：宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大を受けてオンライン授業となり、Zoom を繋いで同期型授業を行なった。

授業はテキストに沿って1 課を1 コマ(105 分)で扱った。1) 前回の内容のディクテーションクイズ 2) 課の内容を予想させるような話し合いや関連事項のアンケート 3) 全体の聞き取りをして大意取り 4) 語彙や表現の確認 5) 内容確認の質問に対する答えの確認 6) 内容に対する話し合い という流れで行った。

【授業の内容】

教材は「体験プレゼント」「犬の肥満」「卵かけご飯」「女性専用車両」「そばをすする音」など日本の現代社会を扱ったトピックを、講義や発表に近い形で練習できるよう工夫されている。未習の単語や細かい例にとらわれず、全体として話者が伝えたいことを捉えることを意識させた。スライド資料を見ながら聞くなど、実際に近い形で練習し、実践的な聴解力の養成を目指した。

2. その他

実施したディクテーションクイズでは、前回既習の表現、キーワード、漢字・語彙の意味と読みの確認を行なった。今年度はオンライン授業だったため、Google forms を用いて実施した。

また、授業内で扱うことのできなかった3 課分は課題として出し、教科書全てを終了し、達成感が得られるよう努めた。

3. まとめ・今後の課題

対面授業の内容のままオンライン授業を同期型で行なったが、前年度の反省を踏まえ、効率的な聴解力の養成のみに重きを置くのではなく、学習者同士の交流を深められるよう配慮した。ペアワークや小グループに分かれての話し合いを行うことで、学習者同士の活発な意見交換を促した。聴解クラスであっても、オンラインクラスであっても、授業の前後に雑談ができるような一体感のあるクラス運営が必要だと痛感している。

中級3 会話

2021年度S1S2

- レベル : 中級3
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : online
- 学習目標 : 日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な口頭表現能力を身につける。
- 対象 : 中級2会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
- テキスト : 授業内でプリント配付
- 評価 : 教室活動5%, 中間試験25%, 期末試験25%, ショートスピーチ10%, ディベート10%, 課題1(ロールプレイ) 15%, 課題2(ディベート) 10%。
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-943-1, 2. 学部 FEN-JL4q20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
 7. Zoom ID:
 ※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri, 牛山 和子 USHIYAMA Kazuko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	水	レベルチェッククイズ、オリエンテーション、自己紹介
2	4/ 14	水	ショートスピーチ (グループ) ・ ピアフィードバック、ショートスピーチ (クラス) イントロ
3	4/ 21	水	ショートスピーチ (クラス) 開始、ロールプレイ1、敬語復習
4	4/ 28	水	ロールプレイ2
5	5/ 5	水	祝日
6	5/ 12	水	ロールプレイ3, 中間試験イントロ
7	5/ 19	水	ロールプレイ4
8	5/ 26	水	中間試験(会話試験)
9	6/ 2	水	中休み
10	6/ 9	水	中間試験フィードバック、ディベートイントロ
11	6/ 16	水	ディベート1:第1回ディベート大会準備
12	6/ 23	水	ディベート2:第1回ディベート大会

13	6/ 30	水	ディベート3:第2回ディベート大会準備, 期末試験イントロ
14	7/ 7	水	ディベート4:第2回ディベート大会
15	7/ 14	水	期末試験（口頭発表）準備
16	7/ 21	水	期末試験（口頭発表）
17	7/ 28	水	前週にコース終了のため

中級3 会話

報告者：Aクラス 片岡 さゆり

Bクラス 牛山 和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、オリジナル教材を使用し、ショートスピーチおよびロールプレイを通して様々な状況に適した表現を確認して運用し、円滑な人間関係が構築できるよう、待遇表現のブラッシュアップを目指した。また、ディベートおよび口頭発表において自分の意見を整理し、わかりやすく簡潔に話す能力を身に付けることも目標とした。そのため、ピア活動、グループワークを中心に据えて授業を進めた。尚、昨年度に続き、今年度も授業はオンライン（同期型）で行った。

【授業の内容】

学期前半では、まず、各自ショートスピーチを行った。新型コロナ流行の影響によって変化した日常をどのように過ごしているかを写真や実物を見せながら紹介する 2・3 分のスピーチを課題としたが、この活動は、孤立しがちな生活の中で、クラスメートと互いに知り合い、情報交換できる機会ともなった。次に、ロールプレイでは、「オンラインランチ会に誘う」「学会誌を借りる」などの場面を設定し、「交渉」や「譲歩」など、複雑な状況に対応する会話練習を行った。「面接を受ける」では、インターンシップ面接で求められる自己紹介や志望動機などについて簡潔に説明する練習を行い、発音も重視した。ここでは積極的にピア活動を取り入れ、よりよい会話を形成するためには何が必要なのかを考える時間を取り、課題への気づきと改善を促した。

学期後半では、ディベートの方法・表現を学び、テーマを選定した後、グループワークで準備を進め、ディベート大会（クラス内1回、A、Bクラス合同1回）を行った。ディベートにおいては、グループディスカッションを重視し、情報収集、役割分担と調整、グループ戦略などを行う時間を十分に確保した。

2. その他

日本人学生ボランティアに計4回参加してもらい、ロールプレイ、ディベート準備、ディベートのジャッジ等をお願いした。また、キャンパスでのコミュニケーションについての体験談やアドバイスもしてもらうことができ、留学生にとって大変有意義な出会いとなった。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、オンライン授業も軌道に乗り、学生と教員が協力しながら会話の授業を進めることができた。また、A、Bクラス合同で、オリエンテーションおよびディベート大会を行うことで、学生たちが互いに刺激を与え合い、学習意欲も高まったようである。

中級3 専門読解

2021年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 読解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: online
学習目標	: 自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	: 中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人またはJLPT N2相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10% 漢字クイズ15% 内容チェッククイズ15% 課題20% 発表5% 中間試験15% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-944-1 学部 FEN-JL4q30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～ (化学システム)
2	4/ 15	木	読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～ (化学システム)
3	4/ 22	木	読解②計算機で地震に挑む (社会基盤)、漢字クイズ1、内容チェッククイズ1
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	読解③万有情報網 (電子情報工学)、漢字クイズ2、内容チェッククイズ2
6	5/ 13	木	読解④多様性が鍵～高齢者にも優しい仮設住宅への取り組み～ (建築)、漢字クイズ3、内容チェッククイズ3
7	5/ 20	木	復習、漢字クイズ4
8	5/ 27	木	中間試験
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	読解⑤ロボットに意思は持てるか (情報学境)、内容チェッククイズ4
11	6/ 17	木	読解⑥未来の航空機設計最前線! (航空宇宙)、漢字クイズ5、内容チェッククイズ5
12	6/ 24	木	読解⑦次世代インターネット実現へを (電子情報工学)、漢字クイズ6、内容チェッククイズ6
13	7/ 1	木	復習、漢字クイズ7
14	7/ 8	木	発表の説明 と準備
15	7/ 15	木	発表
16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

中級3 専門読解

報告者：内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的とした。授業では、語彙クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、授業と同時進行で学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、読解教材を作成し、発表を行った。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。工学系の様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。授業と同時進行で行った読解教材作成は、3週目から課題を出し、課題1で記事と使用箇所決め(約800字)、課題2でその記事を選んだ理由と要約、課題3で内容確認問題の作成、課題4で語彙リストやその他の問題の作成、と段階的に進めていった。発表の前には授業内で教材作成をする時間を設け、個別にフィードバックを行った。

2. その他

事前学習として各自本文を読み、授業前に内容確認クイズを受けさせた。語彙クイズは予習型で実施し、専門用語の定着を図った。また、記事の内容に関連したウェブサイトを読む課題を自由課題として適宜出し、読解練習をする機会を増やした。読解教材作成は、教材完成後に、その記事の内容と面白さを発表し、お互いに記事を読み合い、質問に答えたり、話し合ったりした。

3. まとめ・今後の課題

人数がとても少ないコースであったが、学生は積極的に授業に参加し、熱心に取り組んでいた。人数が少なかったため、発話の機会も多く、質問もしやすく、非常にいい雰囲気の中で授業を進めることができた。今学期は事前学習として内容確認クイズを取り入れたことで、授業内で読解内容についての理解を深めたり、ディスカッションを行ったりする時間を増やすこともできた。教材作成は、一つの記事を長期間に渡り読み、教材を作成していくことがその分野の理解と語彙の習得に効果的だったのではないかと思う。また、授業後に実施したアンケートではオンライン授業に対して好意的な意見が多かった。

中級3 文章

2021年度S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: Online
学習目標	: 日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。
対象	: 中級II文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
テキスト	: 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』 (アルク)
評価	: 教室活動10% クイズ10% 課題作文40% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom ID: *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	レベルチェック、オリエンテーション
2	4/ 15	木	第8課 判明していることを述べる① 課題1
3	4/ 22	木	第8課 判明していることを述べる② 復習クイズ1
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	第9課 問題点を述べる①課題2 復習クイズ2
6	5/ 13	木	第9課 問題点を述べる② 復習クイズ3
7	5/ 20	木	第10課 引用する 課題3 復習クイズ4
8	5/ 27	木	中間試験
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	第11課 解決策を述べる① 課題4
11	6/ 17	木	第11課 解決策を述べる② フォーマルなEメール1
12	6/ 24	木	第12課 手順を述べる 課題5
13	7/ 1	木	第13課 指示詞を使う フォーマルなEメール2
14	7/ 8	木	第14課 研究計画書を書く① 課題6
15	7/ 15	木	第14課 研究計画書を書く② フォーマルなEメール3
16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

中級3 文章

報告者： ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』（アルク）を主教材として用い授業を行った。当教室では中級2文章でこの教材の1課から7課を扱っている為、当授業ではその後半の8課から14課を扱い、大学で必要なレポートの書き方や研究計画書を書く為の中級で必要な文章能力を総合的に仕上げることを目標とした。又授業前半では、目上の人に対するメール文の書き方を合わせて扱い、お詫びのメール、お願いのメールなど、改まったメールの書き方も習得することを目標とした。

【授業の内容】

オンライン授業の利点を活かし、隔週でテキストの作文課題を課題として出し、適切な表現になるよう授業前までに提出・フィードバックを行うことにした。授業では重要な表現や誤りが多かった表現を中心に改めてフィードバックを行い、更に学生同士でディスカッションをしてもらった。授業中に行ったテキストの練習問題はGoogle Docのスプレッドシートをクラスワークファイルとして学生毎のタブを用意した。タブには学生からは執筆終了、確認終了、教員からは添削修了の各色を付けることとし、教員は執筆終了、確認終了の色に変わったタブから順に添削・コメントを行うことで学生の待ち時間にロスが無い様に工夫した。

2. その他

今学期は基礎力のある学生が多く、一度指摘した誤りや改善点を次回に取り込む力を持っていた。その為、中級から上級に上がるための準備として語彙や表現の言いかえの練習も行うことが出来た。又主教材の内容は、練習問題は豊富だがより良い文章作成の為のポイント説明が不足しており、学生から質問が積極的に出された。

3. まとめ・今後の課題

今学期は中級2文章までに学ぶべき事項を既に学習出来ている基礎力がある学生が集まった為、特定の個人に指導時間が割かれることが無く、授業中に他の学生を待たせてしまうようなことが無かった。先学期に比べ受講人数が半数だったことも授業の進行がスムーズであった理由の一つである。来学期以降20名前後の学生がオンラインで受講する場合には個別指導中の個人の作文練習とグループワークのバランスが取れるように更なる工夫が必要になると思われる。

上級1 総合

2021年度S1S2

レベル	: 上級1
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: online
学習目標	: 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の4技能（特に産出の話すと書く）を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、様々な時代・ジャンル（歴史・経営・芸術・文学・マンガ／アニメ・スポーツ・政治・学者）の著名人の物語を通して、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	: 中級Ⅲ<総合>コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: The Great Japanese 30の物語 中上級 - 人物で学ぶ日本語（くろしお出版）
評価	: 教室活動10% 事前課題20% 事後課題10% ビデオ課題20% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-926-1)、学部 (FEN-JL4r02L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にものみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7.Zoom address 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin, 岡 葉子 OKA Yoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	金	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 16	金	担当決定、課題確認、30の物語 Chapter5
3	4/ 23	金	30の物語
4	4/ 30	金	30の物語
5	5/ 7	金	30の物語
6	5/ 14	金	30の物語
7	5/ 21	金	中間試験
8	5/ 28	金	【休講】補講期間のため
9	6/ 4	金	30の物語
10	6/ 11	金	30の物語
11	6/ 18	金	30の物語
12	6/ 25	金	30の物語
13	7/ 2	金	30の物語
14	7/ 9	金	30の物語

15	7/ 16	金	【休講】補講期間のため
16	7/ 23	金	祝日
17	7/ 30	金	期末試験

上級 1 総合

報告者：A クラス 金 瑜眞

B クラス 岡 葉子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『The Great Japanese 30 の物語—人物で学ぶ日本語』（くろしお出版）を教科書として使用した。受講者には、毎回の授業前に、各課で取り上げる人物の物語と関連する語彙・文法の予習、本文の CD を聞くことと物語の導入問題、文型を使った短作文を課題とした。授業では本文の内容確認と短作文のフィードバックを行った後、グループ（3~4 名）で各課のディスカッションを行った。また、担当を決め、ディスカッションを整理して文にする課題と教科書の内容を書き言葉を使用し要約する課題を課した。

【授業の内容】

各授業では、まず各課の人物に関する物語を聴読解した。物語のジャンルは「歴史」「経営」「芸術」「文学」など多岐に渡っており、読解の練習後はその人物の考え方や業績について、各国の事例と比較しながらディスカッションをしてもらった。文法・表現学習については、教科書巻末の説明および用法を自習後、短作文を通して理解度を確認した。口頭表現能力については、授業内で扱ったテーマに関する日本語のプレゼンテーションを準備し、そのスクリプトと録画したビデオを提出してもらった。スクリプトとビデオを提出する際は、1 回目・2 回目に分けて提出してもらい、教員からのフィードバックが 2 回目に十分に反映されているかを確認した。また、ピア評価活動を通して、学生が自他の日本語のプレゼンテーション能力をモニターすることで、日本語でのプレゼンテーション能力の向上とプレゼンテーションスキルに対する意識化を図った。

2. その他

中間・期末試験では各課で学習した文法・表現を使用した作文と、各課でディスカッションした問題を意見文として作成する試験を行った。また、今年度は学生数が多かったため、A、B の 2 クラス編成で授業を行った。両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞ 登録者の 9 名中 7 名が修了し、受講者は総じて意欲的に活動に取り組んでいた。一方で、受講者からは、課題の量が多いという声も聞かれた。今後は、授業外の課題の負担を減らしつつ、少ない課題でも学習の効果を高められる内容に改善していく。

＜B クラス＞ 8 名登録し、7 名が継続的に授業に参加していたが、2 名は研究が多忙になったため期末テストを受けず、最終的に 5 名が修了した。中国出身の学生が多かったが、ディスカッションでは、中国以外の学生がイニシアチブを取り、意見を交わし、いい影響を与えていたようである。来学期も引き続きディスカッションの時間を確保したい。

上級1 聴解

2021年度S1S2

レベル	: 上級 1
スキル	: 聴解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: online
学習目標	: 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
対象	: 中級3 聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人またはJLPT N1相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動5%、参加度10%、課題20%、語彙クイズ15%、中間試験25%、期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-927-1、学部FEN-JL4r11L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7. Zoom ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	水	オリエンテーション, レベルチェック, 自己紹介
2	4/ 14	水	L1
3	4/ 21	水	L2, ニュース, 語彙クイズ L1&L2, 課題 L2
4	4/ 28	水	L3, ニュース, 課題 L.3
5	5/ 5	水	休講（祝日）
6	5/ 12	水	L4, ニュース, 語彙クイズ L3&L4, 課題 L4, 中間試験について
7	5/ 19	水	L6, Vocab. Quiz L6, 課題 L6
8	5/ 26	水	中間試験
9	6/ 2	水	休講(中休み)
10	6/ 9	水	L8, 課題 L8, Final Exam. F.B
11	6/ 16	水	L9, ニュース, 語彙クイズ L8&L9, 課題 L9
12	6/ 23	水	L10, 課題 L10
13	6/ 30	水	L11, 語彙クイズ L10&11, 課題 L11
14	7/ 7	水	L12, ニュース, 課題 L12, 期末試験について(1)
15	7/ 14	水	L14, 語彙クイズ L12&L14, 期末試験について(2)

16	7/ 21	水	期末試験
17	7/ 28	水	休講（前週に学期終了のため）

上級 1 聴解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週 1 回オンライン（同期型）で行われた。テキストは『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 [上級]』（スリーエーネットワーク）を使用し、全 15 課のうち、11 課を扱った。講義、発表を聞く力を養成することを目標とし、社会・文化的背景を学ぶことも重視した。

また、ラジオニュースの聴解を行い、タイムリーな話題に直接アプローチし、必要な情報を得る練習を行った。授業ではペアワーク、小グループワークを活用し、テーマについて情報を共有するなど理解を深め、発展的な意見交換を行った。また、テキストの語彙表現については復習クイズを実施し、定着を図った。

【授業の内容】

テキストのテーマは様々な分野から構成されており、受講者が常に関心を持って取り組み、掘り下げることのできる内容であった。

まず、聴解のポイントとして慣用表現に注意すること、文末を推測しながら聞くことなどを取り上げ、実践的な読み方を意識化した。講義、発表形式の聴解では、聞き取った内容を自分の言葉で話すことや、指定された字数でまとめることを重視した。要約文は毎回の課題とし、添削、アドバイスをを行った結果、多くの受講者に能力の向上が見られた。

ラジオニュース（5・6 分）聴解では、「新型コロナ」、「地震」など、生活の安全に関するニュースを扱い、身近な話題について語彙・表現を習得し、直接情報を得られるようにした。

上級聴解では、社会・文化的背景知識が理解の助けになることも多い。テキストやニュースの聴解を契機に自然環境、歴史、文化に関する幅広い知識を得られるよう努めた。

2. その他

通信環境の影響により授業に支障を及ぼす懸念があったが、教員、受講生の協力によって乗り切ることができた。

どの受講生も積極的に授業に参加し、意見を活発に交わし合えるクラスとなった。

3. まとめ・今後の課題

テキストのテーマを発展させたディスカッションやグループワークの活動時間が十分確保できないことがあった。現行のスケジュールでは十分な時間の捻出が難しいと思われる。受講生に過度の負担にならない範囲で、ラジオニュース、テキスト新出語彙の学習などを事前学習にできるかどうか検討を重ねたい。

上級1 会話

2021年度S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: online
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。
対象	: 中級3レベル会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: 日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、参加度10%、ショートスピーチ20%、クイズ15%、中間会話試験25%、期末口頭発表25% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-928-1, 学部 FEN-JL4r21L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.[Zoom ID]: 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 岡 葉子 OKA Yoko, 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	オリエンテーション、レベルチェックテスト、自己紹介スピーチ
2	4/ 13	火	第1課 好きなシーンを紹介しよう スピーチ
3	4/ 20	火	第3課 困った状況を伝えて交渉しよう、語彙クイズ第1課
4	4/ 27	火	第3課 スピーチ
5	5/ 4	火	祝日
6	5/ 11	火	第4課 不満に対処しよう、語彙クイズ第3課
7	5/ 18	火	第4課 スピーチ
8	5/ 25	火	中間試験（会話試験）、語彙クイズL4
9	6/ 1	火	休講【補講】
10	6/ 8	火	第6課 グラフや表を説明しよう
11	6/ 15	火	第6課 スピーチ
12	6/ 22	火	第7課 ステレオタイプを打ち破ろう、語彙クイズ第6課
13	6/ 29	火	第7課 スピーチ
14	7/ 6	火	第9課 働くことの意義について討論しよう、語彙クイズL7

15	7/ 13	火	第9課 ディスカッション、期末発表の準備
16	7/ 20	火	期末試験（口頭発表）, 語彙クイズL9
17	7/ 27	火	休講

上級 1 会話

報告者：A クラス 猪狩美保

B クラス 岡葉子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）を用いて、ディスカッション、インタビュー調査、発表等、様々な形態の口頭表現を学ぶことを目的にした。各課において、テーマや場面に沿った語彙や擬態語・慣用句などを学び、具体的な事実と抽象的な考え方をまぜて論理的に意見を述べる練習を行った。2020 年度に引き続き、授業は Zoom を用いてオンライン形式で実施した。

【授業の内容】

教科書にある全 12 課のうち、1 課、3 課、4 課、6 課、7 課、9 課を抜粋し、授業で扱った。各課は 1～2 コマのペースで進め、まず、テーマに関する導入ディスカッションの後、談話構成の確認、語彙や表現の確認を行い、実際にペアやグループで口頭表現の練習を行った。その次の授業では、全体で発表を行い、発表後はクラスメイトからのピア評価と教員からのフィードバックを配布した。各課終了の翌週には語彙クイズをオンラインで実施した。

中間テストは 3-4 課のロールプレイ、期末テストは 6-9 課の内容を踏まえた発表（テーマは自由）とし、内容面と表現面で上級レベルにふさわしいか、評価の対象とした。

2. その他

授業で用いるワークシートやピア評価シートの配布と提出は Google クラウドを使用した。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス> クラスの登録学生は、すでに日本に数年滞在している学生からまだ来日できていない学生まで、日本語の使用環境は異なっていたが、練習や話し合い、発表を重ねることで、互いに刺激を受け、またボランティアの日本人学生の協力もあり、コースの終わりごろには各自が自信を持って話す様子が見られた。オンライン環境下であってもできる限り多く実際に話す時間が取れるよう今後も考えていきたい。

<B クラス> 本クラスは、上級 2 会話にプレイスされた新規学生のうち、日本語の運用に不安がある者を中心に構成された。教科書の内容は即座に理解できるものの、いざ会話練習が始まるととまどう学生も少なくなかったため、上級 1 レベルから学習を始めるのは適切だったと考える。様々な形態の口頭表現を学ぶ中で、各自の得手不得手を認識し、熱心に練習を重ねる姿が見られた。日本人学生が 1 名ボランティアとして授業に参加し、学生とペアやグループになってタスクを行ったことで、学生たちの意欲も高まっていた。

上級1 読解

2021年度S1S2

レベル	: 上級
スキル	: 読解
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: online
学習目標	: 新聞・エッセイ・小説など日本社会にいてのさまざまな文章を通して、クリティカル・リーディング力を身につける
対象	: 中級Ⅲ読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: 『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク 発売日: 2015/5/28 (改訂版) ISBN-13: 978-4757426313
評価	: 中間試験 20% 期末試験 20% クイズ5% 課題30% 期末課題15% 授業参加度10% ・以下の条件全てを満たしたのものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-929-1、学部FEN-JL4r31L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。 zoom URL:
担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション、第2課
2	4/ 15	木	第4課
3	4/ 22	木	第5課、課題1、ことばクイズ①(L4)
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	第6課、ことばクイズ②(L5)
6	5/ 13	木	第7課、課題2、ことばクイズ③(L6)
7	5/ 20	木	第8課、ことばクイズ④(L7)、課題3
8	5/ 27	木	中間試験
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	第9課、課題4 (期末課題の説明)、中間試験フィードバック、
11	6/ 17	木	第10課、課題5、
12	6/ 24	木	第11課、課題6
13	7/ 1	木	第12課、課題7
14	7/ 8	木	第13課、課題8
15	7/ 15	木	第14課、課題9

16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	期末試験

上級 1 読解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』（アルク）を使用し授業を行った。次週までに1課分の本文を読んで内容理解問題に対する答えをSTARに提出してもらった。授業では、ペアで問題の答え合わせと、お互いの疑問点について話し合いをしてもらった。コース前半はことばテストを実施し、後半はブックレポートをまとめてもらった。

【授業の内容】

各学生が日本語を読む速度が違うことから、授業中に黙って個々に学生が文章を読むことを減らし、できるだけ授業中は読んで疑問を感じた点について話し合いをしてもらうことを心がけた。事前に読んできた学生達は、基本的な読み取りはできており、授業中の話し合いに参加できていた。また、クラスでの全体の話し合いでは、提出してもらった答えを画面共有しながら、疑問点を解決するよう努めた。さらに、自分の考えを発表する機会も可能な限り取っていった。

2. その他

ことばテストは前半で扱った3~5課の3回分を行ったが、学生はいずれもよく準備していた。

中間試験後、ブックレポートのプロジェクトを行った。学生は自分で日本語の本を選び、テーマの決定、アウトライン、下書き、フィードバック、清書と進めた。最後にピアリーディングを行い、共有ファイルに感想を書いてもらった。

3. まとめ・今後の課題

今回は、教科書を選択し、教材のレベルを低くした。その結果、2020年度秋学期は中級3レベルの非漢字圏出身の学生中心のクラスになった。学期当初に履修をやめた学生もいたものの、継続して出席していた学生で学期途中に脱落した学生はおらず、6名全員がコースを修了できた。しかしながら、学生たちはまだ自分たちの日本語力が十分かどうか疑問があると話していた。

2021年度春学期は、履修登録開始後は履修を希望する学生がおらず、授業開始直前に登録した学生の内、数名が実際にオリエンテーションに参加した。が、漢字圏出身の学生からやはり教科書のレベルが低すぎるという不満が出て、結果的にすべての学生が脱落してしまった。

中級3読解からの継続の課題もあるものの、まずは教科書を変更することで今後は授業改善を図りたい。

上級1 文章

2021年度S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: online
学習目標	: 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。
対象	: 中級3文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）
評価	: 教室活動5% 参加度5% 中間試験20% 期末試験20% 課題50% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-930-1、学部FEN-JL4r41L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。Zoom: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	オリエンテーション/レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 13	火	第1課「作文の基本1」 第2課「作文の基本2」 パラフレーズトレーニング1（書き言葉） 課題1
3	4/ 20	火	第3課「課題の提示」 パラフレーズトレーニング2（和語漢語） 課題2
4	4/ 27	火	第4課「目的の提示」 パラフレーズトレーニング3（名詞化） 課題3
5	5/ 4	火	祝日
6	5/ 11	火	第5課「定義と分類」 第6課「図表の提示」 課題4
7	5/ 18	火	第7課「変化の形容」 パラフレーズトレーニング4（ジャンルによる使い分け） 課題5
8	5/ 25	火	中間試験
9	6/ 1	火	休講（補講期間のため）
10	6/ 8	火	第8課「対比と比較」 パラフレーズトレーニング5（長い文、複数の文） 中間試験フィードバック 課題6
11	6/ 15	火	第9課「原因の考察」 パラフレーズトレーニング6（上位概念） 課題7
12	6/ 22	火	第10課「列挙」 第11課「引用」 課題8
13	6/ 29	火	第12課「同意と反論」 パラフレーズトレーニング7（簡潔な表現） 課題9
14	7/ 6	火	第13課「帰結」 パラフレーズトレーニング8（含意／解釈） 課題10
15	7/ 13	火	第14課「結論の提示」 課題11
16	7/ 20	火	期末試験
17	7/ 27	火	休講（前週にコース終了のため）

上級 1 文章

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）を使用し、日本語の論文やレポートの書き方について、テキストに沿って論文・レポートで使われる文型・表現の学習および練習を行った。序論、本論、結論での具体的な書き方を段階的に学び、練習問題に取り組んだ。その上で各自実際に文章を書く課題に取り組み、教師によるフィードバックを行った。また、副教材として『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（スリーエーネットワーク）を使用し、レポート・論文にふさわしい語彙や表現に関する実践的な練習も併せて行った。

【授業の内容】

テキストは毎回 1 課または 2 課進み、「課題の提示」「目的の提示」「図表の提示」などの各項目について、論文の序論・本論・結論に含まれる構成要素や展開パターン、文型・表現を学習し、その練習を行った。また、テキストの「文型・表現集」「例文集」も参照しながら、さまざまな表現について幅広く取り上げて学習した。毎回、学習した内容に基づく課題があり、各学生は実際にある程度まとまりのある文章を作成し提出した。その後、個別にフィードバックを行うとともに、学生からの文法・表現に関する疑問点や質問についてもクラス内で共有した。

2. その他

テキスト内で取り上げられているデータや図表に関しては、最新版や各国の統計など関連資料を見ていくことで理解を深め、よりスムーズな課題作成へとつなげた。また、実際の研究テーマを題材に課題を作成することも可能で、各学生の必要性や関心に応じて自由に選択できるようにした。

3. まとめ・今後の課題

コース開始時の学生が考える目標として、日本語として不自然でなく、日本語らしい文章を書きたいということがよく挙げられる。現在進めている研究の内容に加え、さまざまな事象やそれに関する自分の意見などを確実に正確に伝えることを目指して受講している学生が多い。課題や練習の積み重ねにより、コース修了時には各学生とも文章を書くスキルが上達していると言えるが、学生の目指すところへより近づけるよう、授業や課題の内容・展開についてさらに検討し改善していきたい。

上級2 総合

2021年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 総合
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: online
学習目標	: 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の4技能を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	: 上級<総合>コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%, 小テスト15%, 宿題15%, 中間試験20%, 期末プロジェクト10%, 期末試験20%, 作文10%

- ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
- 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
- ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
- ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院(3799-946-1)、学部 (FEN-JL4r03L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者のみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
-----	--

zoom URL:

担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826
----	---

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	水	オリエンテーション、新聞記事を読む
2	4/ 14	水	読解 1
3	4/ 21	水	読解 2
4	4/ 28	水	ディスカッション、言葉クイズ1、課題1 (作文)
5	5/ 5	水	祝日
6	5/ 12	水	リスニング 1、ディスカッション、言葉クイズ 2、課題 2 (作文)
7	5/ 19	水	読解 3
8	5/ 26	水	中間試験
9	6/ 2	水	中休み
10	6/ 9	水	読解 4、期末発表の準備
11	6/ 16	水	読解 5、言葉クイズ 3、期末発表の準備
12	6/ 23	水	ディスカッション、言葉クイズ 4、期末発表の準備
13	6/ 30	水	リスニング 2、期末発表の準備
14	7/ 7	水	読解 6、期末発表の準備

15	7/ 14	水	期末発表
16	7/ 21	水	期末試験
17	7/ 28	水	休講

上級2 総合

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材を使用し授業を行った。授業では、読解教材8本、聴解教材2本を扱った。読解聴解それぞれの教材を事前に学習し、問題に答えて解答を提出、授業中は答え合わせと話し合いを行った。また、コース全体を中間試験前と後の2つに分け、読解教材3本、聴解教材1本をまとめて1つのテーマを設定し、このテーマについてディスカッションとその結果を踏まえて作文を書くという構成で行った。読解教材についてはそれぞれ復習のことでテストを実施した。また、期末発表を行った。

【授業の内容】

授業で扱った内容だが、教材の大きな2つのテーマは「科学のこころ」と「日常生活」で、理系の学生にも興味を持てる前半の内容と、日本で暮らしている学生が日本と出身地との比較を行う後半の内容を設定した。

オンライン授業のため全般的にどの科目も課題が多いという問題が指摘されていたため、学期前半は事前に課題を提出してもらい、後半は授業中に課題を各学生が行った後答え合わせを行った。この結果、単位希望の学生2名がコースを修了できた。この2名は、積極的に授業に参加し、たくさん発言してくれて、授業中の話し合いは活発だった。

聴解については教材も試験問題も東京大学のオンラインビデオを中心に選んだが、学生はよく理解しており、語彙の点でも問題がなかった。

2. その他

各テーマについてディスカッションしてもらったが、司会担当の学生がうまくリードしてくれて意見交換の練習がうまくできた。

履修学生が少なかったので、授業中にも期末発表の準備を行うことができ、また発表当日には日本語教室のスタッフの方2名、日本人のボランティア1名が聴衆として参加してくださり、いい発表会ができた。

3. まとめ・今後の課題

学生は熱心に学習に取り組んでいた。教材のレベルもちょうどよく、毎回大変楽しい授業だった。残念だったのは、専門の研究の日程との関係で、熱心に参加してくれていた2名の学生がコース参加を途中でやめてしまったことである。2名とも日本語レベルが高い学生だったが、継続参加していれば学べることはまだ多いと思われたので、機会があれば今後も自分で日本語学習を続けてもらいたいと思う。

上級2 会話

2021年度S1S2

レベル	: 上級 2
スキル	: 会話
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: online
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼンなどの活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得し、批判的な思考力を養うことを目指す。
対象	: 上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上
テキスト	: テキストは使用しない
評価	: 教室活動10%参加度 10% ショートスピーチ20% 中間口頭発表 20% 期末口頭発表 20% 課題 20% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-948-1, 学部 FEN-JL4r22L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. ZoomID: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション、レベルチェック、自己紹介
2	4/ 15	木	身の回りのことを詳しく説明する1
3	4/ 22	木	身の回りのことを詳しく説明する2、録音課題① (締切4/29)
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	社会文化的なことについて話す1、録音課題② (締切5/13)
6	5/ 13	木	中間試験説明・準備、社会文化的なことについて話す2
7	5/ 20	木	中間試験(口頭発表) 前半
8	5/ 27	木	中間試験(口頭発表) 後半
9	6/ 3	木	中休み
10	6/ 10	木	中間試験フィードバック、ディスカッションについて
11	6/ 17	木	ディスカッション1、録音課題③ (締切6/24)
12	6/ 24	木	ディスカッション2
13	7/ 1	木	期末口頭発表導入、ディベートについて、録音課題④ (締切7/8)
14	7/ 8	木	学期末口頭発表準備1、ディベート1
15	7/ 15	木	学期末口頭発表準備2、ディベート2

16	7/ 22	木	祝日
17	7/ 29	木	学期末口頭発表

上級 2 会話

報告者：宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級 1 会話コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、テキストを用いず新聞やテレビ動画、ラジオなどの情報を用い授業を進めた。

トピックに沿って、少人数でのディスカッションを行い、その内容をクラスで発表することを通し、意見をまとめ、表現する力の習得を目指した。また自らの意見とは違う意見にも耳を傾け、論点を見つけ、建設的なディスカッションができるような姿勢、思考力を身につけることも目標の一つとした。

ディスカッションの他、ディベート、発表プレゼンテーションの活動も行った。

【授業の内容】

扱ったトピックは順に以下の通りである。

身近なことを詳しく正確に伝える：「自分の好きなもの（相手に興味を持ってもらうよう工夫して話す）」「思い出に残る食事」

S D Gs（持続可能な開発目標）より：「SDGs について調べてわかりやすく伝える」「ジェンダー（『82 年キムジョン』を扱ったドキュメンタリーを元に）」「格差社会（都会と田舎の教育/インフラ）」

学生が選んだトピック：「日本社会のルール」「不要不急とは」「友達を作る努力は必要か」「安楽死は合法化すべきか」「結婚相手」

また、授業の最初に、毎回 3 人ずつ、「今週の気になるニュース」として、一週間のニュースの中から一つ選び、PPT 一枚にまとめて発表してもらった。

中間試験は自分の研究について 3 分でまとめて発表する「Three Minute Thesis」、期末試験は各自選んだ社会問題についての発表動画作成を試験課題とした。期末発表動画は事前提出とし、期末試験日には、クラスで動画についての質疑応答を行った。

2. その他

新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンライン授業を Zoom で実施した。

課題として、NHK ニュースを朗読する音声録音を課した。動画を見て、アナウンサーの発音を真似て練習し、朗読音声を録音。自らの発音を客観的に聞き訂正できる活動だと好評だった。

3. まとめ・今後の課題

オンライン授業中心の学生生活で孤独を感じている学生が多かったため、活動によりお互いを知り、友人が増やせるよう雰囲気作りも心がけた。毎回の「気になるニュース」では、クラスメイトの興味関心を知ることができるいい機会になり、質疑応答も活発だった。

今後の課題として、オンライン会話授業での個別指導について考えていきたい。

上級2 文章

2021年度S1S2

- レベル : 上級 レベル 2
- スキル : 文章
- 開講期間 : 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
- 時間 : 10:25 - 12:10 火曜日
- 場所 : online
- 学習目標 : 自分が関心ある分野の論文を3本以上読み、まとめた内容の論理的文章をアカデミックな文章記述の基本的な形式に則って書けるようになる。
- 対象 : 上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1以上
- テキスト : 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
- 評価 : 教室活動10% 参加度10% 中間試験20% 期末試験（最終成果物）30% 課題30%
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
- その他 : 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-950-2、学部FEN-JL4r47L1
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
 7. Zoom ID:
 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
- 担当 : 岡 葉子 OKA Yoko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	火	授業ガイダンス、自己紹介、論文の構成
2	4/ 13	火	剽窃について、コンセプト・マップの作成
3	4/ 20	火	論文のテーマ報告
4	4/ 27	火	序論の書き方の確認、自分なりの問題提起文を考える
5	5/ 4	火	祝日
6	5/ 11	火	参考文献について報告する、問題提起文を書く
7	5/ 18	火	アウトラインを考える、序論を書く
8	5/ 25	火	中間報告会（序論を検討する→修正）、本論を書く
9	6/ 1	火	休講
10	6/ 8	火	本論を書く
11	6/ 15	火	本論を検討する→修正
12	6/ 22	火	結びを書く
13	6/ 29	火	結びを検討する→修正
14	7/ 6	火	全体を書き直す
15	7/ 13	火	論文を完成させる
16	7/ 20	火	論文の発表と質疑応答
17	7/ 27	火	休講

上級 2 文章

報告者：岡葉子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、上級文章コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、今年度から新たに設置されたコースである。授業参加者は、自分が関心ある分野の論文を 3 本以上読むこと、5000 字程度のまとまった長さの論文を作成することを目指す。授業は、火曜日 2 限に基本的には 105 分の同期型オンライン形式で実施した。

【授業の内容】

『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）に沿って、論文の構成や論文に特徴的な表現などを学び、Google ドキュメントを共有して確認問題やタスクの答え合わせを随時行った。

教科書を用いた演習と並行して、ほぼ 2 週間ごとに課題を与えた。課題とは、テーマ設定・序論構成・本論アウトラインの作成および先行研究の考察（中間試験相当）であり、クラス内で発表・ピア評価をさせた。学期後半は、個別の課題を提出させるのと並行して、最終成果物（期末試験相当）の締め切り日を繰り返しアナウンスし、論文執筆を促した。授業の最後の 3 回は個別の論文フィードバックを行い、論文執筆の間はカメラオフも認めた。最終日には論文の発表会を実施し、口頭での発表と質疑応答を実施した。

2. その他

2020 年度から新たに設置されたコースである。

3. まとめ・今後の課題

6 名が登録し、最終発表は 4 名行い、修了者は 3 名であった（1 名は最終成果物を提出しなかったため）。昨年度の修了者が 2 名（S1S2 学期）、1 名（A1A2 学期）だったことを考慮すると、今学期は若干人数が多くなったと言える。

修了者が少なくなってしまう理由としては、やはり最終成果物の作成に時間がかかるからだと考えられる。昨年度は学生の要望に応じて当初 8000 字と伝えた字数を 5000 字に減らした経緯がある。とはいえ、早い段階でテーマを固め参考文献も読み込んでいた学生や、自分の趣味の延長をテーマにした学生などは、比較的順調に論文執筆作業を進めていたように見受けられるため、今後もテーマ設定の際に適度なアドバイスをするように心がけたい。

上級 日本組織事情

2021年度S1S2

レベル	: 上級
スキル	: その他
開講期間	: 2021/ 04/ 05 - 2021/ 07/ 30
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: online
学習目標	: 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。
対象	: 日本語 中級3を修了した人、又はJLPT N1相当、学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10%、課題45%、発表20%、期末試験20% クイズ5% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位_2_認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード: 大学院 3799-951-1. 学部 FEN-JL4r50L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 ZOOM新ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 佐野 理恵 SANO Rie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	木	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 15	木	日本の就職事情
3	4/ 22	木	エントリシートの対策1 (*自己PR)
4	4/ 29	木	祝日
5	5/ 6	木	エントリシートの対策2 (*学生時代頑張ったこと)
6	5/ 13	木	エントリシートの対策3
7	5/ 20	木	業界研究発表1 中間試験
8	5/ 27	木	業界研究発表2 中間試験
9	6/ 3	木	休講
10	6/ 10	木	エントリシートの対策4 (*志望動機)
11	6/ 17	木	面接1
12	6/ 24	木	面接2
13	7/ 1	木	面接3
14	7/ 8	木	内定者・OB/OGの話を聞く
15	7/ 15	木	ビジネス場面における敬語
16	7/ 22	木	休講
17	7/ 29	木	ビジネスメール・報告書書き方、*期末試験

上級 日本組織事情

報告者：佐野理恵（文責）、古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

R3 年度もオンライン講座として開講、就職やインターンシップのために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを養うことを目的に、実践的な授業を実施した。受講登録者数が1コースあたり20名を超えたため、講師2名体制を基本とし、授業内で個別の成果や課題をフィードバックする機会を増やした。また、留学生就職促進プログラム（CDIPs）で作成したオンデマンド教材を各講座の予習や復習のための学習ツールとして紹介した。

【授業の内容】

授業内容は、就職活動の流れから始まり、エントリーシート（ES）の書き方、業界／企業研究、面接練習、最後に敬語やビジネスマナーなどをテーマとした授業を実施した。ESでは、自己分析を通じて、職業と自身の強みや専門性を結び付けたキャリアプランについて検討した。「自己PR」「学生時代に力を入れたこと」をそれぞれ400字の課題とした。業界／企業研究では、学生の発表を中間試験とし、企業研究に基づいた400字の「志望動機」を課題とした。面接対策では「個人面接」「集団面接」「グループディスカッション」の3種類の対策を目的に、ビデオ視聴やロールプレイング、ペアによるフィードバックなどを取り入れた実践練習を行った。応募者としての練習だけでなく、面接官として評価する視点も養った。

2. その他

日本組織事情コースの過去受講生より、各コース3名の内定者に依頼し、就職活動の進め方や内定までの苦勞、企業決定の理由、就活生へのアドバイスなどを中心に話題提供してもらう講話会をオンラインで実施した。内定者の話は、身近な実話として好評で、内定者からの講話後は受講生から多くの質問があがった。

また、冬季Aコースでは日本人内定者がTAとして授業サポートに入った。自らの経験をもとに、授業内での助言やロールプレイングに参加、就職活動に関する有益な情報提供のみならず、メンタル面でも受講生を励ますサポーターとなった。

3. まとめ・今後の課題

採用選考のオンライン化が定着する中、最終面接などを対面式に戻す企業も増えたことから、入退室マナーや対面面接の練習を希望する声も増えている。また、オンデマンド講座により授業内容に関するフォロー体制が整いつつあるものの、対面式と比較すると受講生同士の一体感やつながりが感じられる雰囲気や醸成が困難であるため、マイナス面を埋めるコンテンツや工夫が必要になってくる。来学期（S1S2）もオンラインによる授業が決定しているが、受講生の理解や課題への取り組み状況を確認しながら、必要なフォローやコンテンツの見直しを行う。また、CDIPsと連携する形で、個別キャリアカウンセリングやフォローアップ講座などを通じ、対面でのニーズ等に対応していきたい。

ビジターセッション・日本事情

2021年度S1S2

レベル : 全レベル
 スキル : 該当無し
 開講期間 : 2021/ 04/ 21 - 2021/ 07/ 30
 時間 : 13:00 - 14:45 水曜日
 場所 : online
 学習目標 : 留学生と日本人のボランティアの方たちと共に留学生の出身地の文化、そして日本文化について様々な切り口から学ぶ。
 ・好きなトピックについて日本語で話す
 ・日本語や日本文化について知識のある人に質問する
 ・少人数(2～3名) のグループで会話を続ける
 対象 : 全レベルの学習者
 テキスト : なし
 評価 : 単位なし
 その他 : 学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。
 Zoom address:
 担当 : 金 瑜眞 (キム ユジン) KIM Youjin, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 21	水	オリエンテーション 自由会話
2	4/ 28	水	休講
3	5/ 5	水	祝日
4	5/ 12	水	自由会話
5	5/ 19	水	自由会話
6	5/ 26	水	休講
7	6/ 2	水	休講
8	6/ 9	水	自由会話
9	6/ 16	水	自由会話
10	6/ 23	水	自由会話
11	6/ 30	水	自由会話
12	7/ 7	水	自由会話
13	7/ 14	水	休講
14	7/ 21	水	休講
15	7/ 28	水	休講

ビジターセッション&日本事情

報告者：金 瑜眞、早坂 美和子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

2021 年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、近距離で会話を行う対面での自由会話および文化体験を全て中止し、Zoom を使用したオンラインでの自由会話のセッションを実施した。形式は対面時と同様、当日本語教室のボランティアの方々と留学生で少人数のグループを作成し、Zoom のブレイクアウトルームを使い、各グループで自由な会話をしてもらった。10 名のボランティア（秋山賢一氏、北林三枝子氏、小林桜子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、寺田美奈子氏、橋本富美栄氏、松枝文恵氏、野城ゆうこ氏、山崎佳子氏）にご協力をいただいた。留学生は、ゼロ初級から上級レベルの学生まで、全レベルにわたる学生が参加した。

1-2. 授業の内容

各セッションにおいては、毎回異なるボランティアと留学生たちをグループにし、多様な日本語母語話者と交流及び練習が可能になるように調整した。ボランティアには、様々な話題について日本語で話し合ってもらい、学生への話題提供や日本語での発話を促すために日本の文化に関する写真や簡単な初級教材をご準備いただいたこともあった。ボランティアとの会話の練習を通して、初中級の学生には、授業で勉強した文型や語彙を使った日本語の口頭表現の運用力を高める機会を提供し、上級の学生には、年長者との会話を通して敬語、ビジネス日本語などの練習の機会を提供することができたと考えられる。

さらに、2021 年度は、オンラインでの実施により、入国規制などで来日が難しい海外からの学生はもちろん、外出自粛で日本語母語話者との交流の機会が少なくなっている日本在住の留学生にも、日本語の会話の機会を提供することができた。

2. その他

2021 年においても依然として新型コロナウイルスの影響が続いているため、夏休み、春休みにおいて、各 3 回の特別オンラインビジターセッションを実施した。来日が困難である海外からの学生や外出自粛を行っている日本国内の留学生に、継続して日本語の会話の機会を提供していく予定である。

3. まとめ

今回もボランティアの方々には学生に丁寧に指導して頂いた。末筆ながらボランティアの方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

チュートリアルセッション

報告者： 金 瑜眞・岡 葉子

1. 概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者ごとのニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的： 留学生の個別日本語学習支援

対象： 工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

- ・論文、レポート、研究計画書、研究概要の添削
- ・ビザ申請書類、履歴書等の添削や面接の練習
- ・日本語能力試験対策指導
- ・日本語学習方法アドバイス
- ・既習学習内容に対する復習 など

2. 実績

2021 年度においては、学期中は実施せず、夏休み（2021 年 9 月）と春休み（2022 年 2 月）期間中に開催した。実績は以下の通りである。

開講日時：

2021 年 9 月 9 日（木）－ 2021 年 9 月 21 日（火） 14:00-16:00

2022 年 2 月 15 日（火）－ 2022 年 2 月 25 日（金） 14:00-16:00

時間：1 回 60 分

利用件数：夏休み 9 件、 春休み 10 件

指導内容：既習学習内容の復習、日本語授業の履修相談、日本語の学習方法に関する相談、日本語能力試験対策、研究概要の添削、就職活動・履歴書作成に関する相談など

3. まとめ・今後の課題

2021 年度は新型コロナウイルスの影響により、Zoom を使いチュートリアルセッションを実施した。学期中のオンライン授業の中では口頭練習の機会が少ないという問題が生じたため、夏休み・春休みに学習相談としてのチュートリアルを実施した。既習学習内容に関する相談や日本語能力試験対策が多かったことから、平常授業のサポートや試験対策として機能していたと考えられる。さらに、就職活動や研究内容に関する日本語作文添削などの相談も寄せられたため、対応した。2022 年度も新型コロナウイルスの影響を鑑み、Zoom 等を活用するなど、個別日本語学習支援に柔軟に対応したい。

2.5 受講者と修了者

2021 年度に実施した S1S2、A1A2 学期の受講者と修了者について報告する。尚、以下に記載する事象の内、2020 年 3 月に深刻化した新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けたものがあることを本章の冒頭記しておく。

図 2 は、2011 年度から 2021 年度¹までの年度別延べ数および実数の受講者数の推移である。

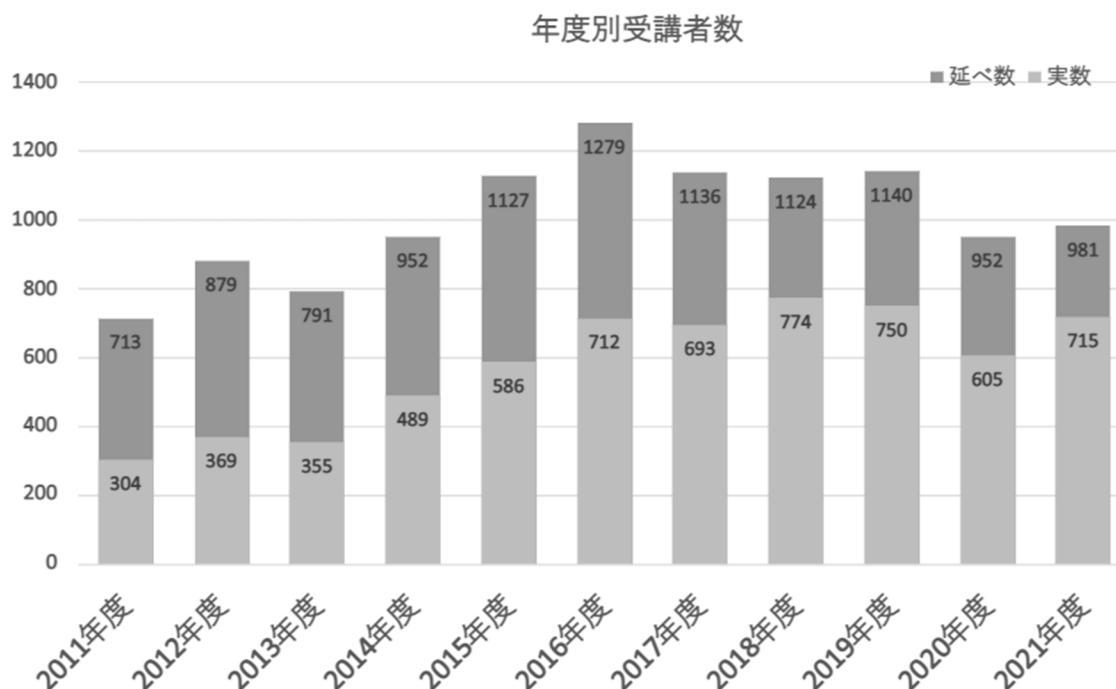


図 2 年度別受講者数推移

カリキュラムの継続的な改善と日本語科目の単位化の浸透により受講者が急増した 2015、2016 年度をピークに受講者数は若干減少しており、ここ数年は横ばいである。その背景としては、2017 年度からコースに他研究科からの登録に対して定員制を設けたことと、同年、当教室の登録・管理システムである STAR (Student Tools for Access and Review) を都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と共有したことが挙げられ、システムを共有し、受講者のバランスを図った結果と言える。一方で、実数の割合はここ数年増加しており、新型コロナウイルス蔓延の影響を受け 2020 年度は延べ数で前年比 188 名減、実数で 145 名減少したが、2021 年度は再び増加に転じ、延べ数で 29 名増、実数で 110 名増となり、受講者総数における実数の割合は約 73% で、2011 年度に統計を取り始めて以来、最高値となった。また、2020 年度に上級 2 が新設され、それまでの 6 レベル 30 コースから 7 レベル

¹ 2020 年度より、日本語教室の所属部局名は、工学系研究科 国際工学教育推進機構 日本語教育部門から工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門となり、日本語教室の HP 上の名称も 2022 年 1 月に更新された。

33 コース²⁾に選択肢が拡大されたことに伴い、これまで以上に、個々の学習者が、それぞれのニーズに合わせてコースを選択していると推察される。このことも受講への意欲を喚起している一因と言えよう。ただ、長期的な学習プランを立てずにスキル別コースのみを選択するケースも一定数見られるため、この点は今後の検討項目のひとつと考えられる。

2.5.1 S1S2受講者

2021年度S1S2では、コロナウイルス感染拡大に伴う措置により引き続き不開講となった「多文化理解プロジェクト」を除く7レベル、32コースを開講した。その受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

表2は、研究科別の各レベルの受講者の延べ数と実数である。

表2 2021S1S2 研究科別・レベル別受講者数 () 内は単位申請者数

研究科 \ レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級Ⅰ	上級Ⅱ	延べ合計	実数合計
① 工学系研究科	31	40	46	76	44	48	14	299(61)	204(49)
② 情報理工学系	8	10	17	8	13	7	2	65(18)	50(18)
③ 新領域研究科	4	4		10	6	5	1	30(10)	21(9)
④ 全学交換留学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 他研究科	3	4	5	14	13	19	13	71(20)	53(16)
合計①～⑤	46(13)	58(13)	68(10)	108(23)	76(17)	79(20)	30(13)	465(109)	328(92)

2020S1S2と比べると、実数で合計45名増加した。全受講者（実数328名）のうち、工学系研究科の受講者（204名）が占める割合は約62%で、昨年度の53%から9ポイント増加した。しかしながら、近年、増加傾向にあった全学交換留学生(以下、章内、USTEP生と略す)が、2021S1S2においては、政府の厳しい水際対策の影響も受け、2019S1S2 (41名)、2020S1S2 (14名)からさらに減り、USTEP生を受け入れ始めてから初めて0名という結果となった。

身分別の延べ数(図3)は、例年通り、全体(465名)に占める修士の割合が62%と際立って高く、2021年度は、博士と合わせ、本学の大学院に籍を置く受講者の割合が85%となり、2019年度の52%と比べると33ポイント増、昨年度の66%からは19ポイント

²⁾ 工学系日本語教室には、「多文化理解プロジェクト」というコースもあり、全33コースとなるが、2020年度はコロナウイルス感染拡大に伴う措置により、「多文化理解プロジェクト」は不開講となった。そのため、本報告書では、2.5.1章以降「7レベル32コース」として報告する。

の増となった。これは、コロナ禍において入国制限が非常に厳しくなったためだと考えられる。USTEP 生（0%）のほか、学部生も0%となり、大学院外国人研究生が昨年度の45名から31名、大学院特別聴講学生が27名から3名になるなど、図3のすべての身分別受講者において、数値が減少した。

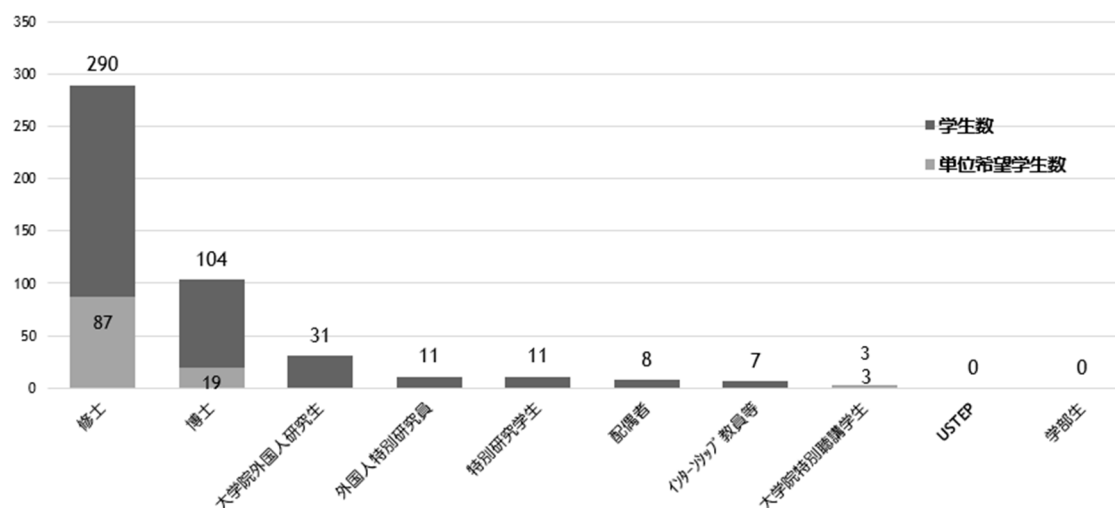


図3 身分別受講者数

USTEP：全学交換留学生

専攻別の延べ数（図4）を見ると、例年学生数が多い機械工学が昨年度の4位（21名）から32名増の53名となり、再び1位となり、昨年度1位であった電気系工学は、前年比5名増の44名で本年度は2位となった。建築学の割合は例年通り安定して高く（4位30名）、技術経営戦略も昨年度より8名受講者が増え、第5位であった。尚、2021S1S2において受講者数を伸ばしたのは、社会基盤学で、昨年度13位（11名）から24名増の3位（35名）となった。

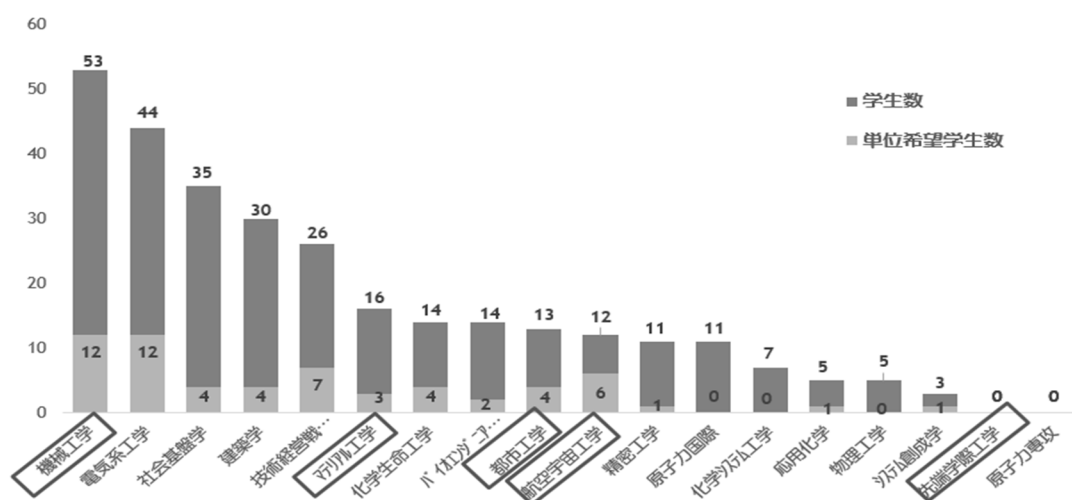


図4 専攻別受講者数

* 枠囲み：日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

国籍別受講者数（表3）の延べ数では、合計41カ国のうち、例年通り中国の割合が高く、昨年の42%から20ポイント増の62%と大きく数値を伸ばし、過去最高値となった。中国に次いで受講者数が多かったのはインドで、昨年度の7位、12名から2位22名となった。台湾からの受講生も17名と、一定数いるが、昨年度の28名から11名の減少となった。その他、アジアの中では、これまで安定した受講者数があったタイが昨年度22名から今年度4名と大きく落ち込んだ。アジア以外では、アメリカからの受講生が昨年度とほぼ同数（21名→19名）おり、コロナ禍においても継続して一定数の受講生がいる。ヨーロッパにおいては、ドイツ（14名→11名）、フランス（15名→8名）となっており、受講者数は減少している。これは、交換留学生の受け入れがなかったことが要因であると思われる。

表3 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級1 延べ数	初級2 延べ数	中級1 延べ数	中級2 延べ数	中級3 延べ数	上級1 延べ数	上級2 延べ数	合計 延べ数	実数
1	中国	27	30	35	62	53	58	25	290	216
2	インド	6	3	8	3	2	0	0	22	15
3	アメリカ合衆国	1	1	7	5	4	0	1	19	9
4	台湾	2	2	0	1	3	6	3	17	12
5	ドイツ	0	0	4	2	0	5	0	11	3
6	フランス	1	1	0	3	3	0	0	8	5
6	ロシア	0	0	2	6	0	0	0	8	2
	8位～41位計	9	21	12	26	11	10	1	101	66
	合計	46	58	68	108	76	79	30	465	328

2) 専攻日本語教室受講者

表4は工学系内の専攻日本語教室のS1S2の受講者である。

前述のように、工学系日本語教室は2017年度S1S2以降、都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室とSTAR（Student Tools for Access and Review）システムを共有して日本語コースの登録を行っており、日本語コースレベルの統一および受講者数のバランスが改善されている。尚、社会基盤学日本語教室の初級1は、昨年度は4月入学者数減少に伴い日本語レベル入門相当の該当者がいなかったため開講しなかったが、2021S1S2は以下のように開講された。

表 4 S1S2 専攻日本語教室受講者数(実数)

専攻 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 I	中級 III	上級	計
社会基盤学	5	14				19
都市工学	都市工 3 工学系 3 他 3	都市工 6 工学系 2 他 1	都市工 3 工学系 1 他 1			都市工 12 工学系 6 他 5
システム 創成系			システム 4 工学系 3 他 0	システム 6 工学系 1 他 3		システム 10 工学系 4 他 3
IME			IME 5 工学系 0・他 0		IME 1 工学系 0・ 他 0	IME 6 工学系 0 他 0

2.5.2 S1S2 修了者

次に2021年度S1S2修了者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は延べ339名、実数257名、単位取得者は、延べ100名、実数88名であった。実数で見ると受講者実数328名に対する修了者実数257名の割合は78%で、昨年度の73%と比べて5%、一昨年度の58%に比べると20ポイント増加した。これは2020年4月5日からオンライン授業が開始された結果、移動に伴う時間が不要となり、研究と日本語学習の両立が容易になったことが要因と思われる。

研究科別では、工学系研究科の実数の修了割合が78%（昨年度72%、2019年度51%）と昨年度からさらに5ポイント上昇した。

表 5 2021S1S2 研究科別・レベル別修了者 () 内は単位取得者

研究科 \ レベル	初級 I	初級 II	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
⑥ 工学系研究科	24	31	30	53	37	38	7	220(54)	159(45)
⑦ 情報理工学系	7	8	15	7	11	6	1	55(18)	45(18)
⑧ 新領域研究科	4	3	0	7	4	3	1	22(9)	17(8)
⑨ 全学交換留学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩ 他研究科	3	4	3	10	8	9	5	42(19)	36(17)
合計①～⑤	38	46	48	77	60	56	14	339(100)	257(88)

2) 専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、表 6 のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されることから、2021 年度 S1S2 でも全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は、1 コマ 2 単位が付与されるが、2019 年度はいずれも単位取得者は少なかった（都市工 13 名中 1 名、システム創成系 19 名中 3 名）。この傾向は、昨年度においてもシステム創成系専攻日本語教室では変わらなかったが（14 名中 1 名）、都市工学専攻日本語教室においては、2020 年度に単位取得者が 12 名中 7 名に増え、2021 年度も 12 名中 5 名が単位を取得した。

表 6 専攻日本語教室修了者数（実数）（ ）内は単位取得者

専攻 レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅲ	上級	計
社会基盤学	3(3)	14(14)				17(17)
都市工学	都市工 3(2) 工学系 1(1) 他 3(1)	都市工 5(2) 工学系 1(1) 他 1(1)	都市工 4 (1) 工学系 1(0) 他 1(1)			都市工 12(5) 工学系 3(2) 他 5(3)
システム 創成系			シ創 4(0) 工学系 0 他 0	シ創 3(0) 工学系 0 他 2(1)		シ創 7(0) 工学系 0 他 2(1)
IME			IME 5 工学系 0・他 0		IME 1 工学系 0 他 0	IME 6 工学系 0 他 0

2.5.3 A1A2受講者

次に、2021年度A1A2の受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

A1A2 は 7 レベル、32 コース中、受講者は延べ数 353 名、実数 260 名であった（表 7）。昨年度の A1A2 と比較すると、延べ数は 41 名増加、実数で 47 名増加した。工学系日本語教室の受講者数が全体に占める割合は継続して高く、延べ数で 68%、実数で 67%となっている。

研究科別に見ると、昨年度は工学系と情報理工学系の学生が減少したが、2021A1A2においては、工学系は前述のとおり増加傾向に転じ、情報理工学系の学生も前年度より延べ数で 7 名、実数で 17 名増加した。また、コロナ禍の影響で 2020A1A2 において 1

名（2019年度68名）に留まった全学交換留学生（USETP生）が5名になった。しかし、他研究科の受講者数は、昨年度の85名からさらに減少し、60名（いずれも延べ数）となった。受講者数は、S1S2と合わせると延べ数981名で、前年度の952名から29名増加したが、2019年度の1,140名と比べると159名の減少となり、依然としてコロナ禍前の水準には達していない。

尚、工学系日本語教室におけるレベル別の受講者は、例年初級レベルに集中する傾向にあったが、2019年度より中級レベルの学習者が増え（延べ数の57%）、2020年度も中級1～3の受講者の合計が延べ数で159名おり、全受講者の51%を占めた。2021S1S2では、やや減少に転じたものの、延べ数で171名が受講しており、全受講者の48%を占めている。この背景には、来日前に母国で日本語を学んでくる学生が一定数いること、特に独学³で日本語を学ぶ学生が増えていることが背景にあると考えられる。

表7 A1A2 研究科別・レベル別受講者数 () 単位申請者

研究科 \ レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級Ⅰ	中級Ⅱ	中級Ⅲ	上級Ⅰ	上級Ⅱ	延べ数 合計	実数合計
① 工学系研究科	59	43	72	56	43	59	21	353(82)	260(66)
② 情報理工学系	16	9	11	9	4	8	2	59(17)	51(17)
③ 新領域研究科	4		13	1	7	12	2	39(17)	25(12)
④ 全学交換留学生	0	0	2	0	0	3	0	5(5)	5(5)
⑤ 他研究科	9	5	9	14	9	12	2	60(26)	46(21)
合計①～⑤	88(31)	57(13)	107(25)	80(19)	63(23)	94(32)	27(4)	516(147)	387(121)

身分別（図5）では、2021年度A1A2も昨年同様、圧倒的に修士（274名）が多く、次いで博士（151名）、大学院外国人研究生（38名）、特別研究学生（14名）と続くが、このほか、特別研究学生（13名）、配偶者（10名）、インターンシップ教員（5名）、大学院特別聴講生（4名）、2021S1S2では0名だった全学交換留学生（USTEP生）が5名、同じく0名だった学部生も2名受講するなど、受講者の身分の多様性という点では、コロナ禍からの回復の兆しが見えてきたと言えるのかもしれない。

³ 漢字圏の学生は、比較的短期間の独学により、JLPTの2級や1級に合格し、学期前のプレイスメントテスト前の自己評価が高い学生が多く見られるが、コースレベルチェックにおいては、文法力、表現力、会話運用能力に問題のあるケースも一定数見られる。

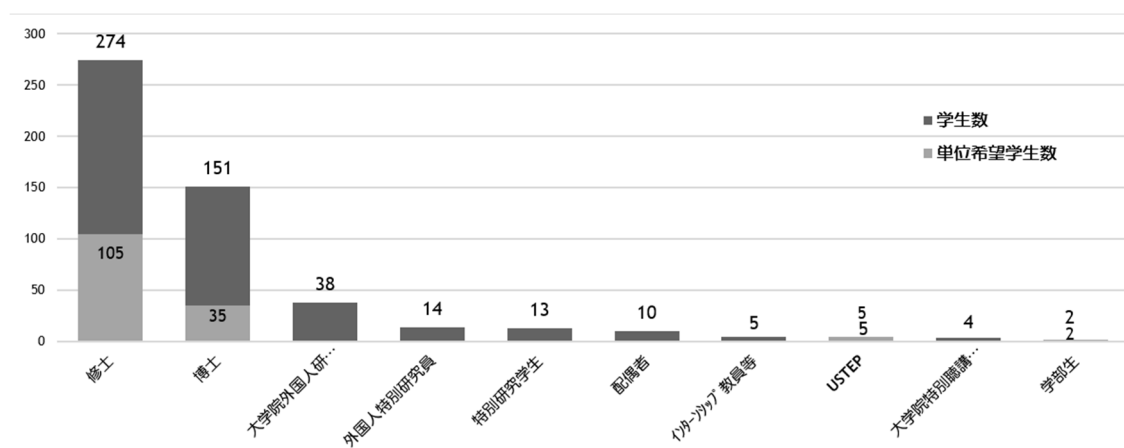


図5 身分別受講者数

専攻別学生数は、図 6 が示すように、18 専攻中、17 の専攻からの受講があった。昨年度の A1A2 同様、機械工学が 1 位で 69 名、電気系工学が 3 位で 37 名と安定した受講者数であるが、2021A1A2 では、昨年度 6 番目の受講者数であった建築学専攻の受講者が 40 名(昨年度 22 名)に増え、2 位となった。その他の専攻で 2020A1A2 に比して受講生が増えたのは、社会基盤学 (7 位 21 名→4 位 36 名)、バイオエンジニアリング (5 位 23 名→5 位 31 名)、原子力国際 (11 位 13 名→6 位 28 名) であった。逆に受講者数が増えなかったのは、マテリアル工学 (3 位 27 名→7 位 22 名) であった。

尚、単位に関しては、日本語科目の単位が修了要件として認められている機械工学、マテリアル工学、航空宇宙工学、都市工学、先端学際工学の 5 専攻のうち、機械工学においては 41%の学生が希望しているが、その他の専攻に関しては、修了要件が単位取得希望に直結しているわけではないことが図 6 から窺える。

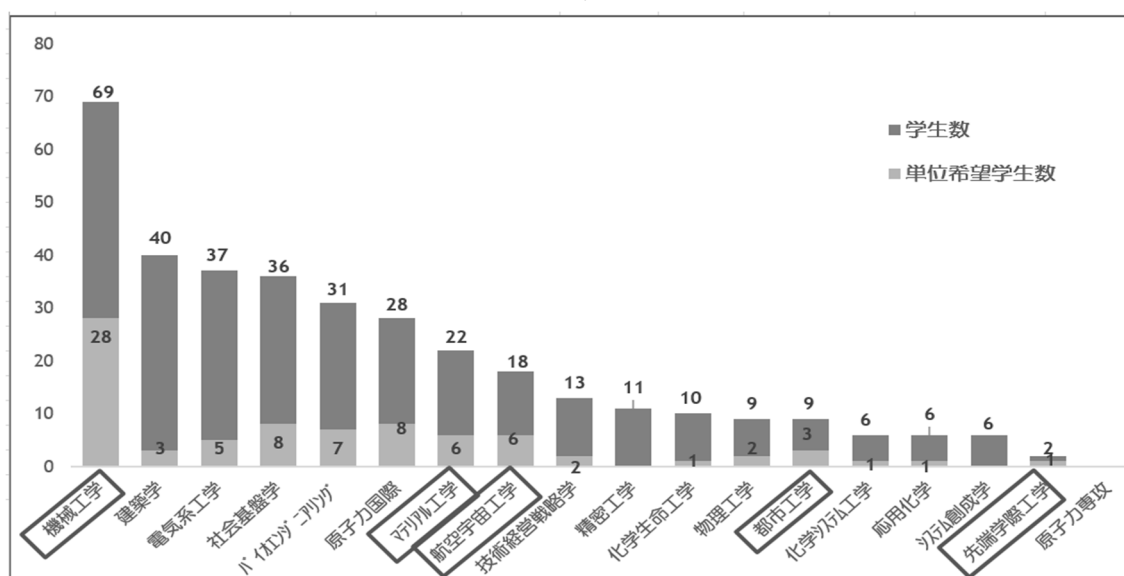


図 6 専攻別受講者数

* 枠囲み: 日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

次に受講者の国籍（表 8）について述べる。

表 8 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	合計 延べ数	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数		
1	中国	43	34	46	29	52	70	20	294	230
2	インド	12	5	5	4	0	0	0	26	21
3	台湾	2	5	0	5	1	6	0	19	14
4	アメリカ合衆国	1	3	2	7	0	1	0	14	8
5	タイ	2	1	6	1	0	2	0	12	9
6	シンガポール	2	0	3	4	2	0	0	11	6
7 位～46 位計		26	9	45	30	8	15	7	140	99
合計		88	57	107	80	63	94	27	516	387

合計 46 カ国のうち、例年約半数を占めていた中国からの留学生がさらに増え、約 60% を占めた。特に中級以上のコースで中国国籍の受講者が多く、上級は中国人学生が大部分で、この傾向はここ数年顕著である。また、近年は台湾、タイ、韓国に続き、フランス、ドイツからの受講生が一定数を占めるようになっていたが、2021 年度においては韓国が S1S2(14 位 5 名)、A1A2(7 位 10 名)で、いずれの学期も上位 6 位までに入らなかった。また、交換留学生が多いフランスやドイツは、受け入れが中止となったため、A1A2 では受講者数が減少した。代わりに受講者が増加したのは、インド、台湾、アメリカなどで、この中には既に来日している学生とオンラインで受講した学生が含まれる。

2) 専攻日本語教室受講者

S1S2 の説明でも述べたが、2017 年度より都市工学、システム創成系日本語教室は、工学系日本語教室のオンライン登録システム「STAR」(Student Tools for Access and Review) を共有して使用しており、それによって、専攻日本語教室における工学系の受講者が増加した。しかし、2021 年度は、システム創成系日本語教室は 17 名（昨年度 19 名）、都市工学の受講者は 27 名（昨年度 23 名）に留まった。IME も昨年度 4 名の受講者数とほぼ同数の 5 名であった。その中で社会基盤学専攻日本語教室の受講者は、23 名（昨年度 15 名）から 8 名増加した。専攻日本語教室の受講者が総じて減っている背景には、本章冒頭で述べたように、新型コロナウイルス感染拡大の影響が未だ大きいことが要因だと言えよう。

表9 A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数）（）内は単位希望者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級	合計
社会基盤学	18(17)	5(5)	—	—	23(22)
都市工学	都市工 9	都市工 3	都市工 2	—	14(9)
	工学系 4・他 1	工学系 1・他 4	工学系 3・他 0		8(1)
	9(6) 4(1) 1(0)	3(3) 1(0) 4(1)	—		5(2)
システム 創成系	※ｼｽ創 4	ｼｽ創 2	ｼｽ創 3	—	9(1)
	工学系 1・他 0	工学系 5・他 1	工学系 1・他 0		7(0)
	4(1) 1(0)	—	—		5(0)
IME	—	—	IME 4	IME 4	5(0)
			工学系 1・他 0		1(0)
					0

※1 システム創成系の初級は3月まで開講

2.5.4 A1A2 修了者

次に2021年度A1A2の修了者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は、表10にあるように、延べ396名、実数310名、単位取得者は延べ152名、実数127名であった。実数で見ると受講者実数（387名）に対する修了者実数310名の割合は80%と非常に高く、昨年度の77%から3ポイント、一昨年の65%からは15ポイント増えた。

当教室のA1A2の修了者数（表10）は、延べ数262名、実数204名であった。受講者数（延べ数353名、実数260名）に占める修了者の割合は昨年度(延べ数、実数とも77%)とほぼ同程度の延べ数74%、実数78%となり、一昨年と比べると、延べ数で15ポイント、実数で13ポイント増加した。これは、コロナ禍を受けてS1S2開講時より始まった完全オンライン授業により、通学時間がなくなり、受講の継続が容易になったこととも関連すると思われる（2.6章 日本語教室のコース評価を参照）。しかし、単位取得者数は昨年度と同程度の67名（33%）で、2019年度の70名 50%には及ばなかった。

受講者実数に対する修了者の割合は他の研究科でも非常に高く、情報理工学系が43名で84%、新領域研究科が21名で84%、他研究科が37名で80%であった。単位取得者数は表10に見られるように、情報理工学系が19名（44%）、新領域研究科が13名（62%）、他研究科が23名（62%）となり、前年度に比べ、単位取得率も上がっている。

表10 研究科別・レベル別修了者 () は単位取得学生数

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	45	28	59	48	37	38	7	262(81)	204(67)
②情報理工学系	13	7	11	8	4	7	1	51(19)	43(19)
③新領域研究科	4		12	2	3	10	1	32(20)	21(3)
④全学交換留学生			2			3		5(5)	5(5)
⑤他研究科	9	4	7	11	4	11	0	46(27)	37(23)
合計①～⑤	71	39	91	69	48	69	9	396(152)	310(127)

2) 専攻日本語教室

表 11 は専攻日本語教室の修了者数（実数）である。

表 11 A1A2 専攻日本語教室修了者(実数) () 内は単位取得者

専攻	初級 I	初級 II	中級	上級	合計
社会基盤学	17(17)	5(5)	—	—	22(22)
都市工学	都市工 7(4) 工学系 3・他 1	都市工 2(2) 工学系 0・他 3	都市工 1 (1) 工学系 3・他 0	—	10(7)
	11(5)	5(5)	4(2)		
システム 創成系	※シス創 4(1) 工学系 1	シス創 2(0) 工学系 5・他 1	シス創 2(0) 工学系 1・他 0	—	8(1)
	4(1)	8(0)	3(0)		
IME※2		—	1	—	1

※1 システム創成系の初級は 3 月まで開講

※2 IME・個人指導は利用者数の延べ人数、修了者数は対象外

社会基盤学専攻は初級 I と初級 II が修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されるが、2020 年度 A1A2 では受講者全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は 1 コマ 2 単位が付与されるが、システム創成系においては単位取得率は低い。反対に都市工学では 70% の学生が単位を取得し、単位取得率の増加傾向が見られる。

以上をもって、2021 年度の受講者及び修了者数に関する報告を終える。今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス、特にオミクロン株の出現とそれに対する政府の厳しい水際対策の影響を受け、留学生の入国がなかなか許されないという厳しい現実があった。それに関わらず、今回の報告にあるように、学習者側の学びに対する意欲は残っており、教

員も職員もその意欲に応えるべく精進を重ねてきたと思う。今後もさまざまな状況に対応しつつ、留学生の日本語学習支援に尽力していきたい。

2.6 日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりオンラインコース評価を学期末に実施している。
2021 年度 S1S2 学期は、下記の通り実施した。

2.6.1. 2021 年度 S1S2 学期オンラインコース評価概要

実施期間 : 2021 年 6 月 25 日～2021 年 7 月 31 日

対象者 : 日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者

回答者 : 計 203 名（初級 62 名・中級 107 名・上級 34 名）

実施言語 : 英語

質問項目 :

1. 回答者身分
2. コースの目標は明確だった
3. 授業のスピードは適切だった
4. 講義内容は分かりやすかった
5. 授業の課題の量はどうか
6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた
7. 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった
8. 当該コースの内容は自分にとって将来、役に立つと思う
9. 当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
10. 当該コースに出てできるようになったこと
11. 当該コースについての自由記述（Zoom 接続環境、受講生数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど）
12. オンライン授業に満足しているか
13. 質問 12 で「満足していない」と答えた場合、その理由
14. 2021A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか
15. オンライン授業の形式はどれがいいと思うか
16. オンライン授業で困っていることは何か
17. 質問 16 で「その他」と答えた場合、その理由
18. オンライン授業のいい点は何か
19. 質問 18 で「その他」と答えた場合、その理由
20. 履修登録の手続きは分かりやすかった
21. 質問 20 の理由
22. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた
23. 質問 22 のプレイスメントテストに関するコメント

- 24. 日本語教室（JLCSE）の Zoom office を利用したか
- 25. 質問 24 で「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか
- 26. 質問 25 で「その他」と答えた場合の具体的な内容
- 27. 質問 24 で「利用しなかった」と答えた場合、どうして利用しなかったか
- 28. 質問 27 で「その他」と答えた場合の具体的な内容
- 29. 日本語教室に期待していること
- 30. 質問 29 で「その他」と答えた場合の具体的な内容

回答方法 : 上述の質問 1、5、9、12、14～16、18、24、25、27、29 は、各々に選択肢を設け、2～4、6～8、20、22 は、質問文に続き、「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」の 4 件法で回答を求めた。また、10、11、13、17、19、21、23、26、28、30 は自由記述形式で回答を求めた。

2.6.2. 結果の概要

以下では、(1)授業内容について、(2)履修登録について、(3)その他 3 点について、受講生全体の傾向と初級・中級・上級のレベル別の傾向に着目した結果の概略を報告する。

(1) 授業内容について

授業内容に関連する質問 2～19 について述べる。まず、これらのうち 4 件法（「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」）で回答を求めた 2～4、6～8 の 6 つの質問項目の結果を述べる。質問 2～4、6～8 は、質問 2「コースの目標は明確だった」や質問 3「3. 授業のスピードは適切だった」のような肯定的な内容に対し回答を求めているため、点数が「強くそう思う」の 4 点に近いほど、受講生は授業内容に満足していると解釈できる。初級・中級・上級のレベル別に 6 つの質問（質問 2～4、6～8）における回答の平均値を算出した。表 1 に、質問 2～4、質問 6～8 における平均比と標準偏差を示した。表 1 に示したように、初級・中級・上級のすべてのレベルにおいて 3.42～3.71 点の結果が示された（表 1）。この結果から、本教室の受講生は、レベルによらず、概ね授業内容や形式に満足していると考えられる。また、質問 6 の「担当教員は熱意を持って授業を行っていた」については、全レベルで平均値が 3.5 以上と高い数値が得られており、本教室の教員が熱心に授業を行っていると受講生から高い評価が得られていることが示唆された。

表 1 レベル別の授業内容に関する項目の平均値と標準偏差

質問 レベル	質問 2 コースの目標は明確だった	質問 3 授業のスピードは適切だった	質問 4 講義内容は分かりやすかった	質問 6 担当教員は熱意を持って授業を行っていた	質問 7 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった	質問 8 当該コースの内容は自分にとって将来役に立つと思う	授業総合満足度 (質問 2～4, 6～8 の平均)
初級	3.61 (0.66)	3.42 (0.71)	3.47 (0.71)	3.66 (0.65)	3.42 (0.58)	3.69 (0.56)	3.55
中級	3.63 (0.57)	3.53 (0.63)	3.50 (0.59)	3.71 (0.61)	3.49 (0.62)	3.60 (0.56)	3.58
上級	3.65 (0.68)	3.65 (0.64)	3.62 (0.69)	3.68 (0.67)	3.47 (0.65)	3.50 (0.70)	3.59
初級、中級、上級の平均	3.63 (0.64)	3.53 (0.66)	3.53 (0.66)	3.68 (0.64)	3.46 (0.62)	3.60 (0.60)	3.57

次に、各々選択肢を設けた質問項目について、質問項目別に結果を述べる。質問 5「授業の課題の量はどうか」について、図 1 にその結果を百分率 (%) で示す。図 1 から、初・中・上級のレベルによらず、「適切である」という回答が最も多く、いずれのレベルにおいても 89%以上であった。多忙な工学系の学生に過度な負担を与えない程度の課題の量でありながら、学習を十分にサポートできる適切な量になっていると考えられる。

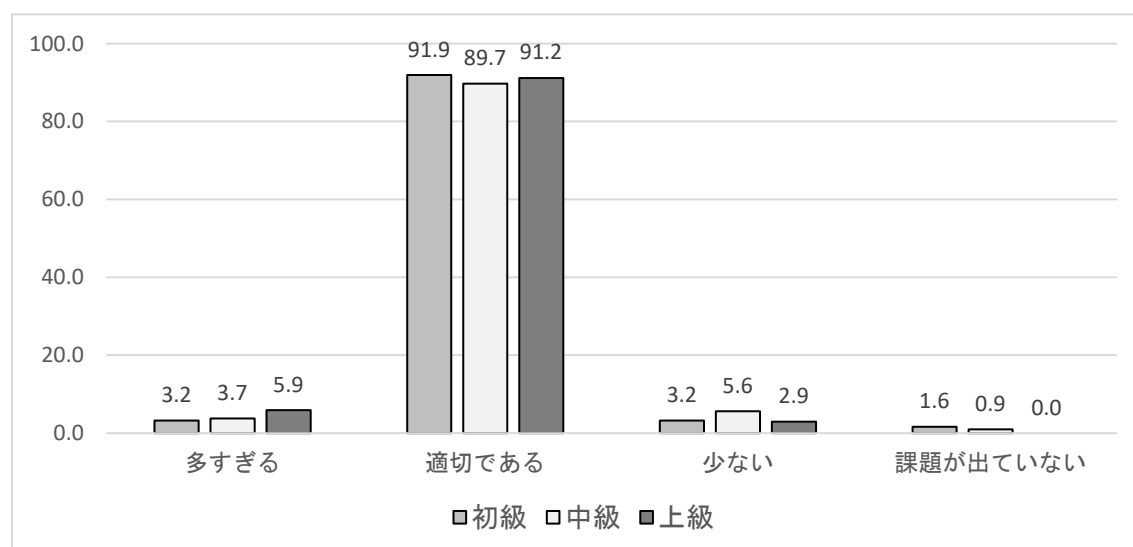


図 1 質問 5「授業の課題の量はどうか」に対する回答 (%)

質問 9「授業の予習・復習に毎週どの程度の時間を使ったか」について、図 2 にその結果を百分率 (%) で示す。図 2 を見ると、初・中・上級のレベルによらず、「1～2 時間」という回答が最も多く（初級：33.9%、中級：42.1%、上級：52.9%）、受講生にとって、過度な負担にならない程度の予習・復習時間になっていると考えられる。一方、初級の受講生の場

合、「2～3 時間」という回答が 22.6%、「3～5 時間」という回答が 17.7%、「5 時間以上」という回答も 12.9%であり、中級と上級の受講生より長い時間を予習・復習に使っていた。これは、初級レベルにおいて、ひらがな、カタカナ、漢字、語彙、文法クイズ類が多く含まれていることから、受講生が中級、上級より長い学習時間を自分で確保する必要があるため、比較的長い学習時間を使っていると回答したものであると考えられる。

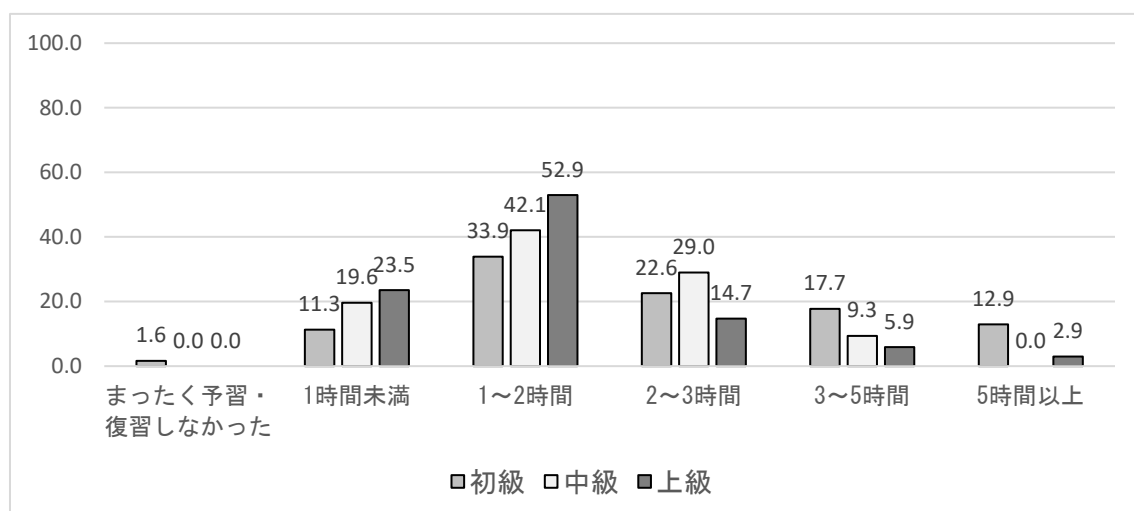


図 2 質問 9「当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか」に対する回答 (%)

さらに、2021S1S2 学期においては、新型コロナウイルスの影響によりオンライン授業を実施したことを受け、質問 12、14、16、18 においてオンライン授業に関する質問項目を設けた。以下、受講生から得られた回答について、その結果を質問別に述べる。

まず、質問 12「オンライン授業に満足しているか」について、図 3 にその結果を百分率 (%) で示す。レベル別に回答を集計した結果、いずれのレベルにおいても「そこそこ満足している」と「非常に満足している」という回答を合わせると、全体の 88%以上を占めていた。また、初級においては、60%以上の受講生が「非常に満足している」と回答していた。この結果から、受講生はオンライン授業から一定の満足感を得ているものと考えられる。

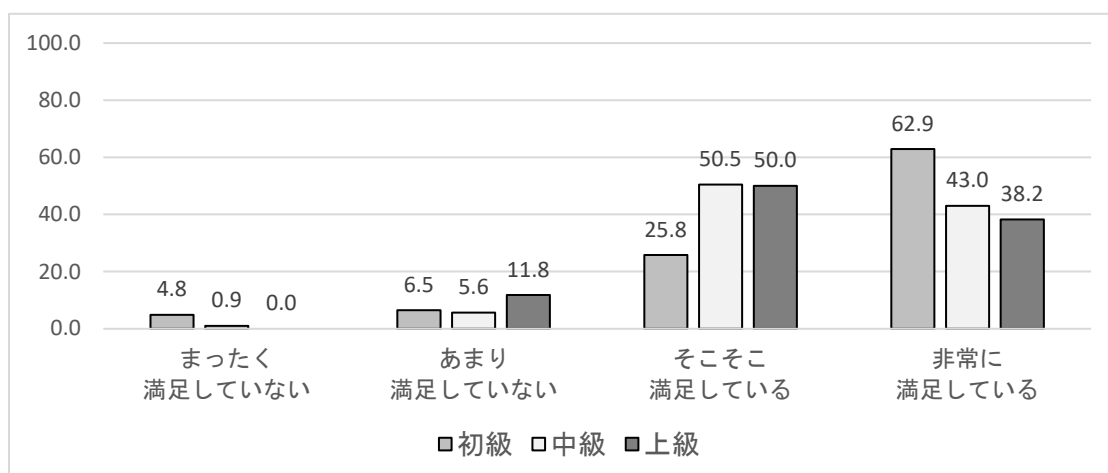


図3 質問12「オンライン授業に満足しているか」に対する回答 (%)

次に、質問14「2021A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」について、図4にその結果を百分率(%)で示す。レベル別に回答を集計した結果、初級は、「オンライン授業」がいいという回答が全体の53.2%で半数以上を占めている。次に「対面授業とオンライン授業のミックス」という回答が32.3%、「対面授業」という回答が14.5%であった。初級の場合、はじめて日本語を学習する学生や勉強して間もない学生が多くを占め、入国制限により来日が難しい学生も多いことから、オンライン授業を好んでいると考えられる。一方で、ミックス型が良いという回答も32.3%であったことから、オンライン一辺倒ではなく、対面と組み合わせたほうが有効であると考えている学生も一定数いることが確認された。

中級では、「対面授業とオンライン授業のミックス」という回答が43.0%で最も多く、次に「オンライン授業」が29.9%、「対面授業」が27.1%であった。また、上級では「対面授業」という回答が41.2%で最も多く、次に「対面授業とオンライン授業のミックス」が38.2%、「オンライン授業」が20.6%であった。以上の結果から、中級と上級の学習者は、初級よりミックス型や対面授業に対するニーズが高いと言える。中級と上級の場合、すでに一定の日本語能力が定着しており、オンライン授業における教員の指示も十分に理解できる。また、日本語のタイピング能力も既に身につけているため、オンライン授業に大きな問題なく参加できる。しかし、長期間に渡るオンライン授業による心的な疲れや授業活動が一部制限されることへの不満などで、対面授業の再開を望んでいると考えられる。

今後の授業形態においては、工学系日本語教室独自で決定することは難しく、東京大学及び工学系研究科の方針に従う必要がある。一方で、感染拡大防止のために、継続してオンライン授業を行う可能性や入国規制などにより日本に来日することが困難である留学生も多いことから、こうした海外在住の受講生に対する配慮をするべく、オンライン授業を継続して行う必要もある。今後オンライン授業を継続して行う場合、可能な範囲でよりオンライン授業と対面授業の長所を生かす形で、継続して授業改善を行っていくことが求められる。

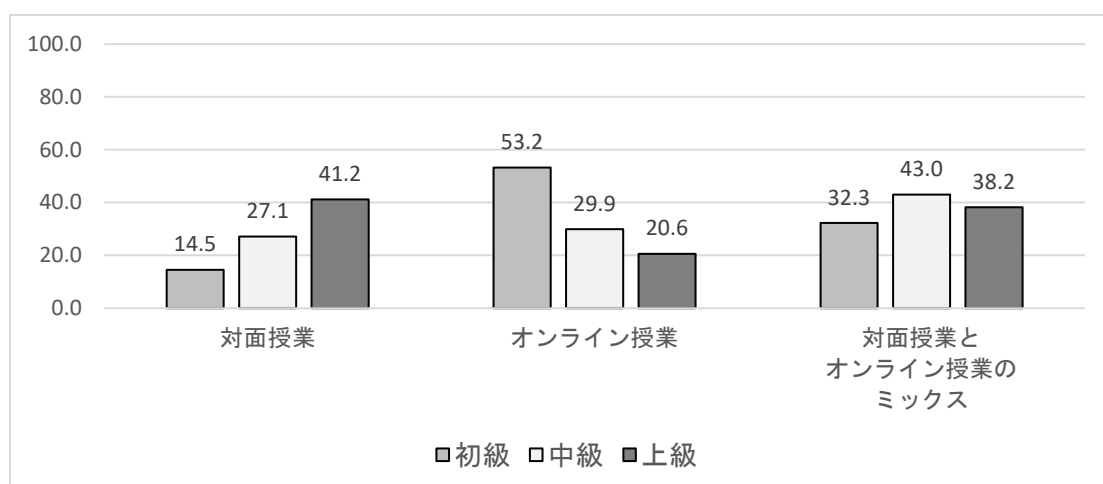


図 4 質問 14「2021A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」に対する回答 (%)

次に、質問 16「オンライン授業で困っていることは何か」について、表 2 にその結果を百分率 (%) で示す。質問 16 の選択肢は、「先生に質問しにくい」「集中力が続かない」「授業支援ツールの使い方がわからない」「通信に問題がある」「授業教材がわかりにくい」「発言が少ない」「孤独感を感じる」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。「その他」については自由記述の回答で具体的な回答が得られなかった場合が多いため、その結果に対する考察は割愛する。各レベルにおいては、初級で 76 例、中級で 151 例、上級で 44 例の回答が得られた。各レベルで異なる結果が得られたため、以下、レベル別の結果を示す。

まず、初級においては、「孤独感を感じる」という回答が 23.7% で最も多く、次に「その他」(21.1%)「発言が少ない」(17.1%)「集中力が続かない」(15.8%)「通信に問題がある」(13.2%) の順に回答が多かった。オンライン授業では、画面に向かい一人で学習するために、教室内での他の学生との自由な交流が少ないために、学生もこうした現状に心理的負担を感じていると言える。また、全員が同時に話すと音が混合されてしまうため、全体でのリピート練習は、教員が学生個々の発話をきちんと確認することが難しい。学生の発言をきちんと教員が確認するためには、個別の学生を指名して発話させることやブレイクアウトルームを使用する必要がある。そのため、対面授業に比べ、時間がかかり、教員の実施上の注意も求められる。さらに、集中力を維持しなければならないことや通信環境についても問題を抱えている学生がいることが確認された。

中級においては、「発言が少ない」(27.8%)、「孤独感を感じる」(19.6%)、「集中力が続かない」(15.9%)、「通信に問題がある」(13.9%) の順に回答が多く、上位を占めていた。上級についても、「孤独感を感じる」(43.2%)、「集中力が続かない」(15.9%)、「その他」(15.9%)、「通信に問題がある」(11.4%) の順に回答が多く、上位を占めていた。オンライン授業を遂行する上で受講生の発言の機会を増やすことが喫緊の課題であると言える。

表 2 質問 16「オンライン授業で困っていることは何か」に対する回答 (%)

レベル 回答	初級	中級	上級
先生に質問しにくい	6.6	7.9	4.5
集中力が続かない	15.8	15.9	15.9
授業支援ツールの使い方がわからない	2.6	2.6	0.0
通信に問題がある	13.2	13.9	11.4
授業教材がわかりにくい	0.0	1.3	0.0
発言が少ない	17.1	27.8	9.1
孤独感を感じる	23.7	19.2	43.2
その他	21.1	11.3	15.9
合計	100.0	100.0	100.0

次に、質問 18「オンライン授業のいい点は何か」について、表 3 にその結果を百分率 (%) で示す。質問 18 の選択肢は、「先生に質問しやすい」「自分のペースで学習ができる」「教室より集中できる」「学校に行かず時間を有効に使える」「教材がわかりやすい」「IT の知識やスキルが高まる」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。「その他」については自由記述の回答で具体的な回答が得られなかった場合が多いため、その結果に対する考察は割愛する。各レベルにおいては、初級で 145 例、中級で 205 例、上級で 67 例の回答が得られた。

全レベルにおいて最も回答が多かったのは「学校に行かず時間を有効に使える」で、初級で 40.0%、中級で 47.8%、上級 47.8%を占めていた。したがって、受講生は通学時間が減ったことで、より時間を有効に使えるという点をオンライン授業の最大の長所として認識していると言える。2021 年度 S1S2 学期には、依然として海外からの受講生が多く、日本に入国できない状況でも、自国で日本語の学習をしているケースが多かった。新型コロナウイルスの影響が続き、今後も入国規制が継続される可能性を考慮すれば、こうした受講生への配慮としても、オンライン授業は有効な手段であると考えられる。次に、「自分のペースで学習ができる」という回答が、全レベルで 2 番目に多く、初級で 22.1%、中級で 17.6%、上級で 20.9%であった。どのレベルにおいても、オンライン授業で自分のペースで集中して学習することができると認識していることが示された。

表 3 質問 18「オンライン授業のいい点は何か」に対する回答 (%)

レベル 回答	初級	中級	上級
先生に質問しやすい	10.3	10.2	10.4
自分のペースで学習ができる	22.1	17.6	20.9
教室より集中できる	6.2	5.9	0.0
学校に行かず時間を有効に使える	40.0	47.8	47.8
教材がわかりやすい	11.0	9.8	14.9
IT の知識やスキルが高まる	8.3	7.8	3.0
その他	2.1	1.0	3.0
合計	100.0	100.0	100.0

(2) 履修登録について

日本語教室で日本語学習をするためには、全員が必ず STAR システムに登録をしたうえで、プレイスメントテストを受験し、履修登録を行うことが必要である（2 章 3 節参照）。履修登録についての質問項目は質問 20～23 であり、本節では、これらのうち 4 件法で回答を求めた質問 20 と質問 22 の回答結果について述べる。まず、質問 20「履修の手続きは分かりやすかった」について、得られた 203 例の回答を百分率で示す（図 5）。図 5 に示すように、「そう思う」という回答が 56%、「強くそう思う」という回答が 42%であった。したがって、全体の 98%の受講生が履修登録の手続きにおいて、特に困難を感じていないと言える。

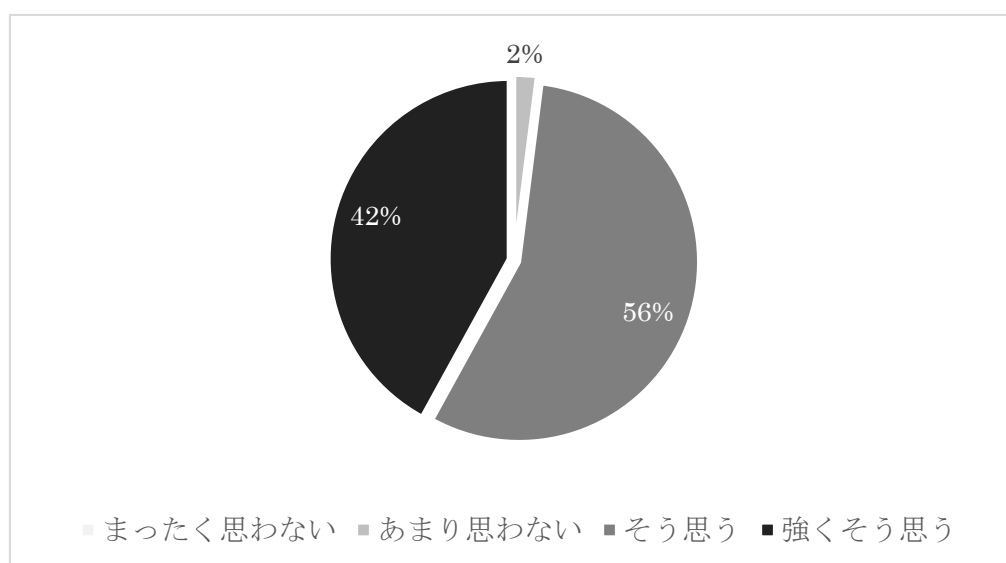


図 5 質問 20「履修登録の手続きは分かりやすかった」に対する回答 (%)

質問 22「プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた」について、得られた 203 例の回答を百分率で示す（図 6）。図 6 に示すように、「そう思う」という回答が 55%、「強くそう思う」という回答が 37%であった。したがって、全体の 92% の受講生が履修登録の手続きにおいて、プレイスメントテストの手続きによるコース選択は、概ね円滑にできていると評価していることが示された。しかし、一方で「あまり思わない」という回答が 8%であった。「あまり思わない」と「まったく思わない」の内訳を、表 4 に示す。表 4 を見ると、「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた、17 例中、中級が占める回答数が 10 例で最も多かった。以上の結果を受け、今後、特に中級レベルにおいて、プレイスメントテストの結果を受けたレベル判定の精度をさらに改善していく必要があると言える。

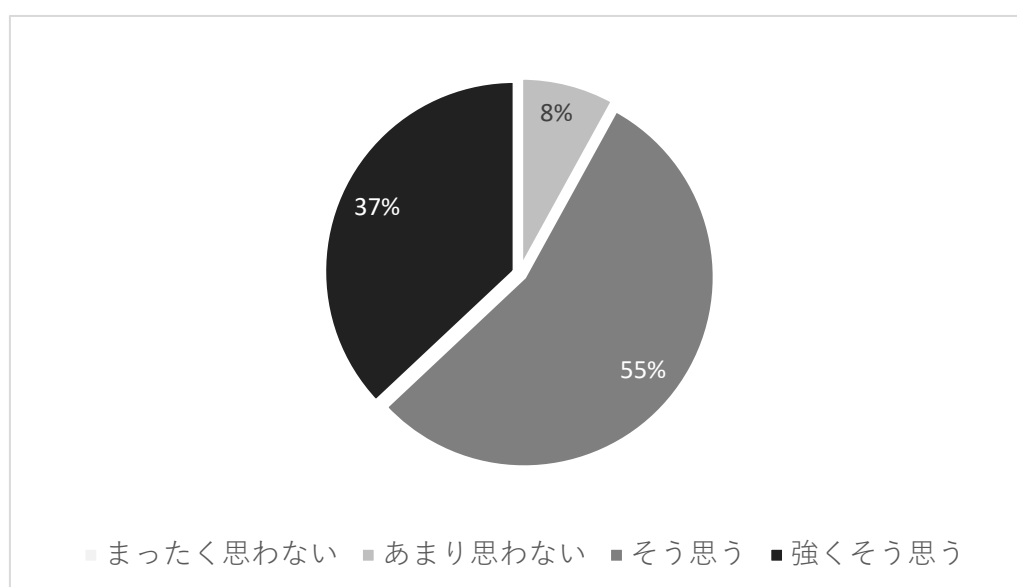


図 6 質問 22「適切なレベルのコースを履修することができた」に対する回答 (%)

表 4 質問 22 における「あまり思わない」「まったく思わない」の回答数の内訳

レベル 回答	初級	中級	上級	合計
あまり思わない	0	1	0	1
まったく思わない	5	9	2	16
合計	5	10	2	17

(3) その他

最後に、日本語教室の Zoom office の利用に関する質問項目と日本語教室に期待していることに関する質問項目についてその結果を述べる。2021S1S2 学期においては、オンライン

授業を実施することに当たり、日本語教室の Zoom office を立ち上げ、コース登録におけるコンサルテーションや試験のフィードバックなど、学生の相談窓口として対応した。2021S1S2 のコース評価においては、こうした Zoom office の利用に関して学生に回答を求め、今後の改善を考えていく。

まず、質問 24「日本語教室（JLCSE）の Zoom office を利用したか」の回答について結果を表 5 に示す。回答した 203 名中、「利用した」という回答は 49 例、「利用しなかった」という回答は 154 例であった。この結果から、日本語教室の Zoom office を利用しなかった受講生が利用した受講生より多かったという結果が示された。

表 5 質問 24「日本語教室（JLCSE）の Zoom office を利用したか」に対する回答
(例数)

回答	利用した	利用しなかった	合計
回答数	49	154	203

次に、質問 25 と質問 27 では、それぞれ「利用した」場合と、「利用しなかった」場合について、その理由に対する回答を求めた。質問 24「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか」に対する回答を表 6 に示す。

表 6 の結果と考察を述べる前に、質問 24 と質問 25 の回答数の不一致について述べる。質問 24 で「利用した」という回答は 49 例であったが、質問 25 は必須回答ではなかったため、答えなかった場合もあることから、47 例の回答が得られた。アンケートを実施した STAR では、質問 24 の回答者に、質問 25 に必ず答えさせることがシステムの困難なため、一部の回答者が回答を忘れたものと考えられる。本節では、回答数が質問 24 と質問 25 で同一ではないものの、その回答における傾向を分析することを優先し、以下その結果と考察を述べる。

表 6 に示したように、Zoom office の利用においては、「コースの登録」に関わる回答が最も多く、47 例中 23 例であった。また、「日本語の質問」(10 例)や「試験のフィードバック」(9 例)に利用したという回答も見られた。したがって、Zoom office を利用した受講生は、学期の初めのコース登録のためのコンサルテーションや定期試験のフィードバック、日本語の質問などのため、Zoom office を利用していると言える。「その他」については、自由記述であり有効な回答があまり得られなかったことから、本節では割愛する。

表 6 質問 25「「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか」に対する回答
(例数)

回答	コースの登録	試験のフィードバック	日本語の質問	その他	合計
回答数	23	9	10	5	47

質問 27「質問 24 で「利用しなかった」と答えた場合、どうして利用しなかったか」についての回答別の例数を表 7 で示す。質問 24 において「利用しなかった」という回答は、154 例であったが、質問 27 は必須回答ではなかったため、答えなかった場合もあることから、130 例の回答が得られた。表 7 を見ると、「質問がなかった」という回答が最も多く、130 例中 94 例であった。また、Zoom office を知らなかったという回答も 23 例あった。Zoom office については、学期中にメーリングリストを使い、数回周知をしたにも関わらず、知らなかった受講生も一定数いたようである。今後は Zoom office に関するさらなる周知を行うことが求められる。一方で、Zoom office を利用しなかった理由としては、学生自身が受講する各クラスの教員に相談する場合は、Zoom office を使わなくても、個々のクラスの Zoom で相談することも可能であるため、Zoom office で質問する必要がなかった可能性もある。しかし、各クラスで対応することが難しい場合もあるため、Zoom office に専任教員・常勤教員が待機し、対応を行う現在の体制を維持する必要があると考えられる。また、表 6 で利用目的について、コース登録のためのコンサルテーション、定期試験のフィードバック、日本語の質問などに対し Zoom office を利用したとの声も得られたことから、今後も継続して Zoom office を活用し、受講生の対応に当たる必要があると考えられる。

表 7 質問 27 「「質問 24」で「利用しなかった」と答えた場合、
どうして利用しなかったか」に対する回答（例数）

回答	時間が合わなかった	質問がなかった	Zoom office を 知らなかった	その他	合計
回答数	12	94	23	1	130

質問 29 では、「日本語教室に期待していること」について、「日本語学習」「日本文化体験」「日本人学生との交流」「留学生との交流」「大学生活・就職などの日本語支援」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。レベル別の回答の合計は、初級で 202 例、中級で 379 例、上級で 129 例であった。本節では、レベル別の日本語教室への期待を分析するため、以下得られた結果をレベル別に図 7 に示す。

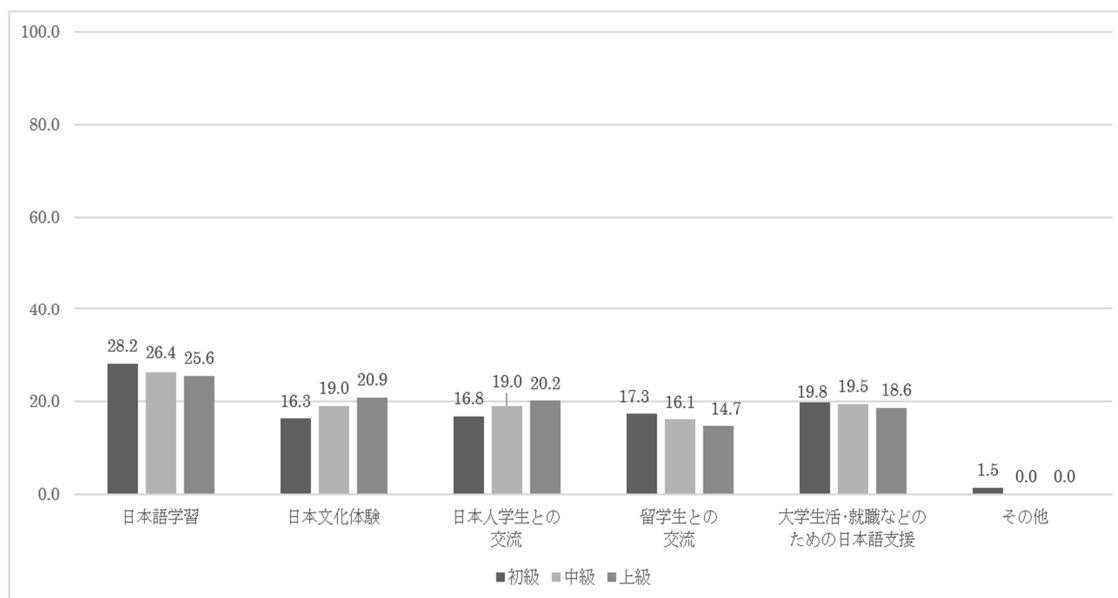


図 7 質問 29 「日本語教室に期待していること」に対する回答 (%)

図 7 に示すように、全レベルにおいて「日本語学習」の回答数が最多であった（初級：28.2%、中級：26.4%、上級：25.6%）。したがって、受講生は日本語レベルにかかわらず、日本語教室に対して「日本語学習」の機会や良質な授業の提供を最も期待していると考えられる。一方、その他の項目については、レベルにより期待する内容が異なることが示された。以下、レベル別に回答結果とその理由を探る。

まず、初級レベルにおいて最も回答数が多いのは「日本語学習」（28.2%）で、次いで「大学生活・就職などの日本語支援」（19.8%）、「留学生との交流」（17.3%）、「日本人学生との交流」（16.8%）、日本文化体験（16.3%）がそれに続く。初級レベルを受講する学生には、学習を開始してから間もない留学生が多いことから、自身の日本語学習とそれに対する支援の必要性を強く感じている場合があることが考えられる。それに加え、初級の学生でも「大学生活・就職などの日本語支援」を求める声も一定数いることが示されたことから、Zoom Office を通して、学生の声を聞き、相談が必要な場合の学生対応を継続していく必要があると考えられる。さらに、「留学生との交流」や「日本人学生との交流」「日本文化体験」についても期待しているという回答が得られたことから、日本語教室がこれまでに提供しているビジターセッションや International Lounge への参加を促すことで、こうしたニーズに答えることができると考えられる。

次に、中級コースでも最も多かった回答は「日本語学習」（26.4%）で、次いで「大学生活・就職などの日本語支援」（19.5%）であった。次いで「日本文化体験」（19.0%）「日本人学生との交流」（19.0%）が同数で続き、次いで「留学生との交流」（16.1%）となっている。中級レベルでも、「大学生活・就職などの日本語支援」を期待するという回答が多く得られたことから、アカデミックな場面やビジネス場面で応用できる日本語学習を希望していると

考えられる。こうした学生に対しては、日本語教室で提供している中級以上の技能別クラスの中で、アカデミックな教材を取り上げている「聴解」「文章」クラスや、上級に進級後、日本での就職活動を希望する学生に向けた「日本組織事情」クラスへの受講を促すことで、そのニーズに応えることができると考えられる。さらに、中級レベルになると、すでに自分は基礎的な日本語でのコミュニケーション能力を身につけていると認識する受講生が、習得した日本語能力を「日本文化体験」や「日本人学生との交流」で活かしたいと考えていると推測できる。

上級コースにおいても、「日本語学習」(25.6%)が最も多く、次いで「日本文化体験」(20.9%)「日本人学生との交流」(20.2%)「大学生活・就職などの日本語支援」(18.6%)「留学生との交流」(14.7%)の順に回答が多かった。上級に進級した後も、「日本文化体験」や「日本人学生との交流」「大学生活・就職などの日本語支援」など、多様な支援についてのニーズが高いことがうかがえる。

以上のことから、全レベルに共通する日本語学習のニーズに応える一方で、レベル別の期待に沿ったコース内容を検討していくことも必要である。さらに、これまで日本語教室が行ってきた日本文化体験や日本人学生・他の留学生との交流活動、アカデミックな場面やビジネス場面での日本語学習の支援を継続・拡充させていくことで、より受講生の期待に応えた学習の機会や交流の場を提供することが重要であることが再確認された。

2.6.3. まとめ

以上のコース評価における分析結果から、留学生は全レベルにおいて、概ね日本語教室の授業に満足し、日本語学習が彼らの日常生活および研究生活に貢献していることが分かった。また、授業に対する期待については、全レベルにおいて、語学中心の学習から交流や文化体験・就職支援など、日本語教室に期待する内容が多岐にわたることが示唆された。

一方で、オンライン授業を実施するにあたり、改善が必要な項目についても、課題が浮き彫りになった。新型コロナウイルスによる影響がいつまで続くか、その予測が困難である現状を受け、今後の対応を考える必要がある。オンライン授業が継続される可能性もあることを踏まえ、より良いコース運営のために、対面だけでなくオンライン授業における改善も継続的に取り組むべき課題である。さらに、今後は、さらなる受講生のニーズをより詳細に把握するために、学期ごとの変更事項を反映したオンラインコース評価を継続して実施するとともに、その結果を分析・考察することで、コースの改善に役立てたいと考える。

2.7 言語使用実態調査

日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2021 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

2.7.1 2021 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

- 実施期間 : 2021 年 12 月～2022 年 1 月
対象者 : 日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
回答者 : 計 164 名
実施言語 : 日本語／英語
主な質問項目 : 1. 母語
2. 日本滞在期間
3. 修了後の進路
4. 日本語学習歴
5. 研究室での使用言語
6. 指導教員から求められる日本語能力
7. 学生自身が目指す日本語能力
8. 日常生活で日本語ができなくて困ること

2.7.2 結果の概要

(1) 母語

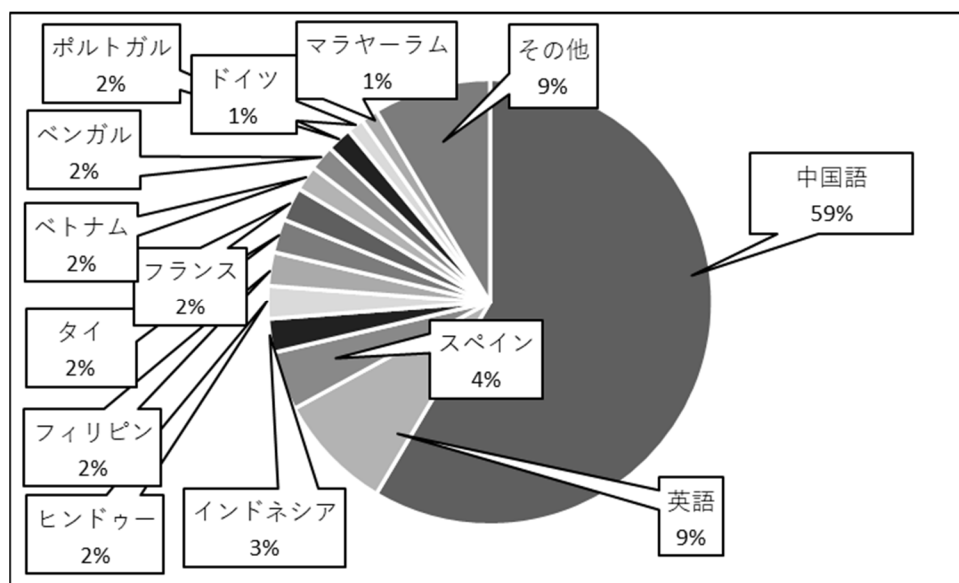


図 1 回答者の母語別の割合

回答者の母語について尋ねた結果を図 1 に示す。

図 1 から分かる通り、中国語母語話者が 59% と最も高い。ここ数年、中国語母語話者は常に半数近くを占めている状況が続いているが、今年度も同様の傾向となった。その他の母語では、例年と同様、英語、スペイン語が多いほか、インドネシア語、タイ語などのアジア言語が続いた。中でも、インド地域（ヒンドゥー語、マラヤーラム語）からの学生が多くなっていることが分かった。

(2) 東大での留学期間

東京大学での留学期間（予定）についての回答のグラフを図 2 に示す。

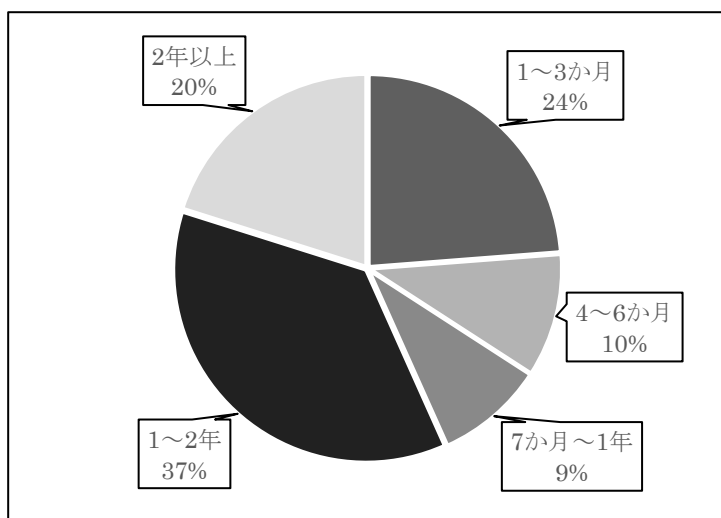


図 2 東大での留学期間（予定）

留学期間は、1～3 か月が 24%、となっており、全体の約 1/4 の学生が 3 か月しか滞在しないことが分かる。その一方で、1～2 年の予定が 37%、2 年以上の留学予定の学生も 20% を占めている。

また、4～6 か月の学生が 10%、7 か月～1 年の学生が 9% と、4 か月以上 1 年未満の学生も一定数存在している。すなわち、短期から長期まで様々な留学期間の学生が存在している

と言える。

短期留学の学生は、限られた留学期間において、日本語でのコミュニケーション能力を見に付けることを望んでいると考えられる。一方、長期留学の学生は、よりアカデミックな日本語能力を身につける必要があると考えられる。

履修科目の登録期間中に行われるコンサルテーションでは、学生の留学期間にも配慮して日本語科目の選択についてアドバイスをしていきたい。

(3) 修了後の進路

図 3 は、2018 年度より新たに設けた修了後の進路についての質問に対する回答である。回答は、「日本で就職する」が 55 人（33%）と最も多く、次いで「帰国する」が 42 人（25%）、「進学する」が 37 人（22%）であった。「分からない」は 30 人（18%）であった。

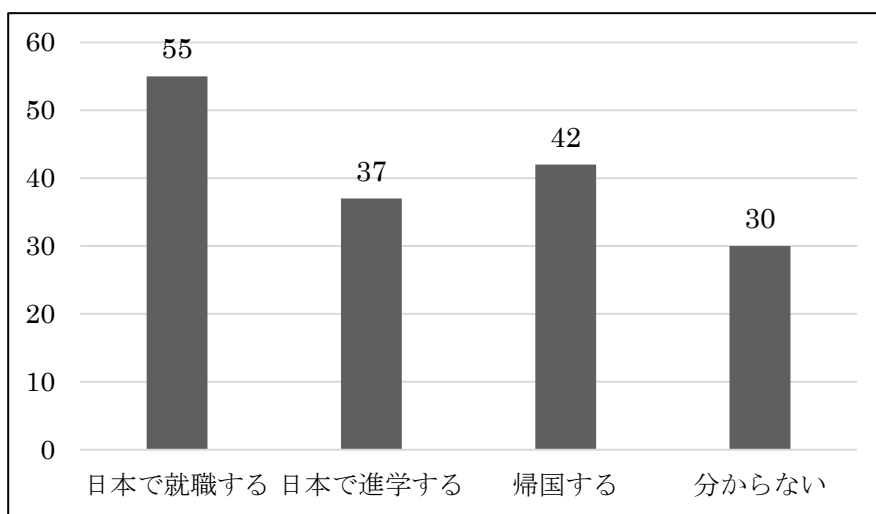


図3 修了後の進路

「日本で就職する」「進学する」と答えた学生を合わせると55%となり、半数以上の学生が日本に長期滞在するつもりであることが分かる。特に、「日本で就職する」と回答する学生数は2019年度以降

増加しているが、今後の調査においても「就

職する」学生が増えるのではないかと考えられる。

東京大学工学系研究科は、全体の方針として「キャンパスの国際化推進と海外からの研究者・留学生の環境整備」を掲げているが、このような試みは引き続き重点的に取り組むことが必要だと思われる。現在、日本語教室では就職支援を目的とした科目を設置しており、今後も学習者のキャリア支援を進めていくことが望ましいと言えよう。

(4) 母国での日本語学習歴

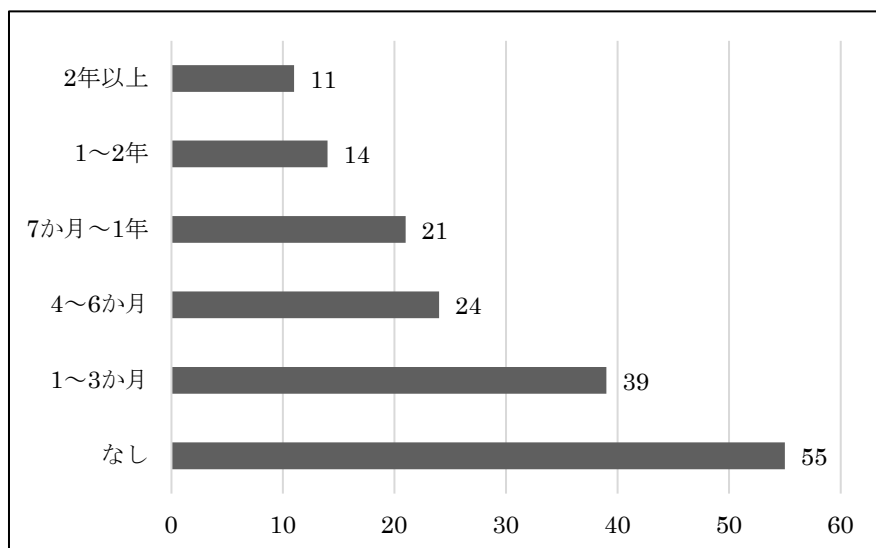


図4 母国での日本語学習歴

2017年度より母国での日本語学習歴を問う設問を設けている。今年度は55名(33%)が「なし」と答えていた(図4)。

残りの109名(67%)の学生は日本語を多少は学習しているが、今年度の傾向からいう

と、日本語学習歴が長くな

るにつれ、人数が少なくなっていくのが分かる。

つまり、母国での日本語学習歴は、全くない学生が最も多く、あったとしても、短い期間

の学生が多いと言える。工学系研究科の留学生は、もともと日本語に興味があるというよりは、専門の研究のために来日するのであるから、日本語学習が全くない（あるいは短い）学習者が多いというのは当然のことである。また、アンケートにはデータとして表れていないが、現場の教員からは、高等機関で日本語を学んだのではなく、独学で日本語を学んだ学生が多くなってきていることが報告されている。

今後は、ゼロ初級の学生を対象とした教育整備を進めると共に、様々な学習形態および学習経験を持つ学習者に対応していく必要があるだろう。

(5) 研究室での使用言語

【研究に必要な言語使用の状況】

研究発表、打ち合わせ（ラボ・ミーティング）、研究に関する資料、の3パターンについて、言語使用状況を調査した（図5）。

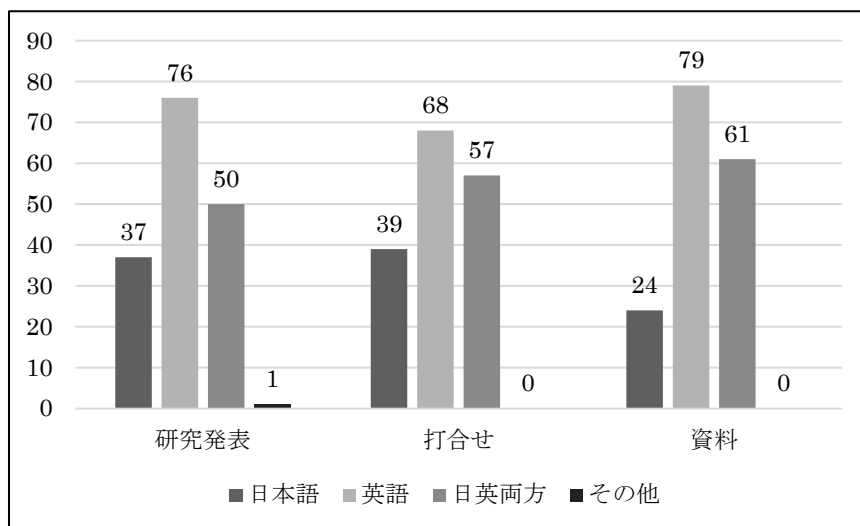


図5 研究に必要な言語使用の状況

「研究発表」においては「英語」の使用が76名（46%）と多く見られるものの、「日本語」37名（22%）、「日英両方」が50名（30%）と、日本語を使用する状況も少なからずあることが分かる。

「打ち合わせ」においては、「英語」が68人（41%）に対し、

「日本語」が39人（23%）、「日英両方」が57人（34%）となり、日本語が含まれる打ち合わせの比率が半数以上になっている。「資料」においては、「英語」が79名（48%）であるのに対し、「日本語」が24人（14%）、「日英両方」が61名（37%）となっている。以上のことから、研究に従事する上で、英語の使用率が最も高いとはいえ、日本語も、話し言葉においても書き言葉においても、必要となっていることが分かる。

研究に必要な言語使用の状況は、研究室ごとに大きく異なり、英語が優勢な研究室もあれば、日本語が優勢な研究室もある。そのため、調査結果は、調査実施時における学生の所属研究室の割合に左右されると推測される。来年度以降も調査を重ね、データを蓄積していく必要がある。

【使用言語と内容および話す相手の関係】

研究室でのコミュニケーションにおける言語使用はいかなるものであるかについても調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教官」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計 6 パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した結果、概ね例年通りとなった（図 6、7）。

①研究に関する会話

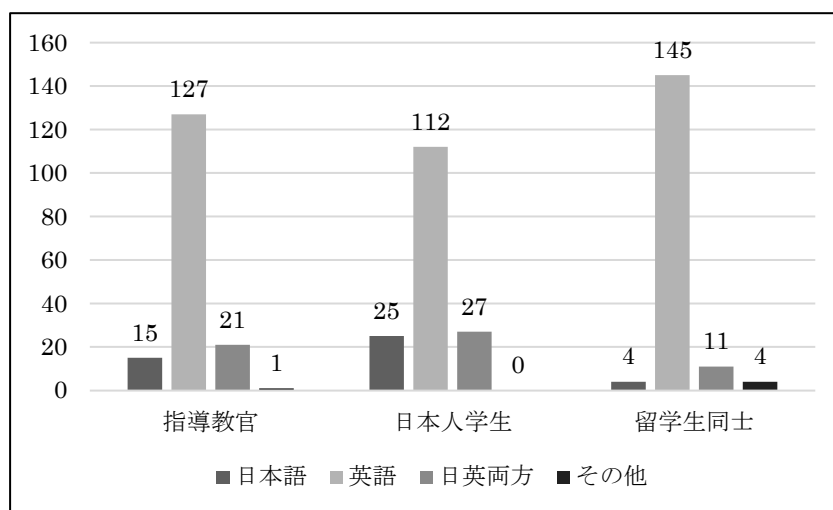


図 6 研究に関する会話

その代わりに「日本語」（25 名：15%）、および「日英両方」（27 名：16%）を使うことが若干増えることが分かった。

図 6 に示すように、「研究に関する会話」における英語の使用率は、指導教官相手に 127 名（77%）、日本人学生相手に 112 名（68%）、留学生同士で 145 名（88%）と、高い割合を占めている。ただ、日本人学生と話す場合は、「英語」の使用が若干減少し、

②雑談

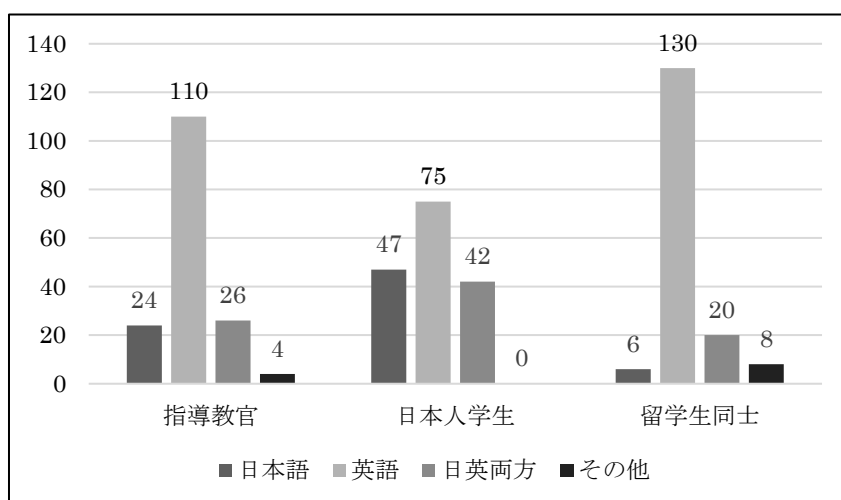


図 7 雑談

一方、「雑談」においては、話す相手によって、使用言語に異なりが見られた。特に、相手が日本人学生の場合、「英語」の使用が 75 名（45%）にまで減少し、代わりに「日本語」47 名（28%）、「日英両方」が 26 名（25%）と、日本語を交えて会話する

人数が増加することが分かった。相手が指導教官の場合も、①研究に関する会話と比較して、「英語」の使用が 127 名 (77%) から 110 名 (67%) と減少し、「日本語」および「日英両方」の使用が増えている。留学生同士においては、「英語」が 130 名 (79%) と多いものの、①研究に関する話題の 145 名 (88%) と比較すると若干少なくなり、「日本語」が 6 名 (3%)、「日英両方」が 20 名 (12%) と若干増えている。

以上のことから、留学生の言語使用は、雑談時には日本語の割合が高くなり、特に日本人学生が相手の場合には、目立って多くなることが分かった。理工学系の研究室に配属される留学生にとって、日本人学生とのコミュニケーションは極めて重要であるようだ。日本語の円滑かつ適切な運用を支えるような日本語教育が必要であると考えられる。

(6) 求められる日本語能力・目指す日本語能力

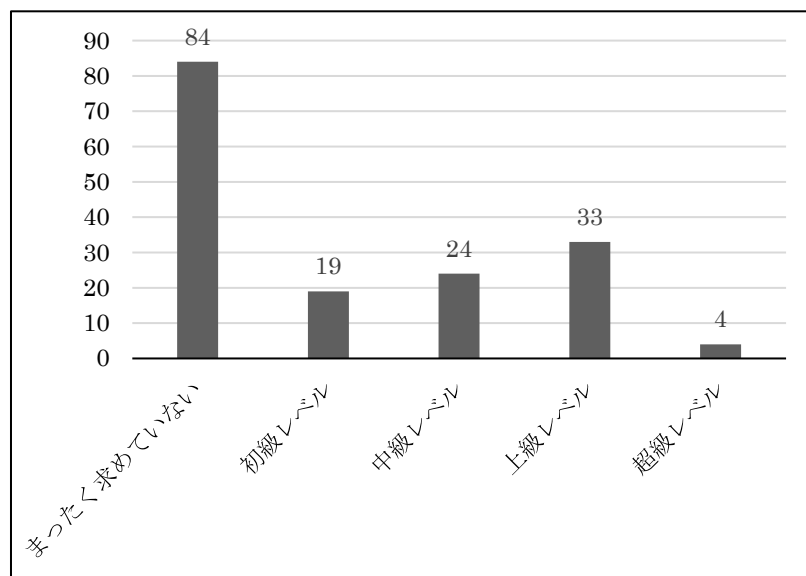


図 8 指導教官から求められる日本語能力

指導教官から求められる日本語能力と、学習者が目指す日本語能力について、図 8 と図 9 に示す。

まず、求められる日本語能力について述べる。グラフからも分かるように、指導教官から求められる日本語能力は初級から上級までさまざまである。「まったく求めている」という回答の割合が 84 名 (51%)

と半数近くを占めているが、次に多いのは「上級レベル」で 33 名 (20%) であった。すなわち、(5)の結果から明らかなように、研究を遂行する上では英語が必須であるものの、研究室によっては日本語能力も身に付ける必要があるようだ。

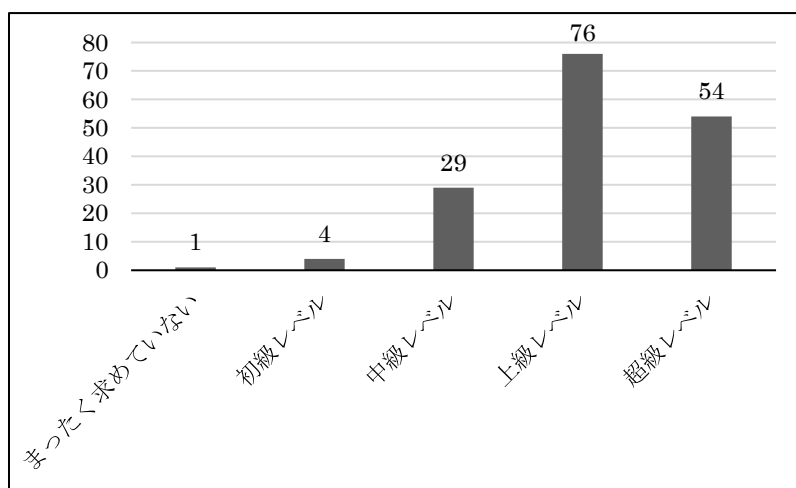


図9 学習者が目指す日本語能力

次に、学習者が目指す日本語能力について述べる。「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する答えを見ると、上級レベルが76名(46%)・超級レベルが54名(32%)となり、全体の4分の3以上の学生が上級レベル以上の日本語能力を目指していることが明らかになった。

この二つのグラフの結果をまとめると、たとえ研究生活において日本語がそれほど求められていない状況であったとしても、学習者はより高度なレベルの日本語を学びたいと望んでいることが分かる。自由記述においても、「日本人みたいに日本語を使えるようになりたい」「就職できるくらいの能力」という記述が少なからずあった。このような状況を鑑みると、日本語教室でも、初級レベルはもちろん、中級・上級レベルにおいても、充実したコース内容を提供していく必要があると考えられる。

(7) 日本語ができなくて困ること

日本語ができなくて困ることについての質問では、研究室での日本語ネイティブスピーカー同士の会話についていけないといった研究に関連する課題のほかに、新型コロナウイルスの影響のため、まだ日本に入国できないことを悩んでいる記述が複数見られた。日常生活で困ることについては、銀行や市役所での手続きのほかに、携帯電話ショップでのやり取りを挙げた記述が目立った。

こうした記述と(6)の結果を鑑みると、学習者は日常生活においてより円滑なコミュニケーションを望んでいること、さらにネイティブスピーカーを意識した高レベルの日本語運用を望んでいるケースも見られることが分かる。学習者の様々なニーズに応じて日本語カリキュラムを設計していくことが肝要である。

2.7.3 まとめ

今年度の言語背景調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 中国語を母語とする学生（漢字圏の学生）の比率が高い。
2. 日本での留学期間は様々である。

3. 学生の3割は、日本での就職を目指している。
4. 7割弱の学生は来日前に日本語を学習しているが、その程度は様々である。
5. 研究室での言語環境は、英語が優勢であるものの、雑談時には日本語や日英併用の使用も5割程度見られる。
5. 指導教官から求められる日本語能力に比べ、学習者の目指す日本語能力が高い。

上記の結果に基づき、今後も引き続き、授業での漢字指導の方法や、学習者の来日前の学習スタイルの把握をしたうえで、学生のニーズに合った日本語コースを提供しなければならないだろう。また、学生が日常生活で困難を感じている場면을極力減らし、その先のキャリア設計が明確に描けるような授業内容等を検討していきたい。

第3章 日本文化事情・文化体験

日本語教室では、留学生が日本文化を体験的に学ぶことを目的に、「日本文化事情・文化体験」を実施している。茶道、華道、相撲道など日本の伝統文化について学び、日本人のものの考え方、日本の美意識、礼儀作法への理解を深めることを目指している。また、伝統的な日本の着物文化を学び、実際に浴衣や着物の着付け体験することは、留学生に大変人気がある。普段、研究や実験などで多忙な留学生が気楽に文化体験できるように、学内で実施している。

今年度も下記のイベントを開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染防止のため、2020年度に続き、全て中止となった。

3.1 S1S2 日本文化体験

- (1) 生け花ワークショップ (5月)
- (2) 相撲部屋との交流 (6月)
- (3) 浴衣ワークショップ (6月)
- (4) 茶道体験 (7月)
- (5) 七夕短冊飾り (7月)

3.2 A1A2 日本文化体験

- (1) 華道デモンストレーション (10月)
- (2) 茶道体験 (11月)
- (3) 着物体験 (11月)
- (4) こけし作りに挑戦しよう！ (12月)
- (5) お汁粉体験 (1月)

第4章 国際交流支援

当日本語教室(JLCSE¹)は、東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門に属している。この所属名「国際教育部門」が示す通り、当日本語教室は、留学生の日本語能力の育成・向上に寄与することに留まらず、国際化社会を担う人材の育成も視野に入れた総合的な教育・文化・国際交流活動の場を提供することを目指し、運営を行っている。そのため、教室内外で、留学生と日本人学生の対話を促す国際交流プログラムを提案し、実践を行ってきた。しかし、2020年度以降蔓延している新型コロナウイルスによる世界的危機は、社会生活、文化活動、そして教育の場でも、行動様式、教育方法の変更など、多くの変更を強いる形となった。

当教室も例外ではなく、東京大学で学ぶ日本人学生²が日本語の授業に参加する「学生授業ボランティア」への参加者が減少するなど、影響を受けている。

また、留学生と日本人学生双方を対象とした多言語交流会（International Lounge、旧 ICYou（International Cafe for You）4.2章参照）もコロナ禍の影響を受け、2020年度 S1S2 に一時活動停止を余儀なくされた。しかし、2020年度 A1A2 より、それまで対面で行ってきた交流活動をオンラインに切り替えることで、活動を再開し、2021年度も S1S2、A1A2 共にオンラインによる開催を続けた。

4.1 学生授業ボランティア

2012年度冬学期から始まった「学生授業ボランティア」は、日本語教室全32コースのうち、教員から希望があったクラスに日本人学生がボランティアとして参加し、留学生の日本語学習支援の一端を担ってもらうものである。と同時に日本人学生、留学生双方にとって、広い意味での異文化理解の場となる可能性も持っており、キャンパス内国際交流の一つとも言える。また、学生ボランティアを迎える教員にとっても、授業運営その他の点で様々な気づきを得る機会となっていると思われる。

4.1.1 募集方法

当教室では、以下の二つの方法で学生ボランティアを募集している。一つ目は学内の体験活動推進チームの「体験活動プログラム」を通じての募集³である。これは、4月に募集を開始し、書類審査を経て採否を決定した学生が A1A2 からボランティア活動に参加するものである。二つ目の方法は、直接日本語教室から募集をかけるもの

¹ Japanese Language Class School of Engineering The University of Tokyo.

² これまでに、日本人学生の他、日本語上級2レベルの留学生が授業ボランティアとして参加してくれたこともあった。

³ 体験プログラムの日本語教室ボランティアは、2012年のプログラム開始以来、平均して、年10名前後の参加者を受け入れてきたが、2018年度は7名、2019年度は8名と減少傾向にあり、2020年度はコロナ禍の影響を受け、体験プログラムは中止となった。

で、学内のポスター掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等から応募者を募るというものである。学生は S1S2、A1A2 のいずれか、または通年での参加を選ぶことができる。尚、2012 年から 2016 年 S1S2 までは、ボランティアの学生には、学期を通して参加してもらっていたが、2017 年度 A1A2 より、教員の求めに応じて学期中に 1 回、または数回の授業ボランティアも募集している。

日本語教室から募集をかける場合には、書類審査はないが、授業ボランティア参加に先立ち、説明会への参加を依頼している。この説明会は、各学期数回開いており、2021 年度 S1S2 は 12 名（前年度 3 名）、A1A2 は 14 名（前年度計 11 名）の参加があった。A1A2 においては、先に述べた体験活動プログラムからの参加者 11 名に加えて、一般からも 3 名の参加があった。この説明会の趣旨は、研究活動などで忙しい工学系日本語学習者を支える当日本語教室の特徴、目標などを理解してもらうことである。また、留学生、ボランティア参加学生双方にとって有益な時間を共有してほしいという願いも伝えている。

尚、ボランティア募集に際しては、2019 年度までは、学期開始前に説明会を行っていたが、2020 年 4 月より始まったオンライン授業との関連およびボランティアに応募してくれる日本人学生の履修科目が決定する時期との兼ね合いから、昨年度に続き、本年度も学期開始後 3 週目終了まで応募を受け付け、随時説明会を開いた。

4.1.2 活動内容

ボランティア説明会出席後、ボランティアの学生には、授業参加前に、コース担当教員とメールや Zoom でやりとりをしてもらっている。授業では、コース担当教員の協力者として、教室活動に加わり、会話練習、ペアワーク、ディスカッションなどに参加する。また、必要に応じて、ファシリテーター、メンターの役割も担ってもらっている。単発での参加の場合は、口頭発表準備のサポート、本番での発表に対するフィードバック、グループディスカッションへの参加をお願いしている。尚、授業後はその日の活動内容と自由な所感を報告書に記入してもらっている。

4.1.3 参加学生数の推移

以下に示す図 1 は、2013 年度 S1S2 から 2021 年 A1A2 までのボランティア参加者数の推移を示したものである。例年 S1S2 に比べて A1A2 が多いのは、前述の体験活動プログラムの応募者が加わるためであるが、2020 年度はコロナによるパンデミックのため、体験活動プログラムは中止となった。しかし、一般募集枠で、S1S2 に 3 名、A1A2 に 11 名の学生が授業ボランティアとして参加してくれ、2021 年度も 2020A1A2 とほぼ同数のボランティアの参加があった（4.1.4 参照）。

学生ボランティアの受け入れと調整に関連する課題は、教師側の希望日時までにボランティアの人数が確保できないことである。特にコロナ禍の影響が顕著に見られた

2020 年度 S1S2 は、通常の募集方法は取れず、6 月にボランティアが必要なクラス（4 コース）のみ、経験者（2020 年度 S1S2 以前の登録者）に呼びかけ、最終的に 3 名にボランティアを依頼した（図 1 参照）。2020 年度 A1A2 も前学期ボランティアに参加してくれた学生への声掛けを始め、学内掲示のポスターやホームページ、工学系情報ポータルからの呼び掛けなど、広報に努めたが、応募者数は 11 名に留まった。2021 年度はやや回復の兆しが見え、2021A1A2 は参加者が 29 名と最も多かった 2014S1S2 の約半数に当たる 14 名の参加があった。

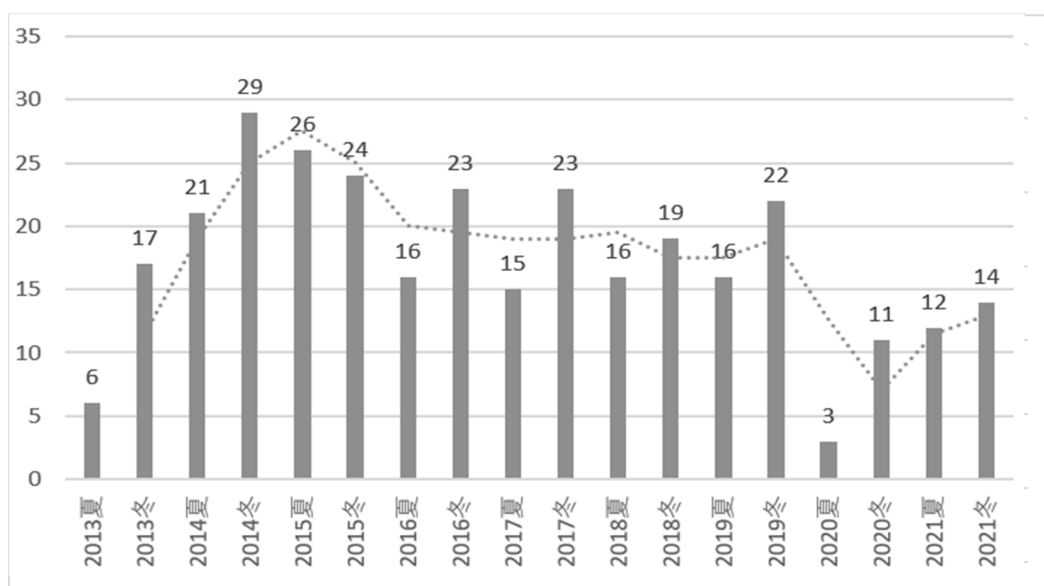


図 1 ボランティア学生数の推移 （単位:人）

4.1.4 ボランティア学生のプロフィール

オンライン授業が始まってから 1 年後となった 2021 年度 S1S2 の授業ボランティア参加者は 12 名で、内訳は修士 3 名（1 年 2 名、2 年 1 名）、学部生 9 名（1 年 1 名、2 年 1 名、3 年 3 名、4 年 4 名）であった。

2021A1A2 は、前年度募集が中止となった「体験学習」からの参加が再び可能となり、11 名の参加があったほか、一般からの参加者も 3 名が参加し、計 14 名の学生ボランティアを得た。

以下の図 2 は、ボランティア参加学生の所属と参加者数を示したものである。昨年度の A1A2 の参加者は大学院生 5 名、学部生 6 名という構成であったが、2021A1A2 においては院生の応募はなく、学部生 14 名であった。内訳は、先に述べたように「体験学習プログラム」の学生が 11 名（教養学部 8 名、法学部 2 名、経済学部各 1 名）、一般からの応募が 3 名（工学部、文学部、法学部各 1 名）であった。2020 年度同様、総じて文系および社会学系の学部からの参加が多いことがわかる。これは、当教室の

ボランティア活動が、日本語学習支援を基盤においているためかと推測されるが、留学生と同じ専門分野を持つ工学系の学生にも、是非参加してほしいと考えている。

尚、参加コースの内訳は、初級コースへの参加が 4 名、中級会話コースへの参加が 5 名（中級 1 が 2 名、中級 2 が 2 名、中級 3 が 1 名、上級 2 が 1 名）、中級 1 聴解コースへの参加が 2 名、中級 1 文章コースへの参加が 1 名、上級 1 読解コースへの参加が 1 名、上級日本組織事情への参加が 1 名であった⁴。

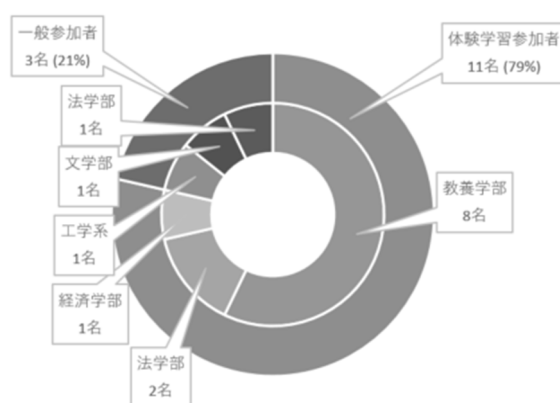


図 2 2021A1A2 ボランティア学生の所属

4.1.5 授業ボランティア参加報告書

ボランティア活動に参加してくれた学生には、活動を通しての所感などを授業参加後に報告書に記入してもらった。S1S2 は 11 名から、A1A2 は 14 名中 12 名から報告書の提出があった。

報告書から読み取れるものをまとめると、大きく分けて、(1)留学生との言語および文化面での交流、(2)ボランティア活動を通じての発見・学び、(3)留学生との授業内、授業外での交流についての所感などになる。

(1)については、留学生が日本語を学ぶ上で躓く点、母語である日本語の仕組みや特徴を端的に説明することの難しさに触れたコメントが多く見られた。(2)に関しては、学習者にどのように説明すればわかってもらえるかなどの考察や気づきのほか、活動形態に関する提案などもあった。(3)に関しては、ブレイクアウトルームでの自由な会話を通しての交流、ボランティア期間中、または終了時に SNS を交換するなどして、引き続き交流を続けていく意向が書かれたものも見られた。このことは、各学期終了時に実施したアンケートにも表れているので、以下に簡単に紹介する。

⁴ 14 名 2 名は 2 コースに参加してくれた。

4.1.6 授業ボランティア参加者アンケート結果

S1S1 および A1A2 終了後にアンケートを行い、各学期 10 名から回答を得た。質問項目は所属、学年、参加コースのほか、計 10 問で、選択式と記述式を合わせたものである。以下、いくつか回答を紹介する。質問は各グラフの下に記す。グラフは向かって左が 2021S1S2、右が 2021A1A2 のアンケート結果である。

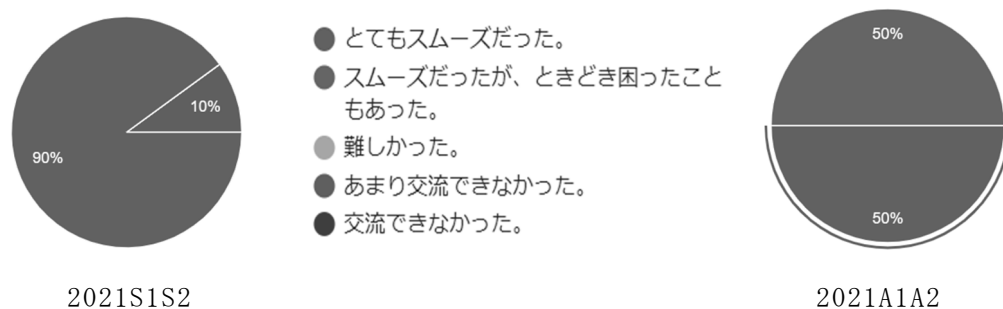


図 3 質問 4) 留学生との交流はスムーズでしたか

図 3 を見ると、S1S2 では、留学生との交流はとてもスムーズだった(90%)、あまり交流できなかった(10%)で会ったのに対し、A1A2 では、とてもスムーズだった(50%)、スムーズだったが、ときどき困ったこともあった(50%)という回答だった。困ったこともあった理由(自由回答)としては、A1A2 の学生ボランティア 5 名から以下の回答が寄せられた。

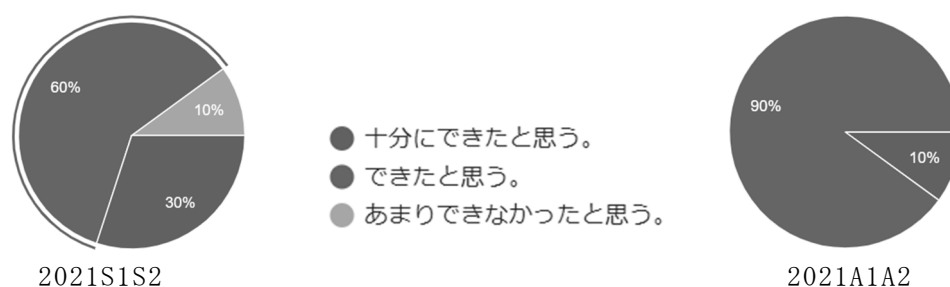


図 4 質問 6) 今回の活動で、留学生へのサポートや国際交流ができたと思いますか

- ・日本語での意思疎通が難しかった。知らない文化的概念や物について理解するのが難しかった。
- ・フリートークの時間をどう盛り上げるかが難しい時があった。
- ・オンラインでの交流ということもあり、留学生の話が聞き取りづらいことがあった
- ・たまに私の意図が伝わらないことがあり、また、大人しい学生の発言の機会をつくるのが難しく感じました。

・ロールプレイの取り組み方が以前参加した中級会話の授業と異なっており（スピーキング主体→台本を書き（ライティング作業）ながら実践する）、助言の仕方やタイミングに戸惑っているうちに時間が経ってしまったことがあり反省しました。また発言の少ない留学生の方に参加を促すのが難しかったです（他の受講生の声が聞き取りにくくて発話しにくいのか、内容が難しくサポートを求めているのか、単に発話しないのか）。

上記のアンケートにも垣間見られるように、授業ボランティアに参加してくれた学生諸子は、交流がスムーズにいかない場合は立ち止まって考えており、全体として大変熱心に授業に参加してくれたと言えよう。対面の機会のない、画面越しの交流にも関わらず、授業ボランティアとして力を貸してくれた学生諸子に感謝の意を表したい。

4.2 多言語交流会 International Lounge

日本語教室では、2012年度より、留学生の日本語能力の涵養と学内の国際交流、多文化理解の促進、国際化推進を目的とした多言語交流会を実施している。

2018年度までは International Cafe for You⁵として日本語教室が実施してきたが、2019年度からは金曜日に実施されてきた国際化教育センター主催の国際交流活動（International Friday Lounge, IFL）と一本化し、名称も International Lounge に改めた。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響のため、S1S2 は実施しなかった。A1A2 は、Zoom を用いてオンラインでの交流を実施した。実施要領は以下の通りである。

趣旨：リラックスした自由な雰囲気の中で、留学生・日本人学生がお互いの持つ言語的・文化的・社会的リソースを用いながら対等な立場で交流し、背景の異なる他者との相互理解のためのコミュニケーション経験を積む多言語交流の場を提供する。それによって、留学生と日本人学生が、各々の日常生活と学業生活の充実につながるネットワークやコミュニティ（仲間づくり）を生み出せるようになることを目指す。

名称：International Lounge (IL)

主催：工学系研究科国際工学教育推進機構

運営：国際教育部門(グローバル教育および工学系日本語教室 JLCSE)

開催日時：週1回金曜日 12:10～13:10

⁵ 多言語交流会は、2012年度から2015年度まで、日本語を使って自由に会話する Japanese Lunch Table(JLT)として実施してきたが、2016年度より、多言語・多文化の交流により重点を置くことにし、使用言語を日本語から多言語に切り替え、名称も International Cafe for You (以下 ICYou)と改めた。

2021S1S2：2021年5月7日～2021年7月16日（全11回）

2021A1A2：2021年11月5日～2021年1月28日（全11回）

開催場所：2021S1S2：Spatial chat

2021A1A2：Zoom

Language Assistant (LA)⁶に関しては、参加者間を取り持つファシリテーターとして、また、運営側と参加者の橋渡しの役割を果たす存在として重要であるという認識から、IL でも留学生と日本人学生に担当してもらうこととし、2021 年度は、留学生 3 名、日本人学生 2 名を採用した。尚、5 名中 3 名は前年度またはそれ以前からの LA 継続の学生である。

IL の運営は、グローバル教育と分担し、初回と最終回は合同で開催した。隔週で開催した。2019 年度以前は、通常の活動の中で、歓迎パーティー、ハロウィン等のイベントを実施していたが、2020 年度からはコロナ感染の恐れがあるため、実施していない。

昨年度は、コロナの影響により中止となった2020S2の後、2020A1A2はZoomを用いての開催となったが、参加者が平均9.4名と少なかったため、2021年4月中旬に担当教職員で打合せを行い、2020A1A2の最後に学生から提案のあった「Spatial chat」を使ってみることになった。「Spatial chat⁷」というのは、バーチャルラウンジに参加者が集い、ラウンジ内を自由に動きながら会話ができるインターネット上のスペースであり、無料版で50名（1ルーム25名 X 2ルーム）まで入室できるというものである。参加者が小グループに分かれて交流する点はZoomのブレイクアウトルームと同様だが、大きな違いは、ひとつの大きなスペースに各グループが集い、ラウンジ全体が見渡せる点である。また、参加者は、このバーチャルラウンジを自由に移動できるため、他のグループの参加者との会話もしやすくなるのではとの期待もあった。

しかし、1）学生の顔は円形の小さな枠の中にしか表示されないこと、2）「Spatial chat」はアクセスの際にインターネットの容量を使うため、スマートフォンから参加する学生にとっては、スムーズな参加が難しいという問題点もあった。また、先に述べたように参加者の顔は小さな枠に表示されるので、「対面」から更に遠ざかるような印象もあった。このような理由で2021A1A2は、担当教職員で検討した結果、再びZoomで開催することになった。参加人数は、Spatial chat もZoomもほぼ10名前後で、対面での実施では平均して20～30人参加していたことを考えると、2021年度も2020年度に続き、小規模な開催に留まっている。周知方法は、例年通りに、キャンパス内でのポスター掲示のほか、日本語教室のHPやILのFacebookでの告

⁶ IL の準備・設営等を担当する LA は、2017 年度より賃金報酬有で参加してもらっている。

⁷ <https://spatial.chat>

知を続けていたが、新規の学生参加は少なかった。対面での実施であれば、ILの会場に通りがかった学生が飛び入りで参加することも可能だが、オンラインの場合は知り合いが誰もいない状況では参加しにくいことが考えられる。

各学期とも最終日にアンケートを行い、S1S2 は 9 名から、A1A2 は 13 名から回答を得た。質問項目は身分・出身地などの属性などの他、ILを知った経緯や今後の希望などの 13 項目であった。回答を見ると学部生から博士まで幅広い学年からの参加があったことが分かり、毎回参加するリピーターが多いこともわかった。専門分野別では、S1S2 は、工学系と情理が合わせて 55%、次いで教育学部 22%、人文社会系研究科および理学系研究科がそれぞれ 11.1%であった。2021A1A2 では、工学系研究科、情理、工学部が合わせて 77%、理学系研究科、医学部、人文社会系研究科がそれぞれ 7.7%であった。前年度に比べて工学系の参加者が多かったのが特徴と言える。

最後に IL への参加動機を 3 つまで選んでもらった回答結果に触れる。

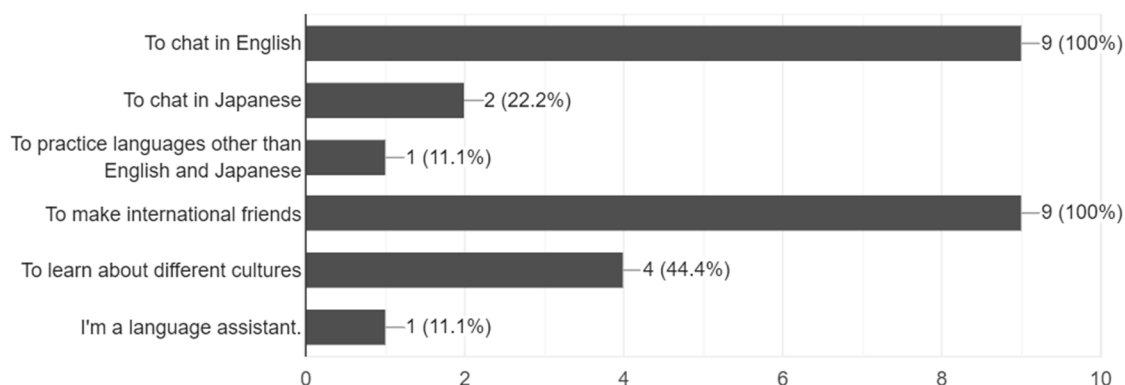


図 5 IL への参加動機 2021S1S2 (3 項目まで複数回答可)

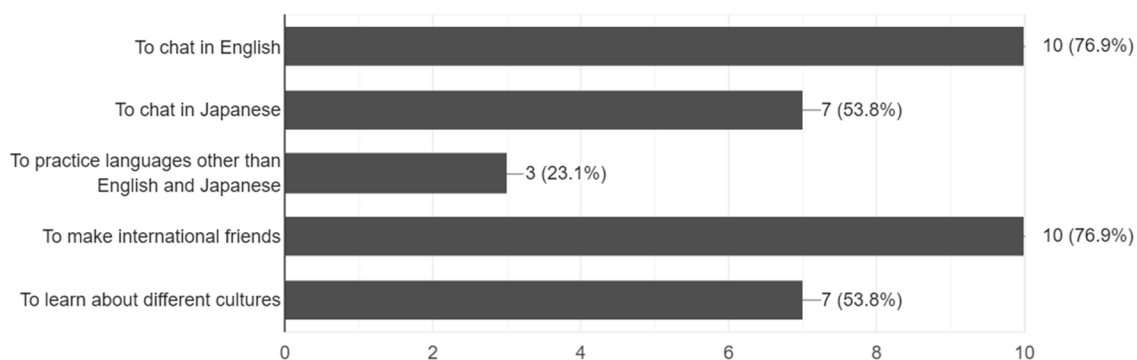


図 6 IL への参加動機 2021A1A2 (3 項目まで複数回答可)

図 5 および図 6 を見ると、S1S1、A1A2 いずれにおいても上位 2 位の解答は「英語で話すこと」と「自分とは別の国から来ている友人を作ること」という回答が最も多く、次いで異文化交流、日本語での会話、と続いている。

次に、IL を知った経緯であるが、S1S2 は「友達からの紹介」が(3 名最も多く、「日本語教室のウェブサイトを見た」、「Facebook を見た」、「ポスターを見た」、「以前参加したことがある」、「覚えていない」が各 1 名であった。一方、2021A1A2 においては、「日本語教室のウェブサイトを見た」が 5 名で最も多く、次いで「友達からの紹介」2 名へと続くが、このほか 1 名ずつではあるが、「ポスターを見て」、「国際課の紹介」、「e メール」、「以前来ていた」、「入学ガイダンス・オリエンテーション」となっている。このことから、今後もさまざまな情報媒体を用いた周知が有効ではないかと考えている。

最後に、今後の IL について考える上で貴重な意見である学生から声を紹介する。

- ・ I really enjoyed IL. I will join it in the next semester.
- ・ Thank you very much for the arrangement! :))
- ・ 基本的に英語で話す会になっていますが、時々日本語を話したいという人も来るようなので、柔軟に対応できるといいなと思いました。もしくは別の曜日に分けるとか？
- ・ ありがとうございます！
- ・ Thank you very much for the event! :))
- ・ Have more time to talk.
- ・ I really had a great time :))
- ・ 初めて IL に参加してから何と 3 年が経ちました！あっという間です…！いつも楽しく参加しています。これからも宜しくお願いします！
- ・ Genuinely appreciate for organizing such events!
- ・ A couple options for more times would be useful to work better with some schedules.
- ・ また、みんなに会いたいです

こうした声に応えるべく、コロナ禍にあっても、よりよい IL の運営を目指していきたい。

第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では世界各国の約 100 大学（部局間も含む）と研究者および留学生の交流を推進する協定が締結されている。日本語教室では、積極的に海外協定校と支援ネットワークを構築し、連携を深めている。2021 年度は、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、工学系研究科サマープログラムなど海外協定校への訪問および本校への受け入れは中止となった。体験活動プログラムおよび米国世界展開強化事業はオンラインで実施した。

5.1 海外体験活動

体験活動プログラムとは、東京大学の学部生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムで 2012 年度より実施されている。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けることが目指されている。（体験活動プログラム PR 用パンフレット、<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#10>）

今年度はスウェーデン王立工科大学との体験活動をオンラインで実施した。

(1)実施目的と対象者

スウェーデン王立大学（以下 KTH）を主軸とした体験活動をとおり、スウェーデンに対する理解を深め、グローバル意識を育てる機会を提供する。KTH 学生との国際交流、KTH での講義、ノーベル賞博物館の見学など多角的な視点からスウェーデンの現状を学び、多様な価値観に触れることを目的とする。対象者は東京大学学部生 4 名、スウェーデン王立工科大学の学部生 4 名であった。

(2)プログラムの活動内容

実施計画当初は以下の 4 つの活動を実施する予定だったが、コロナ感染拡大の影響を受け、急遽オンライン交流に変更になった。

- 1) 日本語授業サポートやランゲージカフェなどのサポートによる学生同士の交流
- 2) 大学の講義を受講
- 3) Kista campus 見学（IT 企業見学）
- 4) ユネスコ世界遺産の Skogskyrkogårde 訪問/ノーベル博物館見学

変更後のオンライン交流による体験活動では、自己文化と他の文化を相対的に思考し、異文化理解力を高め、異文化間コミュニケーション能力の育成を目指した。具体的には、1 月 24 日より約 1 カ月 SNS を利用して KTH の学生と東大の学生がテーマを決定し、そのテーマに沿って各国文化の調査を行った。そして、最終的に、両大学の学生が調査の結果を英語

と日本語で発表を行った。

(3) 活動 schedule

2021/11/22	オリエンテーション
2021/12/9	KTH と UT 学生のマッチング、プレゼンテーションテーマの決定
2022/1/15	各ペアでスケジュール、小テーマの決定
2022/1/24-2/11	毎週、ペアでテーマに沿った話し合い、調査
2022/2/11-2/18	スウェーデンと日本の文化の共通点、相違点を分析、考察
2022/02/21	教員のフィードバック
2022/02/25	発表 (PPT 資料を準備、各ペアで 10 分発表、質疑応答)

学生は以下のテーマで発表を行った。

- ・ Traditional foods for celebration times-The most important family holiday in each country-
- ・ Student Life Sweden and Japan
- ・ Nature of Sweden and Japan
- ・ Architecture-Japanese Places & Swedish Places-

(4) 成果と課題

参加学生のアンケートからまとめる。

1. 相対的な文化理解：

- ・他国と日本の言語や歴史に基づく考え方の違いについてよりよく理解できた。国際比較に基づく批判的な思考ができるようになった。
- ・異文化理解をさらに進めたいと思うとともに、今回の交流で学んだコミュニケーションの方法や楽しむ気持ちを忘れずに活かしていきたいと思う。
- ・自らが日本つまり自国について詳しく知ることの重要性も再認識した。

2. コミュニケーション：

- ・相手の学生も日本語を学んでいる学生のため、日本語の些細な疑問や日本文化について話す機会も多かった。日本語を使う中でのわずかな疑問を改めて見つめ直す良い機会だった。
- ・海外の方と英語でコミュニケーションをとったり、英語でプレゼンテーションをしたりする経験はあまりないのでグローバル化が進む時代においては今後役に立つと思う。

3. 対人関係：

- ・先入観をなくして他者と関わり合うことが大切だと改めて感じた。
- ・オンライン交流：オンライン交流になった際は残念な気持ちがあったが、相手の学生と話すだけでも楽しく、参加してよかったと思う。

4. 課題

- ・基本的にペアを組む学生と一つのテーマを掘り下げる活動だったので、他の学生と触れ合ったり、現地の文化全般を学べたりする機会があるとさらによかった。

・今回もやはり日本人側の学生は自分も含め、発言に躊躇があったり、自分から発信する積極性に欠けていたりしたように思う。英語教育も含め、日本での国際教育はより必要だと思った。

なお、KTH 体験活動は、今年度参加した 4 名の学生のうち、来年度に 1 名がスウェーデンの大学に、1 名が英国の大学に交換留学をする後押しになった。

5.2 米国世界展開強化事業

本事業は、東京大学が 2018 年度に文部科学省から採択された日米の COIL 型教育を活用した「先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」に基づき、実施されているものである。2019 年度、2020 年度の活動に続き、2021 年度もカリフォルニア工科大学（以下 Caltech）の平井律子教授の協力を得て、2021 年 2 月 10 日から 3 月 24 日まで（日本時間）を活動期間とし、「東大ーカルフォルニア工科大学 言語交流プログラム¹」と題して行った。尚、プログラム開始に先立ち、東大側の学生には、2 月 8 日に事前オリエンテーションを行った。本プログラムは、東大側からは、プログラムの企画・立案を担った教室主任教員（古市）が事前打ち合わせに参加し、常勤教員（牛山）がプログラムの実施を担当した。尚、2021 年 11 月の時点では、東京、カルフォルニアともコロナウイルス感染者数が減少傾向にあったため、一部対面での活動プログラムを立て、学生募集を行う予定であったが、様々なリスクを考慮し、昨年度に続き、全面オンラインでの実施となった。

本プログラムでは、Collaborative Online International Learning（以下 COIL）を活用した PBL（project/problem based learning）型授業を提供することを目指しており、学生間のピアラーニングの促進を念頭においた授業運営を目指した。2021 年度の参加者の内訳は以下の通りである。

参加学生：15 名

東大 9 名：修士 3 名：1 年 1 名（工学系）、2 年 2 名（工学系 留学生）

学部生 6 名：2 年 1 名（教養学部）、3 年 5 名（工学系 3 名 内留学生 1 名）、教養学部 1 名、経済学部 1 名）

Caltech 学部生 6 名：中級²クラス 3 名（3 年生 1 名、4 年生 2 名）

上級クラス 3 名（2 年生 1 名、4 年生 2 名）

尚、本プログラムは 2021 年度に単位化を目指し、その準備段階として 2019 年度、2020 年度にパイロット授業の枠組みで行われていたが、2021 年度はその移行期として、一部は

¹ 東大側の学生募集に際して使用したプログラム名である。カルフォルニア工科大学（Caltech）とのプログラム開始後は「UT-Caltech 言語交流プログラム」を日本語名に、“Caltech-U Tokyo Cross-cultural exchange project”を英語名として使用した。

² 「中級」「上級」は、Caltech の日本語クラスの学習レベルを指す。

工学系共通科目として、一部は当教室の 2021A セメスターの枠内で 1 単位の取得が認められた。尚、本プログラムは 2022A セメスター(冬季集中期間)から工学系共通科目、「国際特別実習」のひとつとして単位化されることとなった。

(1) 実施前準備

本プロジェクトの準備は以下のようなスケジュールで進められた。

1) 東大-Caltech 教員間の事前打合せ 2021 年 11 月 2 日-2022 年 2 月 9 日

2) 東大側参加学生募集

学生募集は、主として UTAS、工学系情報ポータルなどへの掲載を通して行った。

周知文の UTAS への掲載依頼 11 月 25 日

UTAS への掲載 12 月 10 日

情報ポータルへの掲載 12 月 16 日

3) 東大側参加学生向けオリエンテーション 2022 年 2 月 8 日

この事前オリエンテーションでは、自己紹介を通して、参加者同士が知り合う機会を設けると共に、COIL とは何か、文化とは何か、協同学習とは何か、異文化コミュニケーションを理解するための理論的モデル³とは何か、などについてレクチャーを行い、プログラム参加学生と教員の間で異文化理解のための基本的な枠組みを共有した。尚、当日学期末試験と日程が重なり参加できなかった学生には、事前に日英両語での 2 分程度の自己紹介ビデオを作成してもらい、オリエンテーション当日に教員が画面共有の形で他の参加者に紹介した。ビデオ作成者はバイリンガルレベルの留学生で、当日参加していた日本人学生にとって大きな刺激になったようである。また、今回のプロジェクトには、前述の学生の他、2 名の留学生が参加したが、ともに日本語のレベルは高く、1 名は日本語を母語とする学生であった。

(2) 活動内容

本プログラムでは、東大と Caltech の学生がペアまたはトリオでチームを組み、「バイリンガル」形式で、PBL 型の学習を Zoom で行った。具体的な活動としては、それぞれの国の文化理解に役立つテーマを参加者が選び、インターネット上の資料、自分自身の体験などをもとに、日米の文化の共通点と相違点について学び合うという趣旨で行われた。使用言語は外国語としての英語・日本語、母語としての英語・日本語である。

本プログラムのシラバスに示された 3 つのキーワードは、COIL 及び PBL 活動の理念を背景にした「コミュニケーション能力 (Communication Skill)」、「言語能力 (Language Competence)、異文化理解能力 (Cross Cultural Competence) である。

³ 参考資料：伊集院郁子・岡葉子 (2019) 『『多文化間協働プロジェクト』実践報告』東京外国語大学留学生日本語教育センター(45), pp.283-297.

なお、協同学習に必要な資料は、Google Classroom を用いて双方の学生に配信された。以下の表 1 は、日程と活動内容を簡潔にまとめたものである。

表 1 東大(UT)-Caltech 言語交流プログラム COIL - PBL 型授業の概要

日程 ⁴	活動内容
2/10 [Zoom①]	オリエンテーション
2/11-2/22	チーム活動 企画書の提出 教師より FB*・コメント
2/24[Zoom②]	中間発表 教師より FB・コメント
3/6 [Zoom③]	Friendship session
3 月 6 日-3 月 22 日	チーム活動 教師チュートリアル(メール・Zoom)
3/24 [Zoom④]	最終発表 質疑応答 教師より FB・コメント

* FB: Feedback

Zoom を用いた合同セッションでの主な活動は以下の通りである。(日時はすべて日本時間)尚、前述したように、東大の学生には 2 月 8 日(10:00-11:30)にインタラクティブな活動を取り入れた異文化理解のためのレクチャーが行われたほか、プログラム実施中、教員は合同授業がない週の木曜日に毎週オフィスアワー (Zoom) を開設し、サポートの体制を敷いた。①合同セッション(1)2 月 10 日 (9:00-10:25) :この日はオリエンテーションで、授業の目的とスケジュールの紹介、各教員、学生の自己紹介(日英バイリンガル)を行った。その後、PBL 学習のためのチーム作りをし、活動のまとめ役となるリーダーを各チームで決めてもらった。また、1 週間後に提出する各チームの活動企画書についての説明も行われた。チームは学生から提案されたテーマに沿って、最終的に 5 つのチームが編成された。内、4 名のチームが 1 組(東大 2 名-Caltech 2 名)、3 名のチームが 3 組(各チームとも東大 2 名-Caltech 1 名)、2 名のチームが 1 組(東大 1 名-Caltech 1 名)であった⁵。

各チームが選んだテーマは、以下のとおりある。

- ・ロボットに対する人間の関心についての日米比較・考察
- ・日米の電車に関連する比較・考察
- ・日米のドラマの比較から見えてくることを基にした考察
- ・日米でどのような漫画が好まれているかを基にした考察
- ・日米で好まれている音楽の比較を通じた考察

②合同セッション(2) : 当日の中間発表では、5 チームがチーム活動の進捗状況を発表し、最終発表に向けての新たなコメント、助言などを交換した。プログラムの関係上、企画書作

⁴ リスト内の実施日時はすべて日本時間である。

⁵ 4 名のチームがあるのは、他のプロジェクトワークとの兼ね合いで、東大側の学生の参加辞退 (1 名)があったためである。そのため、急遽 同じテーマに興味を持つ 2 チームが 1 チームとして活動することとなった。

りから中間発表までの時間は短かったものの、各チームとも日英両語を用いて進捗状況を発表した。

③Friendship session: 昨年度のプログラム実施後のアンケート(後述)で、プロジェクトワークメンバーとの交流がなかったというコメントがあったことを受け、今年度新たに設けたセッションである。東大、Caltech の学生とも多忙なため、数名の参加でもと思い提案したが、当日は 9 名の学生が参加、教員も 2 名参加し、様々なテーマで話し合う機会となった。

④合同セッション(3) 3 月 24 日 (8:00⁶-10:00) : 最終発表は、一人 4 分半から 5 分程度の持ち時間でチームメートとの連携も考えつつ行った。各チームの発表は、パワーポイントを用い、それぞれの学習言語、またはバイリンガル形式で行われた。時間的な制約がある中で、最終発表であったが、各チームとも時間管理をしっかりと行い、内容のある興味深い発表であった。発表後に担当教員 2 名から各チームへのコメント、フィードバックをし、学生同士も質問やコメントを出し合った。

(3) 活動成果

①学生作成ドキュメント

- ・企画書(Proposal) : 各チームで作成

FB: 初日レクチャー担当の教員からのコメント・中間発表に向けての助言

- ・中間報告書(Mid-term Progress Report) : チームで作成

学生の Self-Evaluation

FB: 初日レクチャー担当の教員からのコメント・アドバイス

FB: 教師全員からのコメント・アドバイス

- ・最終発表(Final Presentation)

FB: チームごとにルーブリックを使つての評価

FB: 教師 2 名からのコメント

(口頭および筆記)

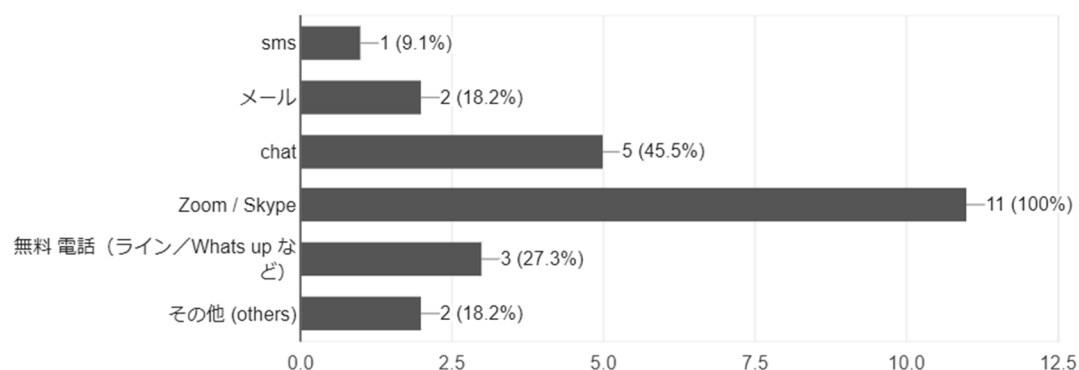
②プログラム実施後のアンケートに見る学生からの評価

2020 年度に続き、2021 年度も本プログラム終了後に無記名でのアンケートを実施し、東大、Caltech 合わせて 15 名中 11 名から回答を得た。内訳は東大側が 7 名、Caltech の学生が 4 名である。

アンケートは、選択式・記述式合わせて全 14 問からなるが、問 1 の授業期間(2 月 10 日から 3 月 24 日)は適当であったかという問いには、全員が適当であったと答えていた。また、授業外でのチーム活動時間に関しては、4 時間から 9 時間という回答であった。活動の

⁶ カルフォルニアは 3 月 13 日よりサマータイムとなったため、最終日のみ JST 8:00 から開始された。尚、平井律子教授、Caltech の学生の協力を得て、最終発表は時間を 15 分延長し、2 時間の枠で行われた。

手段に関しては、グラフ 1 のような回答が得られ、時差のある学習環境下において、学生が複数のコミュニケーションツールを使って活動していることが見て取れる。



グラフ 1：協働学習・コミュニケーションのための手段

選択式の質問には、4 件法の評価スケール⁷を用いた。以下、2022 年度の COIL-PBL 型交流活動を考えるうえで重要と思われる回答を記す。

・本プログラムへの参加目的は何か、という問いに対しては、東大側は英語力の向上(7 名中 5 名)が最も多く、次いで、国際交流、異文化理解 (3 名)、Caltech の学生との交流 (1 名) (複数回答可) であった。Caltech 側は日本語を使いたい (3 名)、友達を作りたい (2 名)、東京へ行ってみみたい (1 名) という回答であった。

・「このプログラムを通して、英語の能力が伸びたと思うか」、という問いに関する東大の学生 7 名の回答は、「とてもそう思う」2 名、「そう思う」5 名で、7 名全員がプログラム参加により英語力が伸びたと感じていることがわかった。また、「このプログラムを通して、日本語の能力が伸びたと思うか」、という問いに関する Caltech の学生 4 名からの回答も「とてもそう思う」2 名、「そう思う」2 名となっており、総じて、日米の学生にとって本プログラムへの参加がそれぞれの学習言語でのコミュニケーション能力の向上に役立ったという結果が出た。

・「この授業で日本文化・アメリカ文化への理解が深まったか」という問いには、回答者 11 名中 9 名が自国の文化も含めて、文化への理解が深まったと回答している。

・「この授業でコミュニケーション力が伸びたか」、という問いに対しては、1 名を除き、10 名がそう思う・とてもそう思うとの回答であった。

・「この授業に満足しているか」については、11 名全員がそう思う・とてもそう思うという回答であった。

⁷ 質問内容により「全然思わない・あまり思わない・そう思う・とてもそう思う」または「全然満足していない・あまり満足していない・満足している・とても満足している」からなるスケールを用いた。

・「この授業に参加してよかったことは何か」という問いに対しては、言語や文化を通しての学びがあった、異文化理解が深まったという声が聞かれたが、それ以上に交流の場がもてたという内容の回答が多く、「新しい友人ができた」と答えた学生が日米合わせて6名いた。一方、「残念に思うことは何か」という問いに対しては、日米ともにチーム以外の学生との交流の時間がほとんどなかったこと、対面ではなかったことという声が多かった。また、「時差が煩わしかった」という回答もあり、時差がピアラーニング上の負担になる学生もいることを改めて認識した。

以上で2021年度の活動報告を終える。今年度もコロナウィルスの影響を強く受けた活動となったが、学生から得たさまざまなフィードバックを通して、2022A セメスターに正式に単位化される本プログラムをよりよいものにできるよう努めたい。

第6章 研究活動・教材作成

工学系研究科日本語教室では、当教室の活動および日本語教育分野における研究の成果を広く周知し、今後の発展のために議論することを目指している。2021年度は前述したように、大学は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」により、対面授業を再開することができず、同期型授業を利用した授業を実施した。こうした状況変化の下、1章で述べた5つの目標を達成すべく日々実践を行ってきたが、こうした教育実践を振り返ることは重要である。本章では、まず、当教室で行っている教育活動に関する研究について述べる。次に、各教員が行った専門分野における実践・研究について記載する。最後に、ポストコロナにICTを利用した授業に対応すべくオンライン教材の作成について述べる。

6.1 日本語教室関連の研究活動と成果

尾辻恵美・熊谷由理・佐藤慎司（編）（2021）『ともに生きるために-ウエルフェア・リングイステイクスと生態学の視点からみることばの教育-』春風社

古市由美子「第7章 ウエルフェア・リングイステイクスを志向する「多言語おしゃべり会 International Café for You」の実践 ―言語生態学の視座から―」PP. 206-228

本稿は、日本語教室が主催し、留学生と日本人学生が参加する「International Café for You（以下 ICYou と記す）」の実態を明らかにし、ウエルフェア・リングイステイクスに基づくことばの教育としての可能性を示唆した。ICYou に参加した留学生と日本人学生のインタビューを分析した結果、第一に、ICYou はトランスランゲージング・スペースとして機能していることがわかった。今後はトランスランゲージング・スペースの意義をより明確にし、モノリンガルな学生に、ことばの多様性を理解するきっかけを与え、ことばに対する寛容性と柔軟性を身につける場として提供ができると考えている。また、多言語話者の学生には、言語資源を方略的に選択し、思考と理解を深め、ことばを磨く場として提供ができる。第二に、モノリンガルな言語規範の強い日本社会や言語環境下で、日本人大学生は自己の言語資源を柔軟に使用する経験を欠いている。マジョリティである日本人学生がモノリンガルな言語規範を緩和させ、留学生と対等で、寄り添った異文化コミュニケーションスキルを身につけることが重要である。ICYou は大学におけるウエルフェア・リングイステイクスの出発点として、モノリンガルでは得られない経験と学びを創出し、多文化多言語であるという現実に対する態度を養う一助となることが示唆された。

*現在、「International Café for You」は国際教育部門で「International Lounge」として開催しており（第4章参照）、2021年度はオンラインで実施した。

6.2 日本語教育の専門分野における実践・研究

本教室の教員による日本語教育の専門分野（第二言語習得研究、音声教育）に関する研究および実践の成果は下記の通りである。

遠藤直子・岡葉子・前坊香菜子（2021）「オンライン上の添削実践演習における教師間の協働的な学びの分析と評価」『情報コミュニケーション学会誌』16, pp.23-33.

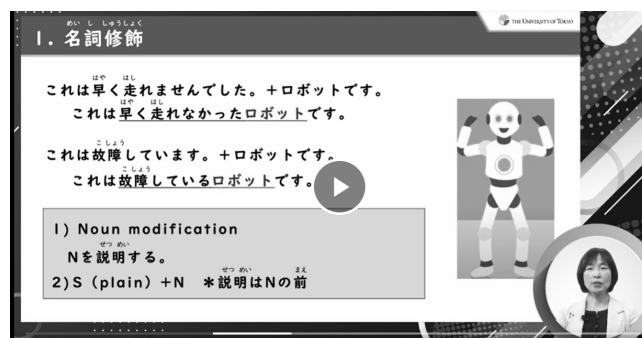
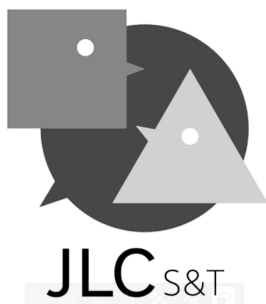
6.3 日本語教育関連の教材作成

2020 年度に開発した「中級 1 専門読解 SPOC (Small Private Online Course)」を今年度は大規模公開オンライン講座 (Massive Open Online Course) として、ロゴの作成、各課クイズ、総合クイズ、Discussion Forum、文型・表現の動画、それぞれ 12 課分を作成した。また、オリエンテーションの動画なども作成し、2022 年 4 月に part 1（1 課～6 課）が公開される予定である。

古市由美子「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology-1」

東京大学の研究内容に基づく科学技術に関する文章を読み、基礎的な専門読解語彙や重要な表現を習得しながら、読解力の向上を目指すものである。また、読解学習にとどまらず、テキスト動画やインタビュー動画、文型・表現動画を利用し、「聴く」「書く」「話す」といった連繋した力を養うことができる。

この MOOC は SPOC（猪狩美穂先生、内田あゆみ先生、片岡さゆり先生、米谷章子先生、ハワード文江先生、宮瀬真理先生、古市由美子）の一部を使用している。また、文型・表現動画は牛山和子先生にアドバイスをいただいた。ここに感謝の意を表する。



第7章 今後の課題

日本語教室の目的は、留学生・研究員が研生活と日常生活を円滑に行い、研究に集中できる環境づくりの一環として、1.日本語教育、2.日本文化事情教育の提供に加え、3.留学生と日本人学生の国際交流支援、4.日本人学生の国際化教育の推進、5.実践研究・教材開発を積極的に行うことである。

上記の目的の下、2021年度に実施した諸活動を振り返り、さらに充実した日本語教育などを実施するため、今後の課題について整理する。

7.1 日本語教育および日本文化事情教育

1) 授業形態およびカリキュラムの検討

今年度も昨年に引き続きオンライン授業を実施し、そのコンテンツも蓄積され、定着してきた。一方、この2年間、オンライン授業を実施する中で、対面で留学生が出会い、対話する場を失った。対面授業かオンライン授業かという二項対立ではなく、双方の良さを最大限に生かし、質の高い日本語教育をより効率的に実施するカリキュラムを考えていきたい。

2) PLT とコンサルテーションの検討

2010年より当教室が独自に開発したPLTを用いて、受講者のレベルを確定してきた。しかし、このPLTは、日本語能力試験を援用して作成しており、会話などのスキルを測ることができない。そのため、各コースの初回の授業でレベルチェッククイズを実施し、その結果によってはコース変更をしている。この2段階によるコース決定は、時間がかかるだけでなく、レベルが適切でない場合、常勤教員が実施するコンサルテーションに時間を要する。履修登録締め切り直前のコンサルテーションができないなどの課題を解決していきたい。

3) 講義室の確保

現在、日本語教室が独自で利用できるのは88M講義室のみであるが、88L講義室、123講義室は優先的に利用できる。324B、324C教室、第一会議室(132)、第二会議室(130)、701、722は、他の講義や会議のない場合に借りることができる。第一会議室(132)、第二会議室(130)は、学期途中の6月、7月は入試準備で使えない。対面を再開する際、教室が不足する可能性があるため、受講生の増加に合わせて、日本語教室が利用できる教室の確保が望まれる。

4) 日本文化事情教育の取り組みの検討

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で全く実施することができなかった。来年度は安全性を確保したうえで、対面での実施を検討することに加えて、オンライン活動の可能性も探していきたい。

7.2 留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進

今年度は、東京大学の「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、サマープログラムなどは中止になった。実施できたのは、IL (International Lounge)、スウェーデン王立大学体験活動、カリフォルニア工科大との COIL 型教育で、全てオンライン交流であった。対面からオンライン交流への変更は、国内にいなながらも海外協定校の学生とのディスカッション、共同プレゼンテーションなどを含む授業実施や活動が実施でき、国際交流のハードルを下げることもつながった。今後、国際交流の形態の多様化を創出するとともに、国際化教育の裾野を広げる可能性を提示したい。と同時に、対面での交流活動が段階的に復活することも見据え、新しい学生交流の在り方の検討が必要になる。

また、工学系研究科日本語教室は、海外協定校日本語教室とのネットワークを構築し、連携を深めてきたが、2 年間交換留学が中止になった。。今後は、交換留学を促進するため、海外協定校日本語教室を訪問し、協定校における教員・留学生の留学に関するニーズ調査研究を行い、ポストコロナにおける優秀な工学系の留学生のリクルートに繋げていきたい。

7.3 実践研究および教材開発

オンライン授業に伴いオンラインで配信できる教材開発が重要な課題である。前述したように、当教室では 2021 年度大規模公開オンライン講座 (MOOC) によるオンライン配信のための読解教材を開発し、2022 年度より配信の予定である。今後も継続的に、工学系に特化したオンライン教材を開発したい。さらに、授業をオンライン等で提供する場合、海外では教材が手に入らない場合等の問題もあり、当教室が今後開発していく教材のデジタル化の必要もある。しかし、開発には時間と労力が非常にかかり、通常の業務とともに実施するのは大変困難である。オンライン教材を開発するために、予算と人材を確保することが望まれる。

2021年度S1S2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学全学交換留学生

授業開講期間: 2021年4月5日～2021年7月30日

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから 3月15日～4月19日まで(入門コースのみ 6月15日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:15コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級Ⅰ(5コース:9コマ)
中級Ⅱ(6コース:9コマ) 中級Ⅲ(5コース:7コマ)、上級Ⅰ(6コース:8コマ)、上級Ⅱ(3コース:3コマ) 計32コース、63コマ

コース	対象	時間	担当	教材
入門 * 1コマ1単位 (6月8日～)	はじめて日本語を勉強する人	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	金 山口	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	火・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	宮瀬 金 ハワード	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1	はじめて日本語を勉強する人	月・金 8:30-10:15 水 10:25-12:10	岡 大西 猪狩	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B	日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A: 岡・中村 B: 金・藤井	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	内田 山口	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当	火・金 8:30-10:15	A: 鈴木・片岡 B: 中村 ハワード	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPTN5相当	火・金 10:25-12:10	A: 金・鈴木 B: 鈴木・猪狩	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A: 牛山・藤井 B: 佐藤・中村	『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	木 8:30-10:15	ハワード	『日本語集中トレーニング』(アルク)
中級1 会話A 中級1 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	月 8:30-10:15	A: 金 B: 佐藤	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)

中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 8:30-10:15	古市	自主教材
中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15	米谷	『みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	A: 岡 B: 大西	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』(スリーエーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級Ⅰ聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	大西	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』(スリーエーネットワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	A: 米谷 B: 佐藤	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	金 10:25-12:10	片岡	『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)
中級2 文章A 中級2 文章B	中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 8:30-10:15	A: 内田 B: 牛山	『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著 (アルク)
中級2 専門語彙・漢字	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 10:25-12:10	岡	自主教材
中級3 総合A 中級3 総合B	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	月 10:25-12:10	A: 牛山 B: 佐藤	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク) * テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 8:30-10:15	宮瀬	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク)
中級3 会話A 中級3 会話B	中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 8:30-10:15	A: 片岡 B: 牛山	自主教材
中級3 専門読解	中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材
中級3 文章	中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	ハワード	『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著 (アルク)

上級 日本組織事情	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市 本村	自主教材
上級1 総合A 上級1 総合B	中級3総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	金 8:30-10:15	A: 金 B: 岡	『30の物語 中上級 人物で学ぶ日本語』くろしお出版
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	水 10:25-12:10	片岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話A 上級1 会話B	中級3会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	A: 岡 B: 猪狩	『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	藤井	『大学・大学院 留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 10:25-12:10	猪狩	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級総合コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	水 10:25-12:10	藤井	自主教材
上級2 会話	上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	木 10:25-12:10	宮瀬	自主教材
上級2 文章	上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	火 10:25-12:10	岡	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情(4月21日～)	全レベル対象 (オンライン)	水 13:30-14:30	金 早坂	
International Lounge	全レベル対象 (オンライン)	金 12:10-13:10	牛山 岡 山畑	

*授業内容は変更の可能性あり

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:8コマ) 中級1(5コース:9コマ)、中級2(6コース:8コマ) 中級3(5コース:6コマ)、上級1(6コース:7コマ)、上級2(3コース:5コマ) 計32コース、61コマ

2021年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2021年4月5日～2021年7月30日

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから 3月15日～4月19日まで(入門コースのみ 6月15日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:15コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級1(5コース:9コマ)、中級2(6コース:9コマ) 中級3(5コース:7コマ)、上級1(6コース:8コマ)、上級2(3コース:3コマ) 計32コース、63コマ

	8:30 - 10:15	10:25 - 12:10	13:00 - 14:45	14:55 - 16:40
月	初級1 岡 中級1 会話A 金 中級1 会話B 佐藤	初級2A 岡 初級2B 金 中級3 総合A 牛山 中級3 総合B 佐藤		
火	インテンシブ初級Ⅰ 宮瀬 インテンシブ初級Ⅱ 内田 初級3A 鈴木 初級3B 中村 中級1 総合A 牛山 中級1 総合B 佐藤 中級1 文章 米谷 上級1 会話A 岡 上級1 会話B 猪狩		入門 [6/8-] 金	
水	インテンシブ初級Ⅰ 金 初級2A 中村 初級2B 藤井 中級2 総合A 岡 中級2 総合B 大西 中級3 会話A 片岡 中級3 会話B 牛山		ビジターセッション&日本事情 (オンライン 13:30-14:30) 金・早坂 [4/21-]	
木	インテンシブ初級Ⅱ 山口 中級1 聴解 ハワード 中級2 文章A 内田 中級2 文章B 牛山 中級3 聴解 宮瀬 上級1 読解 藤井		入門 [6/10-] 山口	
金	初級1 猪狩 初級3A 片岡 初級3B ハワード 中級1 専門読解 古市 上級1 総合A 金 上級1 総合B 岡	インテンシブ初級Ⅰ ハワード 初級4A 鈴木 初級4B 猪狩 中級2 読解 片岡	International Lounge (オンライン 12:10-13:10) 牛山・岡・山畑	

2021年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者
工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2021年10月4日～2022年1月28日(冬休み12月28日～1月3日)

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから 9月6日～10月15日まで(入門コースのみ 12月7日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位(「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級Ⅰ(5コース:9コマ)
中級Ⅱ(6コース:8コマ) 中級Ⅲ(5コース:7コマ)、上級Ⅰ(6コース:9コマ)、上級Ⅱ(3コース:3コマ) 計32コース、69コマ

コース	対象	時間	担当	教材
入門A 入門B * 1コマ1単位 (11月30日～)	はじめて日本語を勉強する人	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	A: 金・山口 B: 東平・牛山	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	火・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	宮瀬 金 ハワード	『大地Ⅰ メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)
初級1A 初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・金 8:30-10:15 水 10:25-12:10	A: 岡・大西・鈴木 B: 牛山・鈴木・猪狩	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級2A 初級2B	日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A: 岡・中村 B: 金・藤井	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
インテンシブ初級Ⅱ	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	内田 山口	『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)
初級3A 初級3B	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当	火・金 8:30-10:15	A: 片岡・ハワード B: 中村・片岡	『大地Ⅱ メインテキスト(L23-32)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
初級4A 初級4B	日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPTN5相当	火・金 10:25-12:10	A: 金・鈴木 B: 中村・猪狩	『大地Ⅱ メインテキスト(L33-42)』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 総合A 中級Ⅰ 総合B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A: 牛山・藤井 B: 佐藤・中村	『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55 第2版』(スリーエーネットワーク)
中級Ⅰ 聴解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	木 8:30-10:15	ハワード	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク), 『<テーマ別> 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社)
中級Ⅰ 会話A 中級Ⅰ 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	月 8:30-10:15	A: 金 B: 佐藤	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)

中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 8:30-10:15	古市	自主教材
中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15	米谷	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ 中級作文」(凡人社)
中級2 総合A 中級2 総合B	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	A: 岡 B: 大西	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第2版』(スリーエー ネットワーク) ※テキストは緑色の表紙
中級2 聴解	中級Ⅰ聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	大西	『留学生のためのアカデミック・ジャパ ニーズ聴解【中級】』(スリーエーネッ トワーク)
中級2 会話A 中級2 会話B	中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	A: 米谷 B: 佐藤	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上 級への日本語会話』(凡人社)
中級2 読解	中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	金 10:25-12:10	片岡	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする15のポイント)』 (凡人社)
中級2 文章	中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 8:30-10:15	内田	『改訂版・大学・大学院留学生の日本 語②作文編』アカデミック・ジャパ ニーズ研究会 編著 (アルク)
中級2 専門語彙・漢字	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 10:25-12:10	岡	自主教材
中級3 総合A 中級3 総合B	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	月 10:25-12:10	A: 牛山 B: 佐藤	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク) * テキストは水色の表紙
中級3 聴解	中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 8:30-10:15	宮瀬	『留学生のためのアカデミック・ジャパ ニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネッ トワーク)
中級3 会話A 中級3 会話B	中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 10:25-12:10	A: 片岡 B: 牛山	自主教材
中級3 専門読解	中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材
中級3 文章	中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	ハワード	『改訂版・大学・大学院留学生の日本 語②作文編』アカデミック・ジャパ ニーズ研究会 編著 (アルク)

上級 日本組織事情A	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市 本村	自主教材
上級 日本組織事情B	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 13:00-14:45	古市 本村	自主教材
上級1 総合A 上級1 総合B	中級3総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 13:00-14:45	A: 金 B: 岡	『30の物語 中上級 人物で学ぶ日本語』くろしお出版
上級1 聴解	中級3聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	水 8:30-10:15	片岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1 会話A 上級1 会話B	中級3会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 10:25-12:10	A: 岡 B: 猪狩	『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1 読解	中級3読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	藤井	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編 アルク
上級1 文章	中級3文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	猪狩	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2 総合	上級総合コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	水 10:25-12:10	藤井	自主教材
上級2 会話	上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	木 10:25-12:10	宮瀬	自主教材
上級2 文章	上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上	火 8:30-10:15	岡	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情 (10月20日～)	全レベル対象 (オンライン)	水 13:30-14:30	金 早坂	
International Lounge	全レベル対象 (オンライン)	金 12:10-13:10	牛山 岡 山畑	

*授業内容は変更の可能性あり

2021年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2021年10月4日～2022年1月28日(冬休み12月28日～1月3日)

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから 9月6日～10月15日まで(入門コースのみ 12月7日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:12コマ) 中級Ⅰ(5コース:9コマ)、中級Ⅱ(6コース:8コマ) 中級Ⅲ(5コース:7コマ)、上級Ⅰ(6コース:9コマ)、上級Ⅱ(3コース:3コマ) 計32コース、69コマ

	8:30 - 10:15	10:25 - 12:10	13:00 - 14:45	14:55 - 16:40
月	初級1A 岡 初級1B 牛山	初級2A 岡 初級2B 金		
	中級1 会話A 金 中級1 会話B 佐藤	中級3 総合A 牛山 中級3 総合B 佐藤		
火	インテンシブ初級Ⅰ 宮瀬		入門A [11/30-] 金 入門B [11/30-] 東平	
	インテンシブ初級Ⅱ 内田			
	初級3A 片岡 初級3B 中村	初級4A 金 初級4B 中村		
	中級1 総合A 牛山 中級1 総合B 佐藤			
	中級1 文章 米谷	中級2 会話A 米谷 中級2 会話B 佐藤		
	上級1 文章 猪狩	上級1 会話A 岡 上級1 会話B 猪狩		
	上級2 文章 岡			
水	インテンシブ初級Ⅰ 金		ビジターセッション&日本事情 (オンライン 13:30-14:30) 金・早坂 [10/20-]	
	初級2A 中村 初級2B 藤井	初級1A 大西 初級1B 鈴木		
	中級2 総合A 岡 中級2 総合B 大西	中級2 専門語彙漢字 岡		
		中級3 会話A 片岡 中級3 会話B 牛山		
	上級1 聴解 片岡	上級2 総合 藤井		
木	インテンシブ初級Ⅱ 山口		入門A [12/2-] 山口 入門B [12/2-] 牛山	
	中級1 聴解 ハワード	中級1 総合A 藤井 中級1 総合B 中村		
	中級2 文章 内田	中級2 聴解 大西		
	中級3 聴解 宮瀬	中級3 専門読解 内田		
	上級1 読解 藤井	中級3 文章 ハワード		
		上級 日本組織事情A 古市/本村 上級2 会話 宮瀬		
	上級 日本組織事情B 古市/本村 上級1 総合A 金 上級1 総合B 岡			
金	初級1A 鈴木 初級1B 猪狩	インテンシブ初級Ⅰ ハワード	International Lounge (オンライン 12:10-13:10) 牛山・岡・山畑	
	初級3A ハワード 初級3B 片岡	初級4A 鈴木 初級4B 猪狩		
	中級1 専門読解 古市	中級2 読解 片岡		

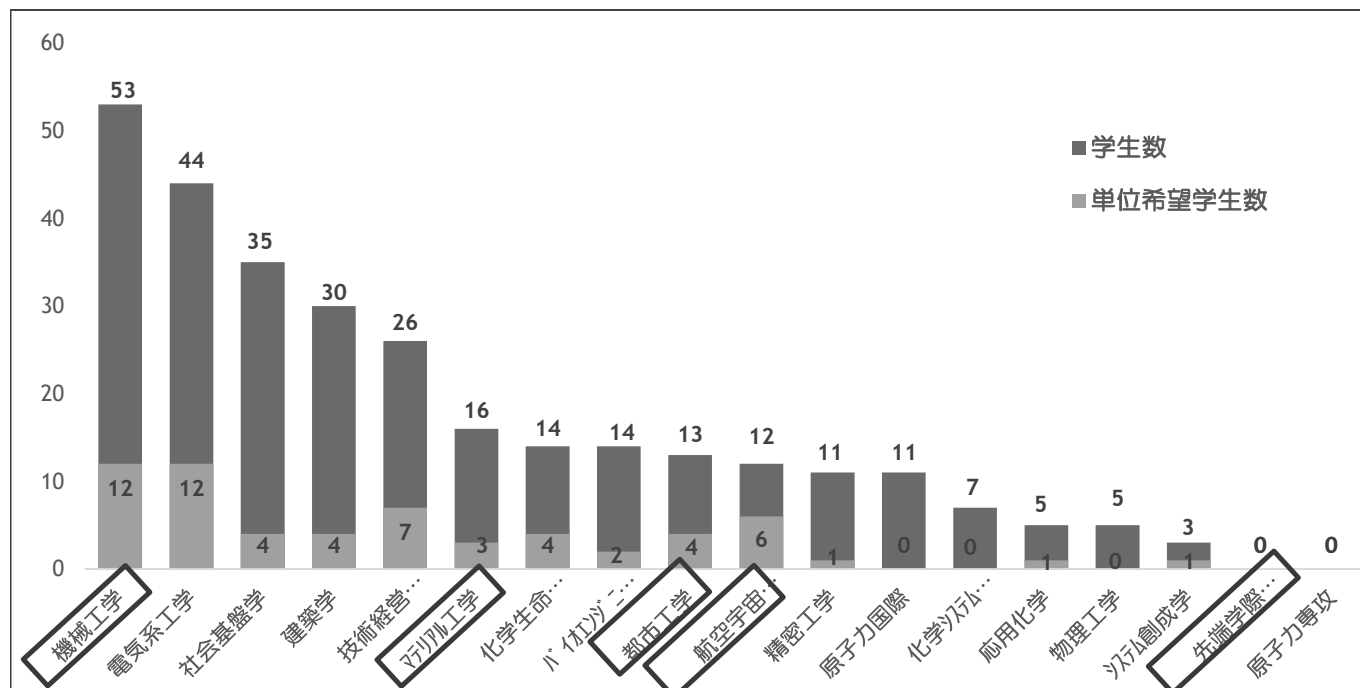
1. 2021年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
研究科	①工学系研究科	31	40	46	76	44	48	14	299(61)	204(49)
	②情報理工学系	8	10	17	8	13	7	2	65(18)	50(18)
研究科	③新領域創成科学研究科	4	4		10	6	5	1	30(10)	21(9)
	④他研究科									
	公共政策 大学院	2		3	5	1	2	4	17(5)	11(4)
	情報学環・学際情報学府	1			3	4	2	6	16(5)	13(4)
	農学生命科学研究科			1	2	4	4	1	12(6)	10(4)
	医学系研究科		3	1	2	3			9(2)	8(2)
	経済学研究科				1	1	4	1	7(0)	5(0)
	先端科学技術研究センター						5		5(0)	1(0)
	総合文化研究科						2	1	3(2)	3(2)
	理学系研究科		1		1				2(0)	2(0)
	④計	3	4	5	14	13	19	13	71(20)	53(16)
研究科	⑤USTEP	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計①～⑤	46(13)	58(13)	68(10)	108(23)	76(17)	79(20)	30(13)	465(109)	328(92)

2) 専攻別



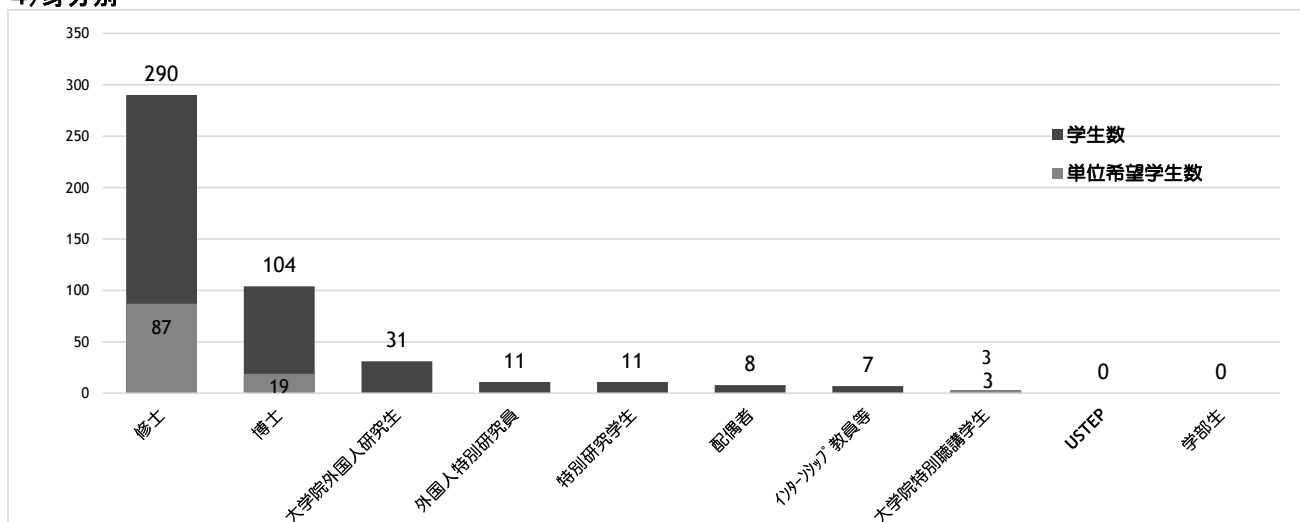
□ : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		27	30	35	62	53	58	25	290	216
2	インド		6	3	8	3	2			22	15
3	台湾		2	2		1	3	6	3	17	12
4	アメリカ合衆国		1	1	7	5	4		1	19	9
5	フランス		1	1		3	3			8	5
6	ベトナム		1	3	1					5	5
7	ブラジル					3		3		6	4
8	シンガポール			1		4				5	4
9	バングラデシュ		1	1		3				5	4
10	タイ		1		1		2			4	4
11	フィリピン		2	2						4	4
12	ドイツ				4	2		5		11	3
13	コロンビア				1	4	1			6	3
14	韓国		1	1				3		5	3
15	マレーシア			1	2					3	3
16	ロシア				2	6				8	2
17	カナダ					3	2			5	2
18	イタリア			1	2					3	2
19	インドネシア			1	2					3	2
20	イラン					2			1	3	2
21	ポルトガル					1	2			3	2
22	英国			2						2	2
23	サウジアラビア		1	1						2	2
24	* その他		2	7	3	6	4	4		26	18
合計			46	58	68	108	76	79	30	465	328

* その他(実数1名)：アイルランド、オーストラリア、カザフスタン、キリジャ、コソボ、ザンビア、スイス、チェコ、チュニジア、リ、トルコ、ベルギー、ポーランド、ボリビア、ミャンマー、モンゴル、ラトビア、ルーマニア

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	5	7	7	19
都市工	単位コース選択者	5	7	7	19
		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市総合A	合計
シス創	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:3/その他工学系:3/他研究科:3	都市工:6/その他工学系:2/他研究科:1	都市工:3/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:12/その他工学系:6/他研究科:5
	単位コース選択者	都市工:2/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:2/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:1/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:5/その他工学系:1/他研究科:3
IME		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系統解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室(学生内訳)	システム創成系:3/その他工学系:2/他研究科:0	システム創成系:1/その他工学系:1/他研究科:0	システム創成系:6/その他工学系:1/他研究科:3	システム創成系:10/その他工学系:4/他研究科:3
IME	単位コース選択者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1
		中級	上級	合計	
IME	IME日本語教室	IME:5 その他工学系:0	IME:1 その他工学系:0	IME:6 その他工学系:0	

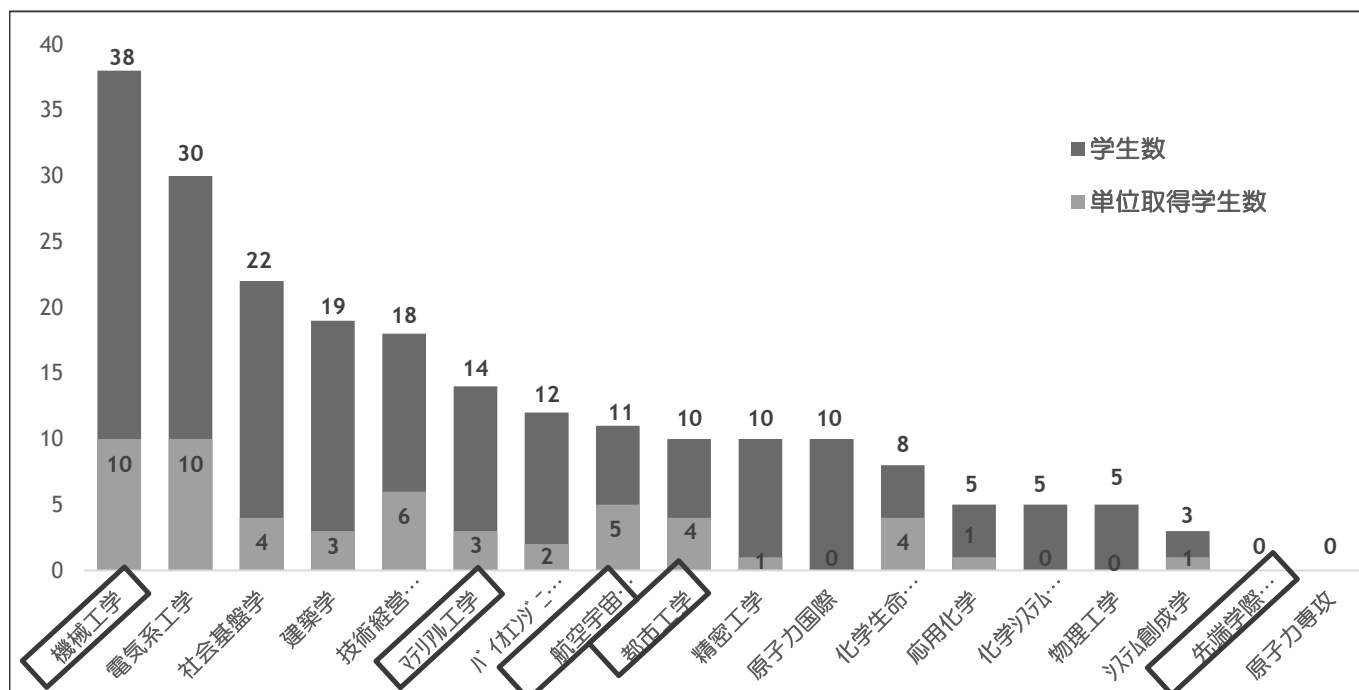
1. 2021年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科 \ レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		24	31	30	53	37	38	7	220(54)	159(45)
②情報理工学系		7	8	15	7	11	6	1	55(18)	45(18)
③新領域創成科学研究科		4	3		7	4	3	1	22(9)	17(8)
④他研究科	公共政策 大学院	2		1	5	1	1	2	12(4)	9(4)
	情報学環・学際情報学府	1			3	3	1	2	10(4)	9(4)
	農学生命科学研究科			1	1	2	2	1	7(6)	6(5)
	医学系研究科		3	1		2			6(2)	5(2)
	経済学研究科						3		3(0)	3(0)
	総合文化研究科						2		2(2)	2(2)
	理学系研究科		1		1				2(0)	2(0)
	④計	3	4	3	10	8	9	5	42(19)	36(17)
⑤USTEP									0	0
合計①～⑤		38	46	48	77	60	56	14	339(100)	257(88)

2) 専攻別



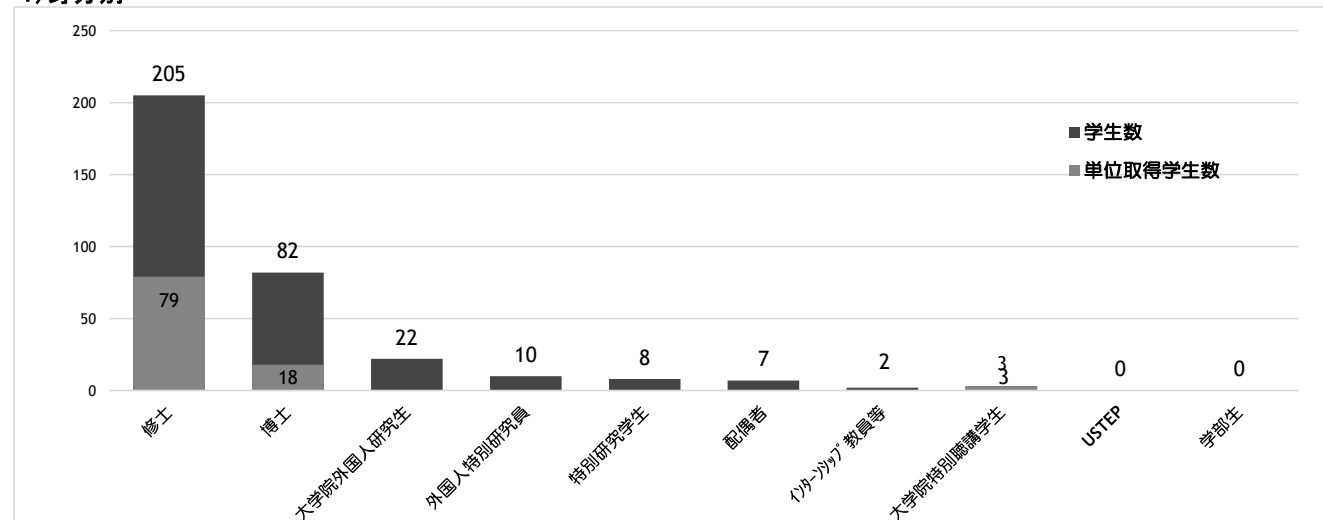
□ : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国		25	20	26	40	39	43	12	205	164
2	台湾		2	2		1	3	5	1	14	11
3	インド		3	2	4	2	3			14	10
4	アメリカ合衆国		1	1	5	5	4		1	17	8
5	ベトナム		1	3	1					5	5
6	フランス		1			3	3			7	4
7	ブラジル					3		3		6	4
8	シンガポール			1		4				5	4
9	タイ		1		1		2			4	4
10	フィリピン		2	2						4	4
11	コロンビア			1	4	1				6	3
12	マレーシア			1	2					3	3
13	ドイツ				4	2				6	2
14	カナダ					3	2			5	2
15	イタリア			1		2				3	2
16	韓国			1				2		3	2
17	バングラデシュ			1		2				3	2
18	ポルトガル					1	2			3	2
19	英国			2						2	2
20	サウジアラビア		1	1						2	2
21	* その他		1	7	1	8	2	3		22	17
合計			38	46	48	77	60	56	14	339	257

* その他(実数1名) : アイルランド、イラン、オーストラリア、カザフスタン、ギリシャ、ザンビア、スイス、チェコ、チリ、トルコ、ベルギー、ポーランド、ボリビア、ミャンマー、モンゴル、ラトビア、ルーマニア

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	3	7	7	17
都市工	単位取得者	3	7	7	17
		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市総合A	合計
シス創	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:3/その他工学系:1/他研究科:3	都市工:5/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:4/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:12/その他工学系:3/他研究科:5
	単位取得者	都市工:2/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:2/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:1/その他工学系:0/他研究科:1	都市工:5/その他工学系:2/他研究科:3
IME		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室(学生内訳)	システム創成系:3/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:1/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:3/その他工学系:0/他研究科:2	システム創成系:7/その他工学系:0/他研究科:2
IME	単位取得者	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1	システム創成系:0/その他工学系:0/他研究科:1
		中級	上級	合計	
IME	IME日本語教室	IME:5 その他工学系:0	IME:1 その他工学系:0	IME:6 その他工学系:0	

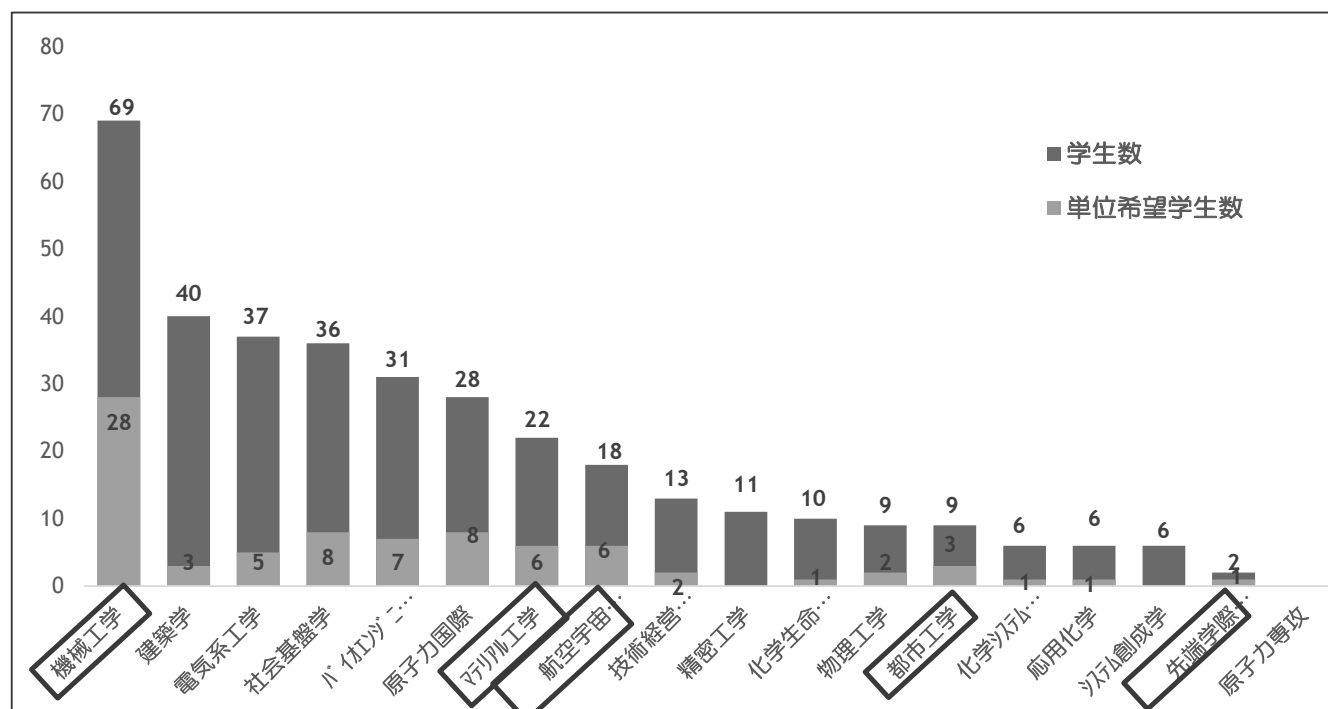
1. 2021年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
研究科										
①工学系研究科		59	43	72	56	43	59	21	353(82)	260(66)
②情報理工学系		16	9	11	9	4	8	2	59(17)	51(17)
③新領域創成科学研究科		4		13	1	7	12	2	39(17)	25(12)
④他研究科	公共政策 大学院	6	3	2	5	3	1	1	21(8)	17(8)
	情報学環・学際情報学府	2	2		4	3	2		13(6)	10(5)
	農学生命科学研究科			1	1	2	4	1	9(3)	8(2)
	医学系研究科			6	1		1		8(5)	5(2)
	理学系研究科	1			3	1			5(0)	3(1)
	総合文化研究科						2		2(2)	1(1)
	教育学研究科						1		1(1)	1(1)
	薬学系研究科						1		1(1)	1(1)
	④計	9	5	9	14	9	12	2	60(26)	46(21)
⑤USTEP				2			3		5(5)	5(5)
合計①～⑤		88(31)	57(13)	107(25)	80(19)	63(23)	94(32)	27(4)	516(147)	387(121)

2) 専攻別



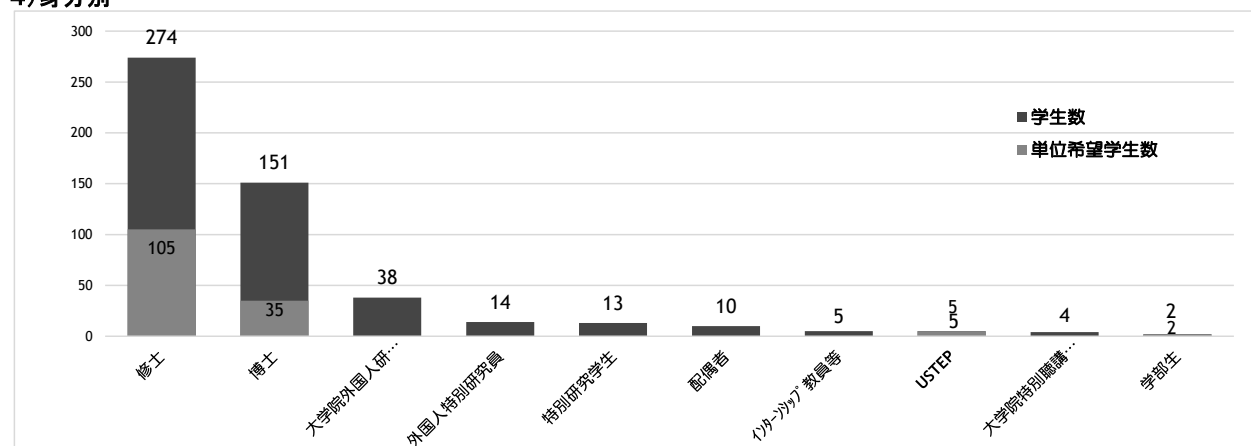
□: 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
1	中国		43	34	46	29	52	70	20	294	230
2	インド		12	5	5	4				26	21
3	台湾		2	5		5	1	6		19	14
4	アメリカ合衆国		1	3	2	7		1		14	8
5	タイ		2	1	6	1		2		12	9
6	韓国		1					5	4	10	6
7	カナダ		2			6	1	1		10	6
8	インドネシア		4	1		4				9	7
9	ベトナム		1	1	4	1		1		8	6
10	フィリピン		2	1	5					8	6
11	ブラジル		2		2		1	1		6	5
12	コロンビア		1		5	2				8	4
13	オーストラリア				2	4	2			8	3
14	シンガポール		2		3	4	2			11	6
15	フランス			1	4			1		6	4
16	ドイツ				1	4	1			6	3
17	マレーシア				2	3				5	4
18	ペルー		1	1				2	1	5	3
19	トルコ		1		4					5	2
20	バングラデシュ		1		3					4	4
21	ポルトガル		1			1	1	1		4	3
22	サウジアラビア			3						3	3
23	イラン		1				2			3	2
24	スペイン		1			1				2	2
25	英国				2					2	2
26	チリ		2							2	2
27	香港							1	1	2	2
28	日本				1			1		2	2
29	* その他		5	1	10	4		1	1	22	18
合計			88	57	107	80	63	94	27	516	387

* その他(実数1名): アイルランド、アルゼンチン、イスラエル、イタリア、エクアドル、カザフスタン、ギリシャ、ジョージア、スイス、ニュージーランド、バレーン、ポーランド、ボリビア、メキシコ、モンゴル、ラトビア、ルーマニア、レバノン

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基		初級1A	初級1B	初級2	合計	
	社会基盤学	9	9	5	23	
	単位コース選択者	8	9	5	22	
都市工		初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	中級Ⅰ都市会話B	合計	
	都市工学日本語教室 (学生内訳)	都市工:9 その他工学系:4 他研究科:1	都市工:3 その他工学系:1 他研究科:4	都市工:2 その他工学系:3 他研究科:0	都市工:14 その他工学系:8 他研究科:5	
	単位コース選択者	都市工:6 その他工学系:1 他研究科:0	都市工:3 その他工学系:0 他研究科:1	都市工:0 その他工学系:0 他研究科:0	都市工:9 その他工学系:1 他研究科:1	
シス創		初級Ⅰ-1	初級Ⅰ-2	初級Ⅱ	中級Ⅱ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室 (学生内訳)	システム創成系:2 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:2 その他工学系:1 他研究科:0	システム創成系:2 その他工学系:5 他研究科:1	システム創成系:3 その他工学系:1 他研究科:0	システム創成系:5 その他工学系:6 他研究科:1
	単位コース選択者	システム創成系:1 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:1 その他工学系:0 他研究科:0
IME		中級	上級	合計	*初級は複数コース受講者有り、合計は実人数	
	IME日本語教室	IME:1 その他工学系:1 他研究科:0	IME:4 その他工学系:0 他研究科:0	IME:5 その他工学系:1 他研究科:0		

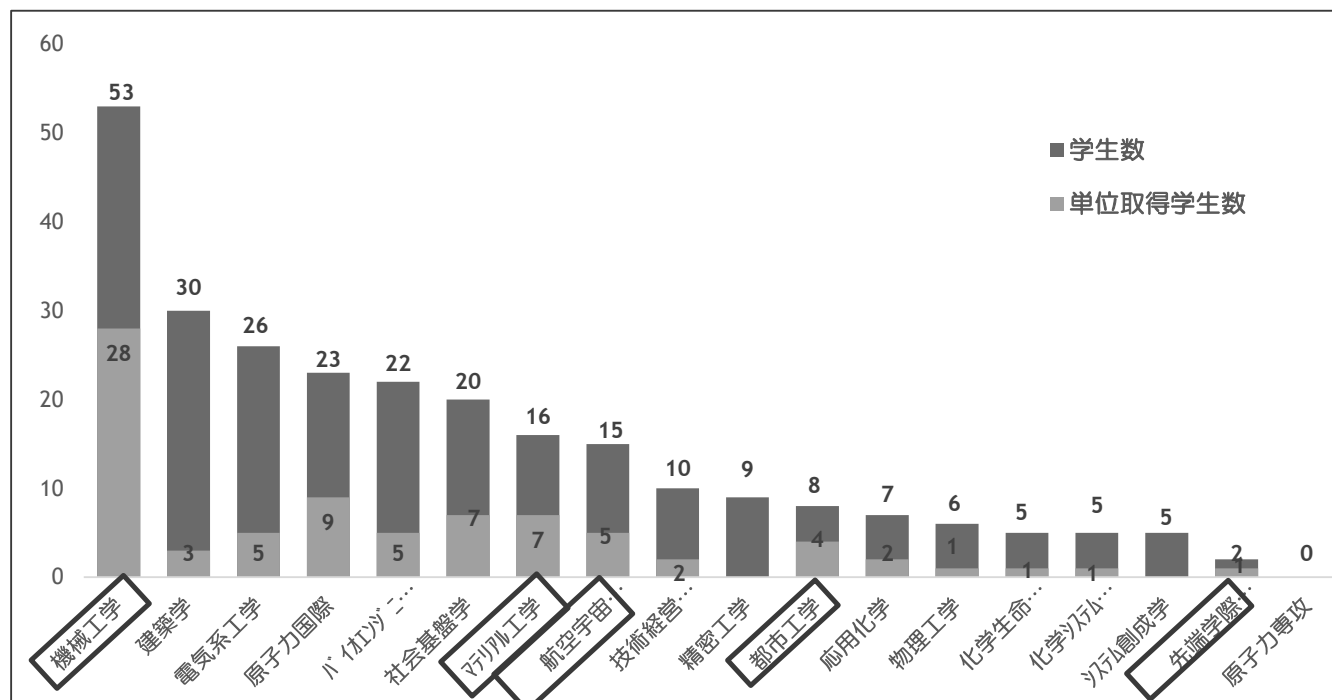
1. 2021年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科 \ レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		45	28	59	48	37	38	7	262(81)	204(67)
②情報理工学系		13	7	11	8	4	7	1	51(19)	43(19)
③新領域創成科学研究科		4		12	2	3	10	1	32(20)	21(13)
④他研究科	公共政策 大学院	6	2	1	3				12(8)	12(8)
	情報学環・学際情報学府	2	2		4	2	2		12(6)	10(6)
	農学生命科学研究科			1		1	4		6(4)	5(3)
	医学系研究科			4	1		1		6(4)	4(2)
	理学系研究科	1		1	3	1			6(1)	3(1)
	総合文化研究科						2		2(2)	1(1)
	教育学研究科						1		1(1)	1(1)
	薬学系研究科						1		1(1)	1(1)
	④計	9	4	7	11	4	11	0	46(27)	37(23)
⑤USTEP				2			3		5(5)	5(5)
合計①～⑤		71	39	91	69	48	69	9	396(152)	310(127)

2) 専攻別



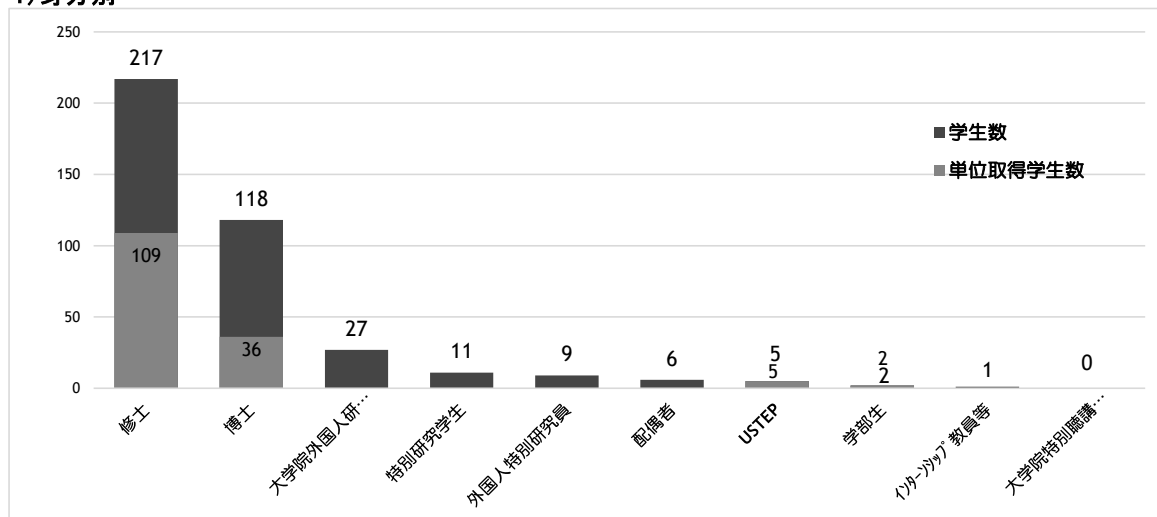
単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
1	中国	39	25	37	25	38	50	7	221	189
2	台湾	2	4	1	5	1	5		18	13
3	インド	8	1	5	1				15	12
4	タイ	2	1	4	1		1		9	8
5	シンガポール	2		3	4	2			11	6
6	カナダ	2			6	1	1		10	6
7	アメリカ合衆国		2	2	6				10	5
8	フィリピン	2	1	4					7	5
9	ブラジル	2		2		1	1		6	5
10	コロンビア	1		5	2				8	4
11	韓国	1					5		6	4
12	フランス		1	3			1		5	4
13	インドネシア	2	1		2				5	4
14	オーストラリア			2	4	2			8	3
15	ベトナム			4	1				5	3
16	ペルー	1	1				2	1	5	3
17	ドイツ			1	4				5	3
18	マレーシア			2	2				4	3
19	ポルトガル	1			1	1	1		4	3
20	バングラデシュ	1		2					3	3
21	トルコ	1		3					4	2
22	英国			2					2	2
23	チリ	1	1						2	2
24	日本			1			1		2	2
25	*その他	3	1	8	5	2	1	1	21	16
合計		71	39	91	69	48	69	9	396	310

*その他(実数1名)：アルゼンチン、イスラエル、イタリア、イラン、カザフスタン、ギリシャ、サウジアラビア、ジョージア、スイス、スペイン、ニュージーランド、ハーレーン、ホーランド、ホルandia、ラトビア、香港

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社基		初級1A	初級1B	初級2	合計
	社会基盤学	8	9	5	22
都市工	単位コース選択者	8	9	5	22
	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工:7 その他工学系:3 他研究科:1	都市工:2 その他工学系:0 他研究科:3	都市工:1 その他工学系:3 他研究科:0	都市工:10 その他工学系:6 他研究科:4
シス創	単位コース選択者	都市工:4 その他工学系:1 他研究科:0	都市工:2 その他工学系:0 他研究科:1	都市工:1 その他工学系:1 他研究科:0	都市工:7 その他工学系:2 他研究科:1
	システム創成日本語教室(学生内訳)	システム創成系:2 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:2 その他工学系:1 他研究科:0	システム創成系:2 その他工学系:5 他研究科:1	システム創成系:2 その他工学系:1 他研究科:0
IME	単位コース選択者	システム創成系:1 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0	システム創成系:0 その他工学系:0 他研究科:0
	IME日本語教室(学生内訳)	IME:1 その他工学系:1 他研究科:0	IME:4 その他工学系:0 他研究科:0	IME:5 その他工学系:1 他研究科:0	

*初級は複数コース修了者有り。
合計は実人数。

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

聞く		話す		
初	1	相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる	1	あいざつができる
1	2	物の値段が聞いてわかる	2	名前・出身地・専攻・研究室名を言うことができる
2	3	日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる	3	今日の予定や昨日したことを言うことができる
3	4	ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる	4	自己紹介をした後の質問に答えられる
4	5	物や建物の場所が聞いてわかる	5	物や建物の場所を聞くことができる
初	6	電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる	6	日常生活・家族について話すことができる
2	7	友達に誘われた時、聞いてわかる	7	友だちに誘ったり、誘われた時の返事ができる
初	8	時間や場所を問い合わせた時、答えが聞ける	8	大学の窓口で質問ができる
3	9	大学の窓口に必要な説明が聞いてわかる	9	遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる
3	10	駅や空港のアナウンスで必要なことが聞ける	10	自分の部屋や研究室、町の描写ができる
4	11	身近な話題に関する意見が聞いてわかる	11	身の回りの変化について話すことができる
初	12	身近な人からの電話の用件が聞いてわかる	12	自分の仕事・専門・趣味について説明できる
4	13	日常の話題において出された提案が聞いてわかる	13	研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる
12	14	緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる	14	図や表の説明ができる
中	15	天気予報が聞いてわかる	15	自己紹介の場面で敬語が使える
1	16	電話の録音メッセージが聞いてわかる	16	授業で先生に質問ができる
16	17	研究室・クラブ活動での指示・説明が聞ける	17	実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる
17	18	大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる	18	友達や教員にアドバイスを求めることができる
中	19	専門的なプレゼンテーションの要点がわかる	19	研究室の人や友達と雑談ができる
2	20	研究室のミーティングの内容が聞いてわかる	20	ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる
20	21	アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる	21	研究計画などを論理的に話すことができる
21	22	専門の授業全体の流れが聞いてわかる	22	大学の教職員に質問したり、説明することができる
中	23	研究に関する指導教員のコメントが聞ける	23	ゼミで発表することができる
23	24	テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる	24	ニュースの要旨を話すことができる
3	25	ゼミの発表が聞ける	25	講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる
25	26	ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる	26	初対面の人と雑談することができる
26	27	就職などの面接で質問されたことがわかる	27	就職などの面接で質問に適切に答えることができる
上	28	歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる	28	歓迎会など公式の場でスピーチができる
1	29	自分の専門分野の学会発表や講演が理解できる	29	自分の専門分野の学会でのディスカッションで意見が言える
29	30	自分の専門分野での話題での議論を聞いて理解できる	30	会議や打ち合わせで意見をまとめたり進行役を務めたりできる
30	31	抽象的で複雑な内容を聞いて要点がわかる	31	母語話者同士の活発な会話に積極的に参加できる
上	32	くだけた表現から改まった表現まで幅広くスタイルが変化する話を聞いて問題なく理解できる	32	学会で口頭発表と質疑応答が適切にできる
32	33	専門外の分野の学会発表や講演を聞いて問題なく理解できる	33	フォーマルな会議やシンポジウム等で意見をとりまとめたり進行役を適切に務めたりできる
33	34	専門外の分野の話題での活発な議論を聞いて問題なく理解できる	34	自分の専門外の話題の議論で流暢かつ正確に意見を言うことができる

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0:できない 1:少しできる 2:よくできる)

読む		書く	
1	ひらがなを読むことができる	1	ひらがなを書くことができる
2	日本語で書かれた自分の名前がわかる	2	自分の名前をカタカナで書くことができる
3	ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3	今日のスケジュールを書くことができる
4	日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4	自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる
5	日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5	自宅と大学の住所を漢字で書くことができる
6	スケジュール変更のお知らせがわかる	6	自分の国や自分の紹介を書くことができる
7	駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7	簡単なメッセージのメモを書くことができる
8	研究室・実験室の注意書きがわかる	8	趣味や得意なことについて書くことができる
9	駅・銀行・大学の案内表示がわかる	9	自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる
10	カード・はがきが読んでもわかる	10	カード・はがきなどを書くことができる
11	広告・チラシがわかる	11	日本語で日記を書くことができる
12	友達からのテキストメッセージが読んでもわかる	12	友達にテキストメッセージを書くことができる
13	自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる	13	打ち合わせで、メモを書きとることができる
14	易しい科学技術／専門の文章がわかる	14	履歴書を書くことができる
15	事務からの書類が読んでもわかる	15	事務的な書類に必要なことを記入することができる
16	身近な人からの電子メールが読んでもわかる	16	お礼の手紙を手書きで書くことができる
17	公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17	奨学金の申請書類に記入することができる
18	漫画のストーリーがわかる	18	身近な人に電子メールを書くことができる
19	板書が見てわかる	19	講義を聞いて、ノートをとることができる
20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)がわかる	20	ゼミの発表資料(PPTスライド・レジュメ)を書くことができる
21	論文の要旨が読んでもわかる	21	推薦状の依頼書を書くことができる
22	大学内の掲示板が見てわかる	22	論文の要旨を書くことができる
23	専門に関する資料の内容がわかる	23	研究計画書を書くことができる
24	ニュースレター・メールマガジンが読める	24	授業のレポートを書くことができる
25	映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25	プレゼンの発表原稿を書くことができる
26	研究会や会議の報告書が読める	26	状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる
27	パソコンや携帯電話の説明書(マニュアル)がわかる	27	就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる
28	WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28	研究会や会議の報告書を書くことができる
29	論文・専門書が読んでもわかる	29	抽象的な内容についてある程度まとまった長さの意見文が書ける
30	一般的な内容の新聞・雑誌・書籍が読んでも理解できる	30	フォーマットにしたがって、さまざまな用途の通信文(メール等)が書ける
31	専門外の記事や論文の概要を理解できる	31	関心のある作品や文献の批評文が書ける
32	専門書を含む幅広い書籍や論文を読み、その背景や意見を問題なく読み取ることができる	32	場面や受け手、内容に合わせて適切な文体を使い、フォーマルからインフォーマルまで幅広い通信文(メール等)が書ける
33	様々な通信文・通知文を読み、問題なく理解できる	33	研究の助成金等の申請書を書くことができる
34	複雑な内容の契約書、就業規則などを正確に読み取ることができる	34	学術論文や長い説明文が書ける

2021 言語背景調査 Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：☐研究生 ☐修士 ☐博士 ☐研究員 ☐交換留学生 ☐USTEP ☐学部生 ☐配偶者 ☐その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定 日本で就職する/日本で進学する/帰国する/分からない
6. 現在、JLCSE 以外では、どのような形態で授業をしていますか。
☐オンライン授業のみ ☐オンライン授業と対面授業 ☐対面授業のみ ☐その他
7. 「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
8. 東京大学でどのくらい勉強する予定ですか。
☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
9. 日本語学習歴(自国)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
10. 日本語学習歴(日本)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
11. 現在取っている科目のレベル
☐初級Ⅰ（入門・初級1・初級2・インテシブ初級Ⅰ）☐初級Ⅱ（初級3・初級4・インテシブ初級Ⅱ）☐中級1 ☐中級2 ☐中級3 ☐上級1 ☐上級2
12. 指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
13. 日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
14. 留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
15. 指導教官との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
16. 日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
17. 留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
18. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
19. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
20. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
21. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
☐全く求めていない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
22. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
☐全く目指していない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
23. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
24. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
25. どんな場面があるか、具体的に書いてください。

26. 日本にいる学生は答えてください：大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますが、どんな場面か具体的に書いてください。

☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある

2021 年度 S1S2 学期コース Japanese Language Class Questionnaire 評価

このアンケートは、日本語プログラム/コースの評価のためのものです。回答結果は、日本語教室の報告書に掲載します。回答の内容によって成績は変わりません。また個人が特定される情報は公開しません。御協力をお願いいたします。

1. 身分 :

- | | まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う | | |
|--|--|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| 2. コースおよび授業内容について、質問 2～8 に答えて下さい。
コースの目標は明確だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 3. 授業のスピードは適切だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 4. 授業内容は分かりやすかった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 5. 授業の課題の量はどうか。 | 多すぎる
1 | 適切である
2 | 少ない
3 | 課題が出ていない
4 | | |
| | まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う | | |
| 6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 7. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 8. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 9. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。 | まったく予習・復習しなかった
1 | 1 時間未満
2 | 1～2 時間
3 | 2～3 時間
4 | 3～5 時間
5 | 5 時間以上
6 |
| 10. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。 | | | | | | |
| 11. このコースについて自由にコメントして下さい。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど) | | | | | | |
| 12. オンライン授業に満足していますか。 | まったく満足していない/あまり満足していない/そこそ満足している/ 非常に満足している | | | | | |
| 13. No. 12 で「あまり満足していない」や「まったく満足しない」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。 | | | | | | |
| 14. 2021A1A2 学期の授業形態は対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思いますか。 | 対面授業/オンライン授業/対面授業とオンライン授業のミックス | | | | | |
| 15. オンライン授業の形式はどれがいいと思いますか。 | 音声や映像配信を用いたオンデマンド型授業/Zoom を用いたリアルタイム型授業/オンデマンド型授業とリアルタイム型授業のミックス | | | | | |
| 16. オンライン授業で困っていることは何ですか。該当する項目をすべて選んでください。 | 先生に質問しにくい/集中力が続かない/授業支援ツールの使い方がわからない/通信に問題がある/授業教材がわかりにくい/発言が少ない/孤独感を感じる/その他 | | | | | |
| 17. No. 16 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。 | | | | | | |

2021 年度 S1S2 学期コース Japanese Language Class Questionnaire 評価

18. オンライン授業のいい点は何ですか。該当する項目をすべて選んでください。

先生に質問しやすい/自分のペースで学習ができる/教室より集中できる/学校に行かず時間を有効に使える/教材がわかりやすい
/IT の知識やスキルが高まる/その他

19. No. 18 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。

20. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えて下さい。

履修登録の手続きは分かりやすかった。

まったく思わない あまり思わない そう思う 強くそう思う

1 2 3 4

21. No. 20 で 1 または 2 を選んだ人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。

22. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた。

まったく思わない あまり思わない そう思う 強くそう思う

1 2 3 4

23. プレイスメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など)

24. 日本語教室 (JLCSE) の Zoom Office を利用しましたか？

利用した/利用しなかった

25. No. 24 で「利用した」と答えた人は、どんなことに利用しましたか。

コースの登録/試験のフィードバック/日本語の質問/その他

26. No. 25 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。

27. No. 24 で「利用しなかった」と答えた人は、どうして利用しませんでしたか。

時間があわなかった/質問がなかった/Zoom office を 知らなかった/その他

28. No. 27 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。

29. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目をすべて選んでください。

日本語学習/日本文化体/日本人学生との交流/大学生活・就職などの日本語支援/その他

30. No. 29 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。

2021S1S2 JLCSE on-line コース アンケート

新型コロナウイルスの拡大に伴い、JLCSE では on-line コースを準備しています。準備期間中、オンライン授業を受講する学生の現状（パソコンだけでなく、授業に必要なものすべて）を調査します。アンケートにご回答いただき、状況をお聞かせください。 アンケートへの回答は、原則的にクラスの準備のためだけに使用しますが、授業の準備のために必要に応じて匿名処理した後、大学内で情報を共有する場合があります。

1. 名前：
2. ニックネーム
3. メールアドレス
4. U-Tokyo アカウントを持っていますか。
はい いいえ わかりません
5. このコースで単位を取得しますか。
はい いいえ まだわかりません
6. どこから授業を受けますか。国の名前を書いてください。（例：日本）
7. どんな環境で授業を受けますか。場所を選んでください。
自宅 研究室（東大） ラウンジ（東大） その他
8. Zoom（online ミーティングアプリケーション）を使ったことがありますか。
はい いいえ
9. Zoom クラスでどんなデバイスを使う予定ですか。（パソコンを使うことを推奨します）
パソコン タブレット 携帯電話 その他
10. 授業参加時のインターネット環境はどれですか。
LAN Wi-Fi Network ポケット Wi-Fi その他
11. Google のサービス（例：Google ドキュメント、Google forms）にアクセスすることができますか。
はい いいえ



オンライン 学生授業ボランティア 募集中!

工学系研究科日本語教室では、留学生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。工学系研究科日本語教室には、初級から上級までさまざまな日本語コースがあり留学生が日本語を学んでいます。

主 催： 大学院工学系研究科日本語教室
活動期間： 2021年4月13日 ～ 7月30日
活動場所： オンライン (Zoomを使用)
活動頻度： 週1コマ(105分)～
募集人数： 15名程度
活動内容： 入門～上級のオンライン日本語クラスに参加して、グループワークや会話・ディスカッションのサポートをします。詳しくは右上のQRコードからJLCSEのホームページをご覧ください。

学生授業ボランティアお問い合わせ先
工学系研究科日本語教室 工学部8号館128B教室
 ✉ nihongo@jlcse.tu-tokyo.ac.jp ☎ 03-5841-8826

2021A1A2 授業ボランティアは「体験活動プログラム」からの参加者が 12 名（1 名キャンセル）あったため公開募集は行わなかった。

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS

International Lounge



インターナショナルラウンジ

online

Every Friday
12:10-13:10

(2021 A1A2 Nov 5-Jan 28)
オンラインで開催します。

Want to make
international friends?
Want to enjoy a
multilingual atmosphere?
Want to learn about
other cultures?
Come join us now!

アクセスはこちらから！
@g.ecc.u-tokyo.ac.jpのメールアドレス
でアクセスしてください。



工学系研究科国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com

インターナショナルな友達欲しい？
多言語交流を楽しみたい？
他文化を学びたい？
さあ今すぐ！へ！



東京大学
The University of Tokyo



SCHOOL OF ENGINEERING
THE UNIVERSITY OF TOKYO

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS

International Lounge



インターナショナルラウンジ

online

Every Friday
12:10-13:10

(2021 S1S2 May 7-July 16)
オンラインで開催します。

Want to make
international friends?
Want to enjoy a
multilingual atmosphere?
Want to learn about
other cultures?
Come join us now!

アクセスはこちらから！
@g.ecc.u-tokyo.ac.jpのメールアドレス
でアクセスしてください。



工学系研究科国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com



東京大学
The University of Tokyo



SCHOOL OF ENGINEERING
THE UNIVERSITY OF TOKYO

執筆・編集者

教授	古市	由美子
特任准教授	牛山	和子
特任助教	岡	葉子
	金	瑜眞
事務補佐員	早坂	美和子
	山畑	めぐみ

執筆者

非常勤講師	猪狩	美保
	内田	あゆみ
	大西	由美
	片岡	さゆり
	米谷	章子
	佐藤	瑞恵
	鈴木	恵理
	中村	亜美
	ハワード	文江
	藤井	明子
	宮瀬	真理
	山口	真紀

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 報告書 2021 年度

発 行 日：2022 年 3 月 31 日

編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構
国際教育部門

発 行 責 任 者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

E-mail：nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
